一般国道157号線鶴来バイパス改築工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

松任市

末松遺跡群Ⅰ

2004

石川県教育委員会
(財) 石川県埋蔵文化財センター

末松遺跡群Ⅰ

２００４

石川県教育委員会
（財）石川県埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は末松遺跡群木津遺跡の第１・２次発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は松任市の木津町地内である。

3　調査原因は国道157号鶴来バイパスであり、同事業を所管する建設省北陸地方建設局金沢工事事務所(現 国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は石川県立埋蔵文化財センター(以下県立埋文センター)が、昭和59(1984)年度から昭和61(1986)年度にかけて現地調査・出土品整理を実施した。平成14年度から平成15年度にかけて財団法人石川県埋蔵文化財センターが出土品整理・報告書刊行を実施した。

5　調査に係る費用は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所が負担した。

6　現地調査は昭和59・60(1984・1985)年度に実施した。期間・面積・担当者は下記のとおりである。

第１次調査

期　間　昭和59(1984)年５月21日～昭和59(1984)年11月29日

面　積　3,000㎡

担当者　西野秀和(主事)、三浦純夫(主事)

第２次調査

期　間　昭和60(1985)年７月17日～昭和60(1985)年12月14日

面　積　1,125㎡

担当者　米沢義光(主事)

7　出土品整理は昭和59年から昭和61年に県立埋文センターが石川県埋蔵文化財協会に委託して行った。平成14・15年度には財団法人石川県埋蔵文化財センターが行った。

8　図版編集の一部を(株)セビアスに委託して行った。

9　報告書の刊行は平成15(2003)年度に実施し、調査部調査第１課が担当した。本書の執筆は第１章を布尾和史(調査部調査第１課主任主事)が、そのほかの部分の執筆と編集は柿田祐司(調査部調査第１課主任主事)が行った。

10　調査には下記の機関、個人の協力を得た。

国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所、松任市教育委員会、北野博司

11　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

12　本書についての凡例は下記のとおりである。

(1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。

(2) 水平基準は海抜高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。

(3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

(4) 遺物実測図については須恵器の断面は黒塗り、内黒土器はアミ、赤彩土器はドットで示した。

目　　次

第１章　位 置 と 環 境 …… 1

第２章　調査の経緯 …… 4

第１節　調査にいたるまで …… 4

第２節　第１次調査 …… 4

第３節　第２次調査 …… 4

第３章　調 査 の 概 要 …… 6

第１節　グリッドの設定 …… 6

第２節　第１次調査 …… 6

第３節　第２次調査 …… 6

第４章　遺 構 と 遺 物 …… 7

第１節　遺　　構 …… 7

第２節　遺　　物 …… 48

第３節　土器の胎土分類と分析 …… 74

第４節　小　　結 …… 83

挿図目次

第１図　木津遺跡の位置 …… 1

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（S＝1/25,000） … 2

第３図　調査された末松遺跡群（S＝1/5,000） … 5

第４図　グリッド設定図（S＝1/1,000） …… 6

第５図　遺構全体図（S＝1/500） …… 8

第６図　遺構平面図分割範囲図 …… 12

第７図　遺構平面図１（S＝1/100） …… 13

第８図　遺構平面図２（S＝1/100） …… 14

第９図　遺構側別図１（S＝1/60・40） …… 15

第10図　遺構平面図３（S＝1/100） …… 16

第11図　遺構側別図２（S＝1/60） …… 17

第12図　遺構側別図３（S＝1/60） …… 18

第13図　遺構側別図４（S＝1/40） …… 19

第14図　遺構平面図４（S＝1/100） …… 20

第15図　遺構側別図５（S＝1/100） …… 21

第16図　遺構平面図５（S＝1/100） …… 22

第17図　遺構側別図６（S＝1/40） …… 23

第18図　遺構側別図７（S＝1/40・60） …… 24

第19図　遺構側別図８（S＝1/40） …… 25

第20図　遺構平面図６（S＝1/100） …… 26

第21図　遺構側別図９（S＝1/40） …… 27

第22図　遺構平面図７（S＝1/100） …… 28

第23図　遺構平面図８（S＝1/100） …… 29

第24図　遺構側別図10（S＝1/40） …… 30

第25図　遺構側別図11（S＝1/40） …… 31

第26図　遺構平面図９（S＝1/100） …… 32

第27図　遺構平面図10（S＝1/100） …… 33

第28図　遺構側別図12（S＝1/60） …… 34

第29図　遺構側別図13（S＝1/40・60） …… 35

第30図　遺構平面図11（S＝1/100） …… 36

第31図　遺構個別図14（S＝1/60）……37
第32図　遺構平面図12（S＝1/100）……38
第33図　遺構個別図15（S＝1/80）……39
第34図　遺構平面図13（S＝1/100）……40
第35図　遺構個別図16（S＝1/60）……41
第36図　遺構平面図14（S＝1/100）……42
第37図　遺構個別図17（S＝1/40）……43
第38図　遺構平面図15（S＝1/100）……44
第39図　遺構個別図18（S＝1/60）……45
第40図　遺構個別図19（S＝1/60）……46
第41図　遺構個別図20（S＝1/60）……47
第42図　遺物実測図1（S＝1/3）……49
第43図　遺物実測図2（S＝1/3）……50
第44図　遺物実測図3（S＝1/3）……51
第45図　遺物実測図4（S＝1/3）……52
第46図　遺物実測図5（S＝1/3）……53
第47図　遺物実測図6（S＝1/3）……54
第48図　遺物実測図7（S＝1/3）……55
第49図　遺物実測図8（S＝1/3）……56
第50図　遺物実測図9（S＝1/3）……57
第51図　遺物実測図10（S＝1/3）……58
第52図　遺物実測図11（S＝1/3）……59
第53図　遺物実測図12（S＝1/3）……60
第54図　遺物実測図13（S＝1/3）……61
第55図　遺物実測図14（S＝1/3）……62
第56図　遺物実測図15（S＝1/3）……63
第57図　遺物実測図16（S＝1/3）……64
第58図　遺物実測図17（S＝1/3）……65
第59図　遺物実測図18（S＝1/3）……66
第60図　遺物実測図19（S＝1/3）……67
第61図　遺物実測図20（S＝1/3）……68
第62図　遺物実測図21（S＝1/3）……69
第63図　遺物実測図22（S＝1/3）……70
第64図　遺物実測図23（S＝1/3）……71
第65図　遺物実測図24（S＝1/3）……72
第66図　遺物実測図25（S＝1/3）……73

表　目　次

第1表　木津遺跡周辺の遺跡一覧表 …… 3
第2表　出土土器の時期と胎土 ……75
第3表　出土遺物観察表1 ……76
第4表　出土遺物観察表2 ……77
第5表　出土遺物観察表3 ……78
第6表　出土遺物観察表4 ……79
第7表　出土遺物観察表5 ……80
第8表　出土遺物観察表6 ……81
第9表　出土遺物観察表7 ……82

図版目次

図版1　遺跡近景（南西から）、（北西から）
図版2　調査区全景（1984年度調査区全景）
図版3　SI1・2
図版4　SI3
図版5　SI3　遺物出土状況
図版6　SI4・5
図版7　SX1～3
図版8　SX3　遺物出土状況1
図版9　SX3・SX4　遺物出土状況
図版10　SB1
図版11　SB2
図版12　SB3
図版13　SB4
図版14　SB5
図版15　SK1・2、4～6
図版16　SK5～8、11・12
図版17　SK14
図版18　SK15
図版19　SK15・16・18・19
図版20　SK18～20ほか
図版21　遺物出土状況ほか
図版22～28　遺物写真

報告書抄録

ふりがな	まっとうしすえまついせきぐんいち
書名	松任市末松遺跡群Ⅰ
副書名	一般国道157号線鶴来バイパス改築工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅰ
シリーズ名	
編著者名	柿田祐司、布尾和史
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター
所在地	〒920－1336　石川県金沢市中戸町18番地１（TEL 076－229－4477）
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター
発行年月日	西暦2004年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （新）	東経 （新）	調査期間	調査面積	調査原因
木津遺跡 第１次調査	石川県 松任市 木津	17028	08012	36度 30分 4秒	136度 35分 45秒	19840521 ～ 19841129	3000㎡	道路建設
第２次調査						19850717 ～ 19851214	1125㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
木津遺跡	集落跡？	弥生時代		弥生土器	
	集落跡	古墳時代	竪穴建物跡 土坑	土師器・須恵器	
	集落跡	古　代	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 土坑 溝	土師器・須恵器・墨書土器・石製品	
	集落跡？	近　世		肥前系陶磁器	

第1章　位置と環境

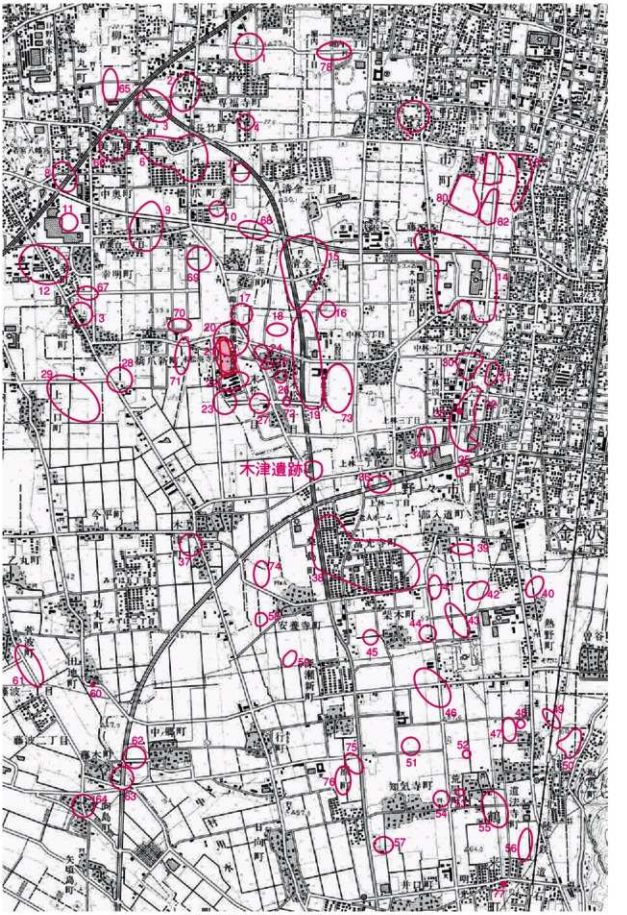
木津遺跡は石川県松任市木津町に所在し、白山に源を発する手取川により形成された手取川扇状地に立地する。手取川扇状地上においては、古くは縄文時代後期から人々が暮らした痕跡を捉えることができ、松任市旭遺跡や、金沢市米泉遺跡、野々市町御経塚遺跡など、竪穴建物跡や石囲炉といった遺構を伴う集落遺跡が扇端部付近で確認される。また、扇央部東側でも金沢市馬替遺跡や野々市町三納アラミヤ遺跡（81）などのように縄文時代後期の遺物がまとまって出土する例が知られているほか、野々市町三納トヘイダゴシ遺跡（79）、富樫館跡遺跡群のように土器片や打製石斧などが散発的に出土するのみの遺跡も数多く確認されている。このような遺物のみ出土する遺跡は、縄文時代晩期になると西側にも拡がる傾向を示し、以降弥生時代前期にいたるまで、扇状地上で発掘される多くの遺跡で認められるようになる。遺構を伴う遺跡は乾町遺跡（3）下層などごくわずかに認められるのみとなっている。

第1図　木津遺跡の位置

水田耕作を基盤とする社会形態を志向し始めた弥生時代中期頃になると、周辺の遺跡分布は手取川扇状地扇端部や松任平野沖積地など低地を求め際立った偏りを示す。松任市野本遺跡、八田中ヒエモンダ遺跡、横江古屋敷遺跡、金沢市下安原遺跡、上荒屋遺跡など竪穴建物跡を居住施設とする集落跡を中心に、小規模な遺跡もその周辺で発掘されており、大規模な灌漑を要しない低湿地域での初期稲作農耕のあり方を垣間見せる形となっている。その後、弥生時代後期から古墳時代前期には、低地での集落数や建物数の増加が認められるようになり、松任市旭遺跡や野々市町御経塚シンデン遺跡のような墳墓群も作られるようになった。一方、扇状地扇央部では、野々市町上新庄ニシウラ遺跡（35）や末松廃寺（21）など、居住施設を伴う集落が出現し、小規模ながらも扇状地上を流れる河川と結びついた形での集落の運営が開始されることとなる。ただ、その規模は小さいままで推移したものらしく、古墳時代中・後期・飛鳥時代にいたっても、上林新庄遺跡（32）や上林テラダ遺跡（34）、末松ダイカン遺跡（20）での建物跡数基からなる集落跡や、横穴式石室の基底部が調査された上林古墳（33）などがわずかに見られる程度であり、低地とは対照的な様相を呈していた。

奈良時代直前頃から奈良時代にかけては遺跡の増加と大規模化により、扇状地開発が本格化した時期と捉えられている。これは在地の新興開発領主層の成長とそれに伴う労働力の組織化が扇状地扇央部地域で顕著に進んだことによるものと考えられており、木津遺跡周辺で、さほど距離をおかずに大規模な遺跡群が群在する状況を確認できる。現在も流れる七ヶ用水の名称に準じた水系名を付して整理すると、富樫用水水系では多数の建物跡が検出された下新庄アラチ遺跡（30）と上林新庄遺跡（32）を中心として、上新庄ニシウラ遺跡（35）、下新庄タナカダ遺跡（31）、粟田遺跡（14）などからなる遺跡群があり、郷用水水系では東側に末松廃寺（21）とその周辺で展開する末松ダイカン遺跡（20）、末松福正寺遺跡（17）、末松A遺跡（19）、木津遺跡などが一群をなし、西側には三浦遺跡（12）、幸明遺跡（11）、上二口遺跡（29）が水系単位でまとまった遺跡群を形成する。こうした状況は平安時代にもしばらく継続し、平安時代の中頃から後半にかけて縮小、廃絶していくようである。

その後新たに扇状地扇央部での活動が目立つようになるのは、平安時代の後半からであり、周辺では橋爪ガンノアナ遺跡（9）、三浦遺跡（12）、幸明遺跡（11）、安養寺遺跡（38）、知気寺遺跡（51）



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（S＝１／25,000）

第１表　木津遺跡周辺の遺跡一覧表

番号	名称	所在地	種別	時代	出土品	出土品
	木津遺跡	松任市木津町	水田、道路	弥生～中世	[illegible]	[illegible]
1	[illegible]	[illegible]	水田	弥生、古墳	弥生土器、土師器	[illegible]
2	[illegible]	[illegible]	[illegible]	中世	五輪塔、[illegible]	
3	[illegible]	[illegible]	水田、道路	縄文～近世	[illegible]	[illegible]
4	[illegible]	[illegible]	水田、宅地	縄文、平安	打製石斧、土器	
5	[illegible]	[illegible]	[illegible]	近世(安土桃山)		
6	[illegible]	[illegible]	水田	縄文、古墳、平安、中世、近世	[illegible]	[illegible]
7	[illegible]	[illegible]	水田	縄文、弥生、中世、近世	[illegible]	[illegible]
8	[illegible]	[illegible]	水田、道路	近世(安土桃山)	[illegible]	[illegible]
8	[illegible]	[illegible]	水田、道路	近世(安土桃山)	五輪塔	[illegible]
9	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
10	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
11	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
12	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
13	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
14	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
15	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
16	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
17	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
17	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
18	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
19	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
20	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
21	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
22	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
23	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
24	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
25	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
26	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
27	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
28	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
29	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
30	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
31	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
32	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
33	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
34	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
35	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
36	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
37	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
38	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
39	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
39	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
40	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
41	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
42	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
43	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
44	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
45	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
46	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
47	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
48	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
49	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
50	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
51	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
52	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
53	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
54	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
55	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
56	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
57	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
58	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
59	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
60	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
61	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
62	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
63	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
64	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
65	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
66	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
67	[illegible]	[illegible]	[illegible]			[illegible]
68	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
69	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
70	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
71	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
72	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
73	[illegible]	[illegible]	[illegible]			[illegible]
74	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]
75	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
76	[illegible]	[illegible]				
77	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
78	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
79	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
80	[illegible]	[illegible]				
81	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]
82	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]

などが認められる。

中世の集落に関しては状況が明らかなものは少なく、近年の発掘調査により、三浦遺跡（12）、野々市町の三納ニシヨサ遺跡（82）や三納トヘイダゴシ遺跡（79）、栗田遺跡（14）など、掘立柱建物跡や竪穴状遺構を組成する集落跡が検出されている事例が散見されるのみとなる。

第2章　調 査 の 経 緯

第1節　調査に至るまで

国道157号線は、野々市町から鶴来町の区間で家屋が続き道幅も狭く、きついカーブの箇所も多かったため、交通の混雑や安全確保を図る必要があった。昭和45年度に「鶴来バイパス」の計画線調査が着手され、昭和49年度に事業化がなされた。鶴来バイパスとは、松任市乾町～石川郡鶴来町白山町までの延長13.2kmをいう。そして昭和52年度に工事着手となり、鶴来バイパス関連の埋蔵文化財発掘調査では、「白山町遺跡」「安養寺遺跡」等が行われている。昭和55年度から昭和58年度までに鶴来町白山町から安養寺町までの区間が暫定２車線供用されている。本調査は加賀産業道路から一般国道８号線に接続するおよそ３kmの工事に伴うものである。

第2節　第1次調査

建設省北陸地方建設局金沢工事事務所（現 国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所）の依頼を受け、昭和59年５月21日より現地調査に着手している。当初の依頼面積は1000㎡である。その範囲は調査区内を斜めに横切る用水までであった。その後８月21日に事業の進捗を図るためとし、用水の北側2000㎡の追加依頼があり合計3000㎡の発掘調査となった。遺構の測量には調査区3000㎡を対象とし、空中写真測量が行われている。主な遺構としては、当初の1000㎡の範囲からは竪穴建物が、追加部分の2000㎡からは掘立柱建物跡が検出されている。遺物は弥生・古墳・古代・中世・近世と出土している。

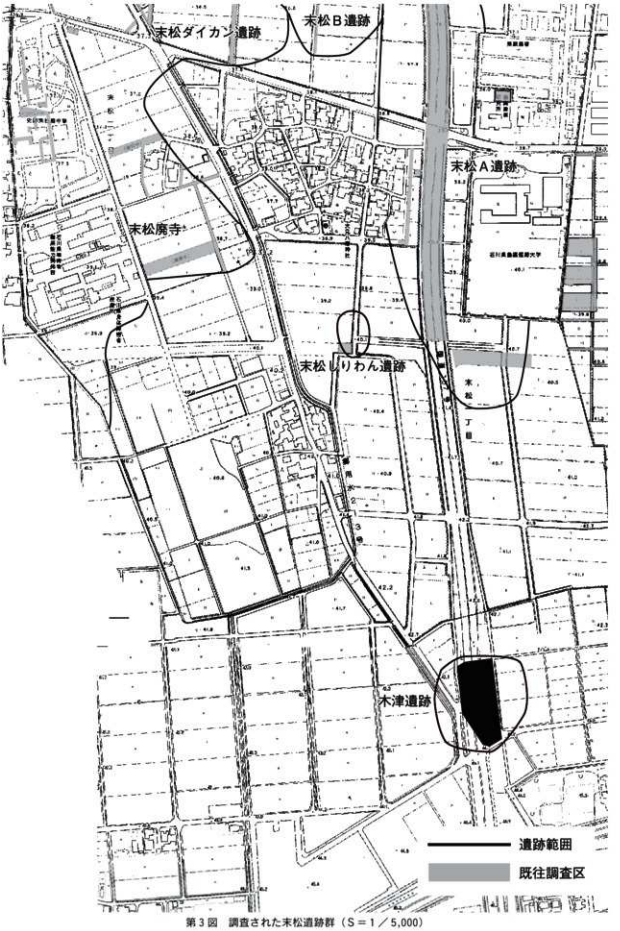
第3節　第2次調査

第１次調査と同じく依頼を受け、昭和60年７月17日より現地調査に着手している。依頼当初の面積は6000㎡であった。依頼のあった範囲は第１次調査の北側部分等であった。

その後、調査依頼区域の遺構等の残存状態が良くなく、試掘調査を実施して調査区域の決定をし、発掘調査区の変更をする旨の協議が行われた。そして、昭和59年度調査の北側部分1125㎡（木津遺跡第２次調査）と2600㎡（末松Ａ遺跡第１次調査）とその間のトレンチ調査975㎡に変更となった。

遺構の測量にはヘリコプターによる空中写真測量が行われており、トレンチ調査部分を除いた範囲を対象として行われている。

検出された主な遺構は、第１次調査区から延びる掘立柱建物跡等があるが、北側へ行くほど遺構が疎らになっている。



第3図　調査された末松遺跡群（S＝1／5,000）

第3章　調 査 の 概 要

第1節　グリッドの設定

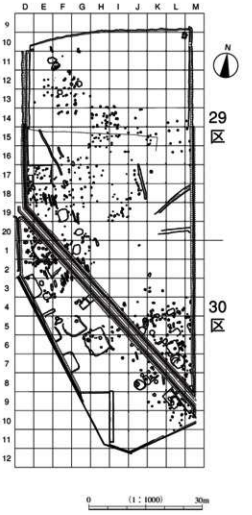
発掘調査区には、工区のセンター杭を縦軸としてそこから横軸を設定し、5ｍグリッドを組んで調査が行われている。工区の名称である29区、30区を大グリッドとし5ｍグリッドを小グリッドとしている。この工区ごとの名称は、同じ事業で発掘調査された末松Ａ遺跡でも踏襲されている。小グリッドは南北方向を数字、東西方向をアルファベットとしている。北に向かって北西の杭がその小グリッドの名称となる。

第2節　第1次調査

30区および29区の15ライン以南が調査範囲となる。竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、溝等が確認されている。それらの時期は、竪穴建物が古墳時代後期から奈良時代前半頃までと考えられ、掘立柱建物は、古墳時代後期以降平安時代前期頃までと考えられる。Ｄ・Ｅ17グリッドでは下層の調査が行われており、ピット等の遺構と弥生土器が確認されている。

第3節　第2次調査

29区の14ライン以北が調査範囲となる。掘立柱建物跡のほか、土坑が確認されている。北側に向かって遺構が希薄となり、遺跡は途切れると判断されている。



第4図　グリッド設定図

第4章　遺構と遺物

第1節　遺　　構

第1次調査および第2次調査を合わせて、検出された主な遺構は、竪穴建物跡5棟、掘立柱建物跡6棟、土坑20基、溝16条、ピット多数等である。建物跡の棟数については当然のことながら復元しえた数である。また掘立柱建物跡は、調査時の段階では5棟復元されていたが、SB6とした1棟を図上復元した。さらに復元することも可能ではあったが、調査時の所見を優先しそれ以上の建物跡の復元はあえてしなかった。それぞれの時代については、それらの遺構から出土する遺物の年代観によって決定した。ただし、掘立柱建物跡については柱穴と考えられるピットからの出土遺物がほとんどないため、包含層遺物による場合もある。

以下竪穴建物跡、落ち込み状遺構、掘立柱建物跡、土坑、溝の順に遺構の説明を行う。

竪穴建物

調査時、竪穴建物として認識されていたのは5棟である。そのほか、SX3・4などの落ち込み状遺構として捉えられているものも竪穴建物の可能性が高いと考えられるので、この項で報告する。

SI1（第7・9・42図）　30L9で検出されている。規模は調査区を斜めに横切る用水のため不明である。東西方向1辺は約6.6mを測る。深さは約20cmである。平面形態は方形である。主柱穴となるようなピットは見当たらない。図化した出土遺物には1がある。須恵器杯B蓋であり、II3期（田嶋1988、以降特に断らない限り○期は田嶋編年による）と考えられる。

SI2（第7・9・42図）　30L9で検出されている。SI1と切り合うが、新旧関係は不明。図化した出土遺物には2・3がある。3の土師器甕は混入と考えられる。2の須恵器杯B蓋は、SI1出土のものよりやや後出的な様相をもちIII期と考えられる。竪穴の規模は、SI1と同じく用水のため不明である。東西方向の1辺は約4.5mを測る。深さは約20cmである。平面形態は方形である。主柱穴となるようなピットは見当たらない。第7図中に描き入れたラインにピットが並ぶことから、竪穴外に柱穴が並ぶタイプとも考えられる。

SI3（第16・18・42・43図）　30H6で検出されている。SI3P1～3のピットがあるが主柱穴とは考えがたい。規模は長辺約3.9m、短辺約3.3mを測る。深さは約40cmである。平面形態は方形である。貼床が検出されている。多数の遺物が出土しているが、古墳時代中期頃とI1期頃の二時期と考えられる。この竪穴建物に付くのはI1期の遺物であろうか。

SI4（第16・17・43図）　30F6で検出されている。調査区外に延びているため全形は不明である。平面形態は方形になると考えられる。深さは約25cmを測る。22～29の遺物が出土している。22～25は6世紀代の遺物と考えているが、26～28は5世紀代、29は弥生時代と考えられる。竪穴建物の帰属時期は5ないし6世紀代と考えられるが、決定はできない。

SI5（第16・17図）　30F5で検出されている。竪穴建物の壁周溝のみ検出されている。調査区外に延びるためその全形については不明である。壁周溝の深さは約10cmである。時期については不明である。

第5図　遺構全体図

落ち込み状遺構

SX１（第20・21図）　30F２で検出されている。長軸約3.6m、短軸約2.8mを測る。深さは約30cmである。平面形態は方形に近いが、調査区を斜めに横切る用水にまで延びるようで全形は不明である。

SX２（第20・21・52図）　30C２で検出されている。調査区外に延びているため全形は不明である。調査区内では長軸約5.9mを測る。深さ約25cmである。117～120の遺物が出土している。118のような弥生時代末頃の遺物も混じるが、119・120はⅠ１期の遺物と考えている。

SX３（第23・25・51）　30E1で検出されている。調査区を斜めに横断する用水にまで延びているためその全形と規模は不明である。深さは約20cmである。遺構内にピットがあり柱穴となると考えられるが竪穴建物となるか判然としない。可能性はあろう。102～116の遺物が出土している。114～116はⅣ2期頃の遺物と考えられる。102～113は5世紀後半代と考えられる。竪穴建物とすれば、５世紀後半代であろう

SX４（第16・19・52図）　30F５で検出されている。長軸約約5.0m、短軸約4.6mを測る。深さは約20cmである。堆積土中には、炭化物や焼土ブロック等が含まれている。121～132の遺物が出土している。５世紀代の時期と考えられる。おそらく竪穴建物になると考えている。

掘立柱建物跡

SB１（第14・15図）　30K４～L５にかけて検出されている。１×２間の側柱建物である。柱穴の中心を測り、梁桁約3.0m×桁桁約3.4mである。平面積は約10㎡である。建物の主軸方位は、東に約40°振っている。中央にある長軸約2.1m、短軸約1.2mを測る方形の土坑もこの建物に属すると考えられる。建物の時期については不明である。周辺の遺構や包含層の出土遺物からみると古代前半と考えられる。

SB２（第27・28図）　29F16～H18にかけて検出されている。２×４間の総柱建物である。柱穴の中心を測り、梁桁約4.8m、桁桁約約9.9mである。平面積は約47㎡である。建物の主軸方位は西へ約15°振っている。その時期については、柱穴から遺物が出土していないようで判然としない。

SB３（第30・31図）　29L14～M16にかけて検出されている。第１・２次調査と２ヵ年に渡って調査された。調査区外に延びている可能性もあるが、２×３間の総柱建物として報告する。柱穴中心を測り、梁桁約7.9m、桁桁約4.9mである。平面積は約39㎡である。桁桁の中間部分が約3.3mと広くなる建物構造をもっている。建物の主軸方位は西へ約16°振っている。建物方位からはSB２と同じ頃の建物と推測できる。

SB４（第34・35図）　29F12～G14にかけて検出されている。建物の北西側の柱穴が検出されていないが、２×４間の総柱建物として報告する。２つずつ柱穴が並んであることから１回の建て替えが考えられる。古いほうが柱穴中心を測り、梁桁約4.4m、桁桁約8.5mである。新しいほうは梁桁約4.5m、桁桁8.6mである。平面積はそれぞれ約37㎡、約39㎡となる。やや拡張されるようだがそれほど規模は変わらない。建物の主軸方位は西へ約11°振っている。

SB５（第32・33図）　29H13～I16にかけて検出されている。これもSB２と同じく２ヵ年に渡って調査されている。ピットが多数検出されており、複数の建物が立つ可能性はあるが、ここでは２×３間の総柱建物に東西に庇が付き、北側に塀がある状態を復元した。庇部分を入れると梁桁約6.0m、桁桁約8.4mを測る。平面積は約50㎡である。建物の主軸方位は西へ約13°振っている。

SB６（第10・11図）　30K７で検出されている。この掘立柱建物は図上復元したもので調査時には認

識されていない。調査区内を流れる用水により全景は不明であるが、１×２間か２×２間の総柱と考えられる。梁桁約3.4m、桁桁約4.2mを測る。平面積は約14㎡となる。建物の主軸方位は東西方向を基準とし北方向に約38°振っている。周辺の遺構および包含層から出土している遺物をみるとⅢ～Ⅴ期の間に収まるものと考えられる。

その他　掘立柱建物は、復元した数以上にあったと考えられる。SB１周辺にあるピット群も柱穴であると考えられ、２・３棟の建物があったと推測している。またSX３周辺にも多数のピットがあり柱穴もあると考えられるので、２・３棟の建物があったと推測している。

SB３～５の時期については明確にしがたいが、包含層の出土遺物をみるとⅤ～Ⅶ期のものが多く、掘立柱建物が側柱ではなく総柱となっていることから、Ⅶ期の建物かもしれない。

土　　坑

SK１（第８・９・44図）　30Ｊ８で検出されている。長軸約2.9m、短軸約2.3mを測る。深さは約40㎝である。平面形態は隅丸方形である。30～40の遺物が出土している。Ⅲ期を中心とした時期と考えられる。

SK２（第８・９図）　30Ｊ８で検出されている。長軸約2.4m、短軸約1.4mを測る。深さは約20㎝である。土坑内にあるピットの深さは、約50㎝となる。平面形態は方形である。図化できるような遺物は出土していない。

SK３（第16・18・45図）　30F5で検出されている。平面形態はかなり不定形だが、長軸約2.3m、短軸約1.0mを測る。深さは約40㎝である。断面形態は方形を呈する。41の遺物が出土している。

SK４（第20・21・45図）　30E３で検出されている。長軸約1.3m、短軸約0.8mを測る。深さは約25㎝である。平面形態は楕円に近い。42の遺物が出土している。

SK５（第10・12・46図）　30L７で検出されている。長軸約3.5m、短軸約3.3mを測る。深さは約30㎝である。平面形態は隅丸方形である。43～46の遺物が出土している。Ⅲ～Ⅳ１期と考えられる。

SK６（第10・12・46図）　30L６で検出されている。長軸約3.6m、短軸約2.7mを測る。深さは約25㎝である。平面形態はやや不定形な形を呈するが、隅丸方形と考えられる。48～52の遺物が出土している。SK５より出土している遺物よりも古くⅡ３～Ⅲ期と考えられる。47・53の出土遺物はSK５・６どちらの遺構に属するは不明であるが、時期を考えるとSK５に付くと考えられる。

SK７（第10・13・47図）　30L７で検出されている。長軸短軸とも約0.9mを測る。深さは25㎝である。平面形態は方形である。54の遺物が出土している。古墳時代後期の甕と考えられる。

SK８（第10・13図）　30K６で検出されている。長軸約1.4m、短軸約0.9mを測る。深さは約30㎝である。平面形態は隅丸方形である。図化できるような遺物は出土していない。

SK９（第10・13図）　30L５で検出されている。全形は明らかとなっていないのでその規模については不明だが、平面形態は方形になると考えられる。短辺となると考えられる長さは約1.6mを測る。深さは約20㎝である。図化できるような遺物は出土していない。

SK10（第10・13・47図）　30M５で検出されている。調査区外に伸びるため全形は不明である。平面形態は隅丸方形と考えられる。深さは約25㎝である。55の遺物が出土している。

SK11（第10・13図）　30Ｋ５で検出されている。直径約1.3mを測る。深さは約30㎝である。平面形態は円形を呈する。図化できるような遺物は出土していない。

SK12（第10・13・47図）　30Ｊ５で検出されている。長軸約3.0m、短軸約1.2mを測る。深さは最も深いところで約60㎝である。不定形な平面形態を呈する。56・57の遺物が出土している。

SK13（第23・24図）　30G１で検出されている。長軸約2.4m、短軸約1.8mを測る。深さは約10cmである。図化できるような遺物は出土していない。

SK14（第23・24・47図）　29G20で検出されている。長軸約2.0m、短軸約1.5mを測る。深さは約25cmである。平面形態は楕円形に近い。58～60の遺物が出土している。Ⅳ期を中心とした時期と考えられる。そのほか図化はされていないが、鞴の羽口が出土している。

SK15（第23・24・47図）　29F19で検出されている。長軸約3.0m、短軸約2.5mを測る。深さは約15cmである。平面形態は隅丸方形である。61～66の遺物が出土している。Ⅰ期を中心とした時期と考えられる。その規模や焼土等から竪穴建物である可能性もある。

SK16（第27・29・47図）　29F17で検出されている。長軸約1.5m、短軸約0.8mを測る。深さは約40cmを測る。平面形態は方形を呈する。67・68の遺物が出土している。68が混じりであると考えられる。67の時期をとれば中世Ⅰ－Ⅱ期と考えられる。

SK17（第27・29図）　29G17で検出されている。長軸約1.2m、短軸約0.65mを測る。深さは約25cmである。平面形態は、崩れてはいるがもともと方形であったと考えられる。図化されている遺物はない。SB2の内部にあり付属施設の可能性もある。SK16およびP56とも形態が似通っており、同様な性格を有しているかもしれない。想定しうる性格の一つに土坑墓が考えられる。

SK18（第36・37・48図）　29E11で検出されている。長軸約2.2m、短軸約1.4mを測る。深さは約30cmである。平面形態はかなり形が崩れているが、隅丸方形と考えられる。69～72の遺物が出土している。遺物の時期はⅤ1～Ⅵ1と考えられる。

SK10（第34・35図）　29F13で検出されている。一辺約1.1mの方形を呈する。SB14と関連する遺構の可能性もある。いわゆる竪穴状遺構と考えられる。

SK20（第36・37・48図）　29F11で検出されている。長軸約2.1m、短軸約1.5mを測る。深さ約20cmである。平面形態はかなり不定形である。73～78の遺物が出土している。時期はⅥ1期と考えられる。石が土坑中からかなりの量検出されていることから、遺構の性格の一端を示すものと考えられる。

溝

SD 1（第20図）　30F３で南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。

SD 2（第20図）　30F２・３で南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。

SD 3（第20図）　30G２・３で南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。SDⅠ・2および周辺の南北方向に検出されている溝群は、畠の畝溝と考えられる。その時期については不明であるが、包含層出土遺物からおそらく古代と考えられる。

SD 4（第20図）　30G２で南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。これも畠の畝溝と考えられる。

SD 5（第23図）　29H20～30H１にかけて南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。

SD 6（第23図）　29G19～G20にかけて南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。

SD 7（第27図）　29F18～F19にかけて南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。

SD 8（第27図）　29F18～F19にかけて南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。

SD 9（第27図）　29E18～E19にかけて南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。

SD 10（第27・52図）　29E18～E19にかけて南北方向に検出されている。133の遺物が出土している。

SD 11（第27図）　29E18で南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。SD７～11は南北方向に並ぶ溝群であり、その性格として畠の畝溝と考えられる。

SD12（第27・32図）　29E14～29F17にかけて北西から南東方向にかけて検出されている。図化されている遺物はない。

SD13（第27・32図）　29F16で北西から南東方向にかけて検出されている。図化されている遺物はない。SD14とほぼ平行に並ぶので、関連性が考えられる。

SD14（第26図）　29J17～J18にかけて南北方向に検出されている。図化されている遺物はない。この溝に沿って並ぶピットがあり、関連性が考えられる。

SD15（第26図）　29M18～K19にかけて北東から南西に向けて検出されている。図化されている遺物はない。

SD16（第22図）　29K20～M20にかけて東西方向に検出されている。図化されている遺物はない。

そのほかの遺構等

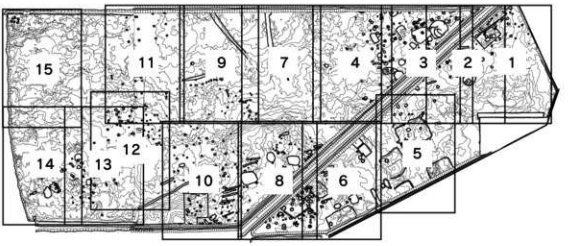
P11（第16・18・49図）　30F5で検出されている。直径約0.9mを測る。平面形態は円形である。83の遺物が出土している。

P36　30K6で検出されている。直径約1.0mを測る。平面形態は円形である。88の遺物が出土している。Ⅲ期頃と考えられる。

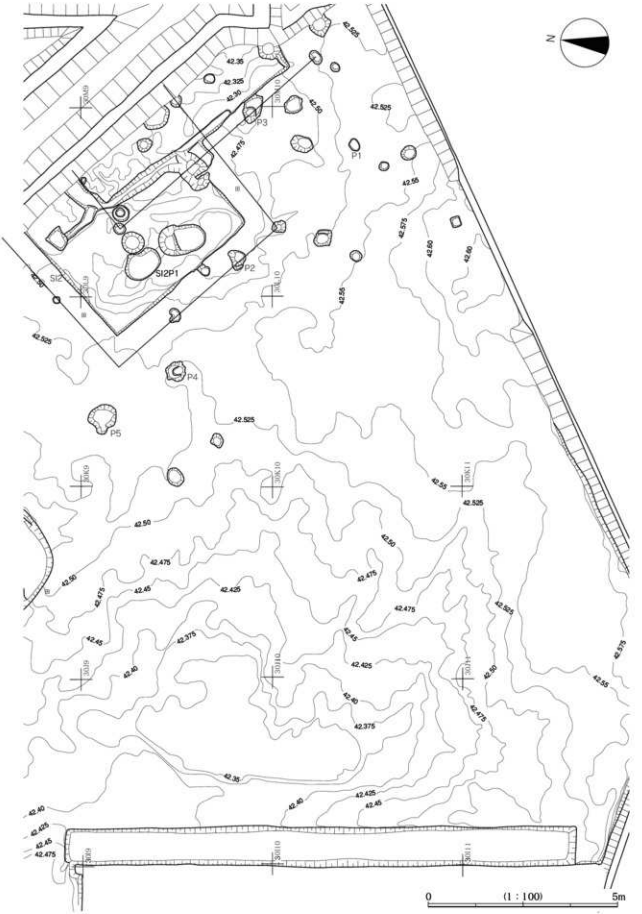
P39　30K3で検出されている。長軸約0.5m、短軸約0.4mを測る。平面形態は方形である。90の遺物が出土している。

P56（第27・29図）　29D18で検出されている。長軸約1.6m、短軸約0.8mを測る。深さは約25cmである。平面形態は隅丸方形を呈する。土坑の項でもふれたが、SK16・17と似通っており、土坑墓という可能性も考えられる。

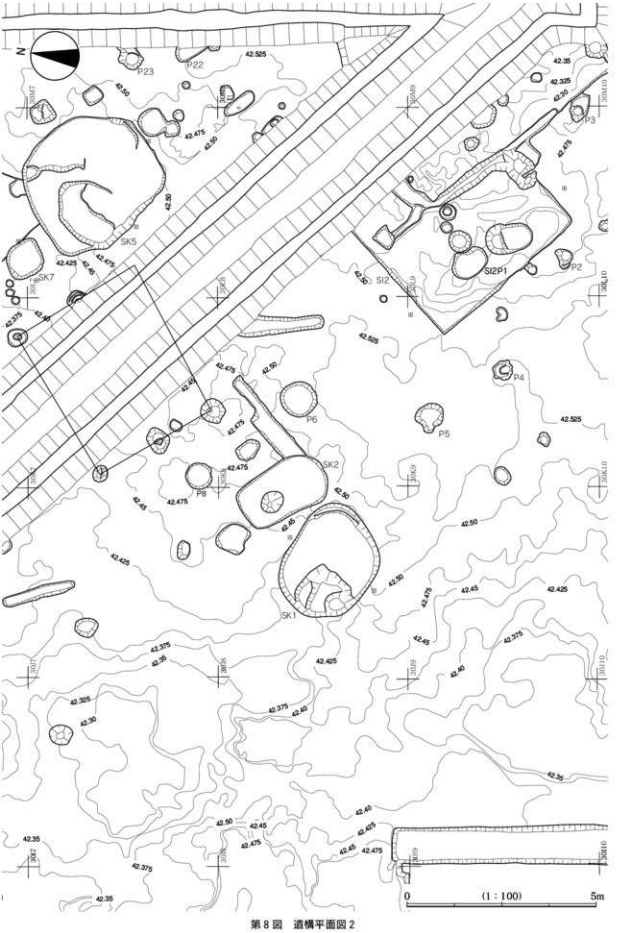
下層確認トレンチ（第27・29図）　D・E17に設定されている。このグリッドから弥生時代後期後半～末の遺物が一定量出土したことからトレンチが入れられたものとみられる。ピット等が確認されており、この時期の集落があった可能性もある。



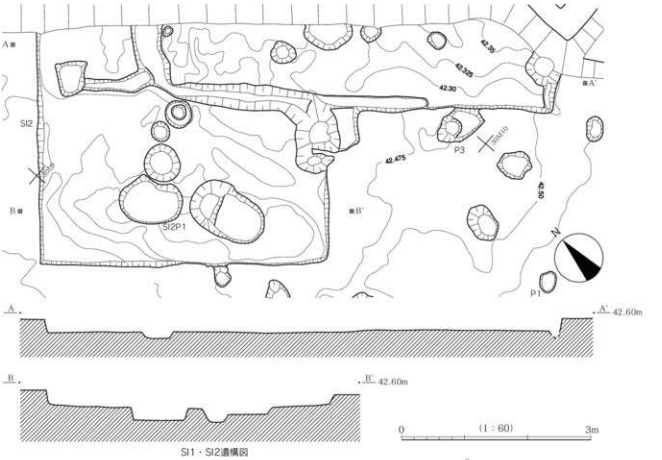
第6図　遺構平面図分割範囲図



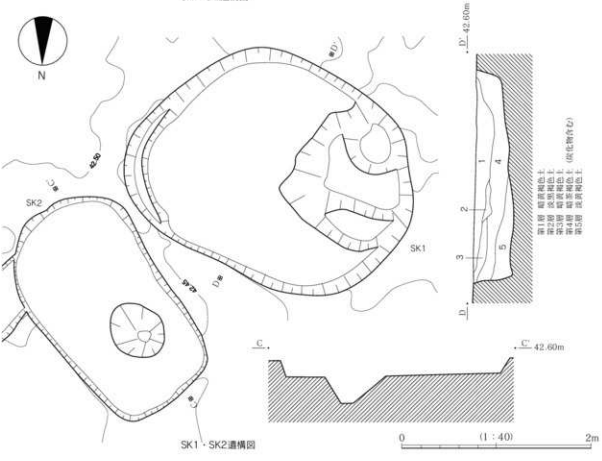
第7図　遺構平面図1



第8図　遺構平面図2

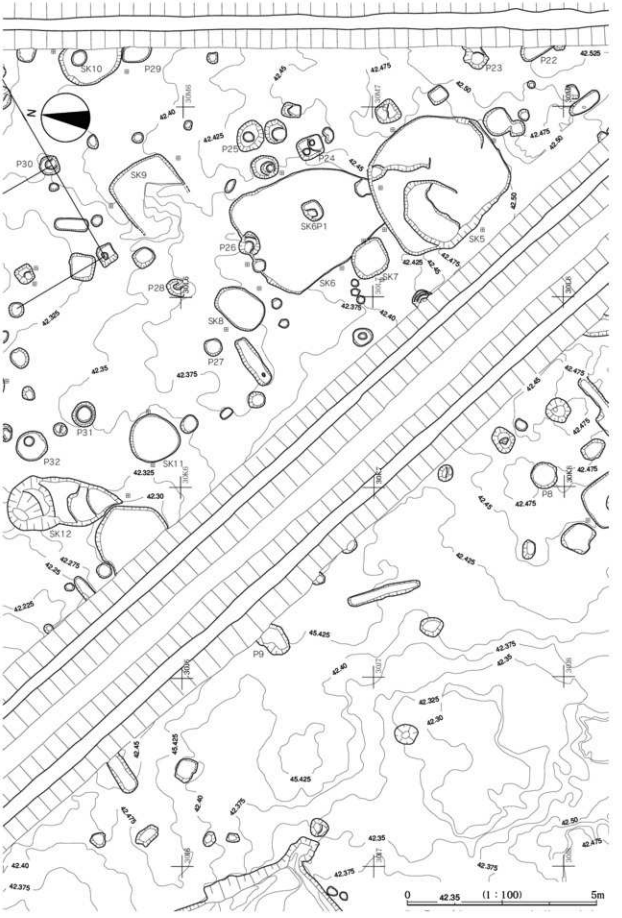


SI1・SI2遺構図

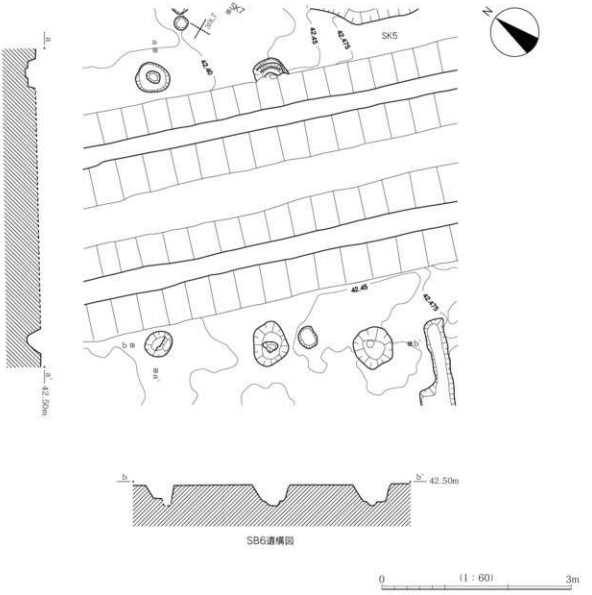


SK1・SK2遺構図

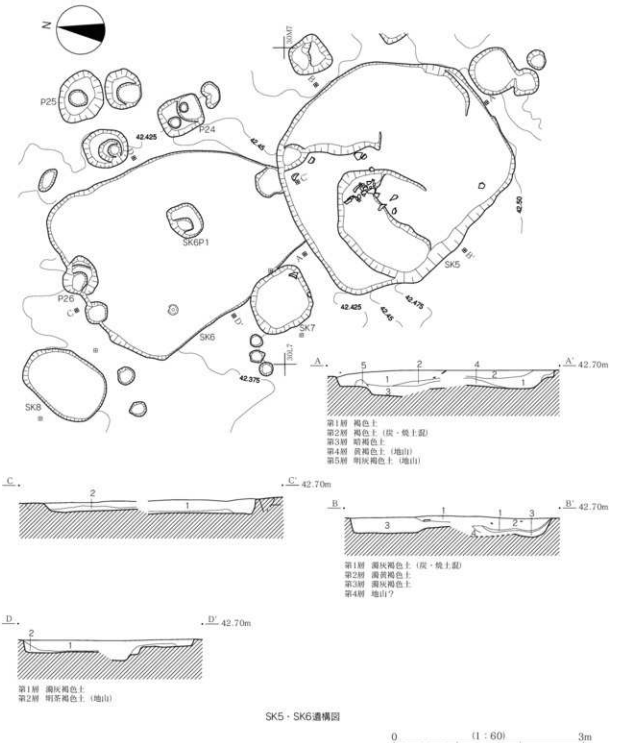
第9図　遺構個別図1


SK10
P29
P23
P22
P30
SK9
P25
P24
SK6P1
SK5
P26
SK6
SK7
P28
SK8
P27
P31
P32
SK11
SK12
P8
P9
0
42.35
(1：100)
5m

第10図　遺構平面図3

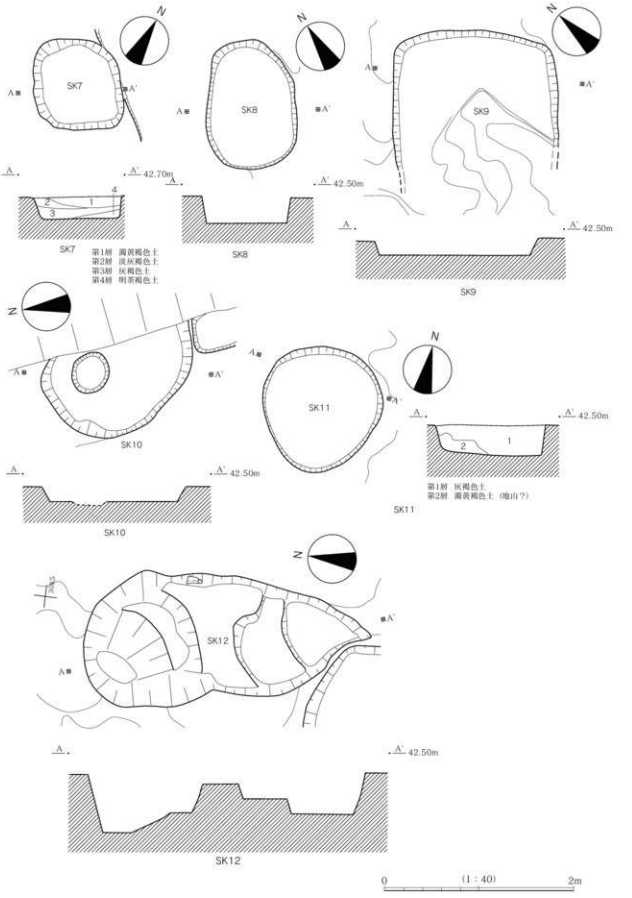


第11図　遺構個別図2

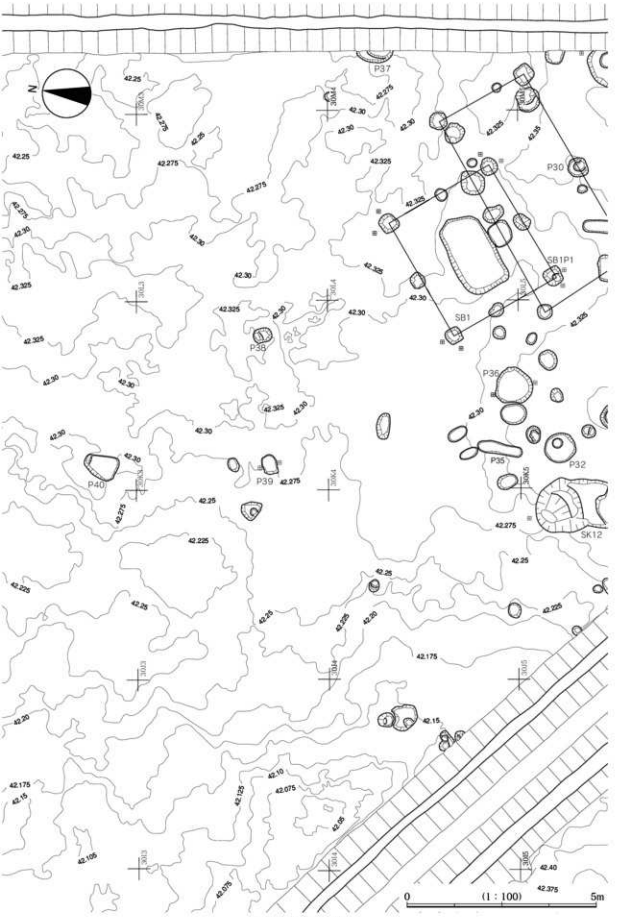


SK5・SK6遺構図

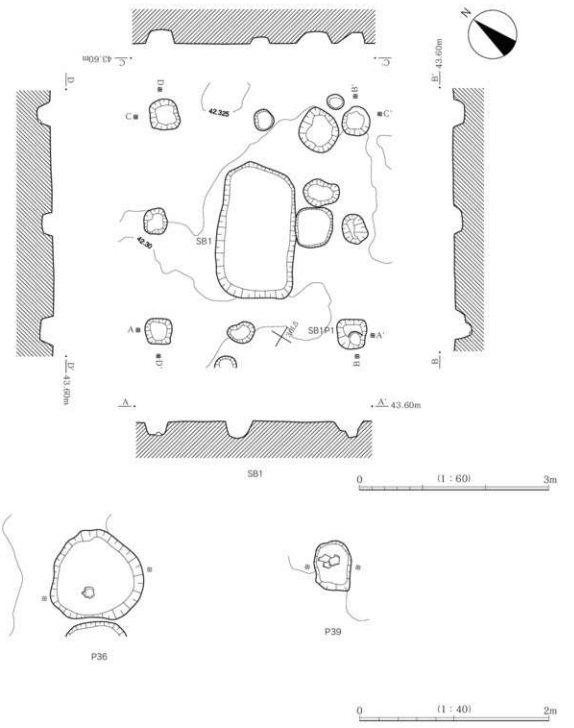
第12図　遺構個別図3


SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK12
A
A'
42.70m
42.50m
N
第1層　濁黄褐色土
第2層　淡灰褐色土
第3層　灰褐色土
第4層　明茶褐色土
第1層　灰褐色土
第2層　濁黄褐色土（地山？）
(1：40)
0
2m

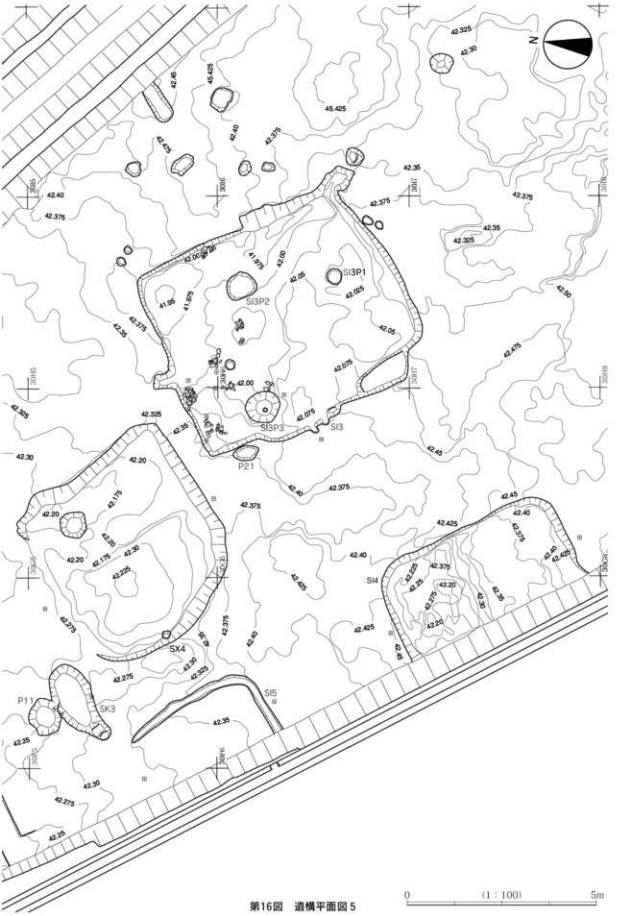
第13図　遺構個別図4



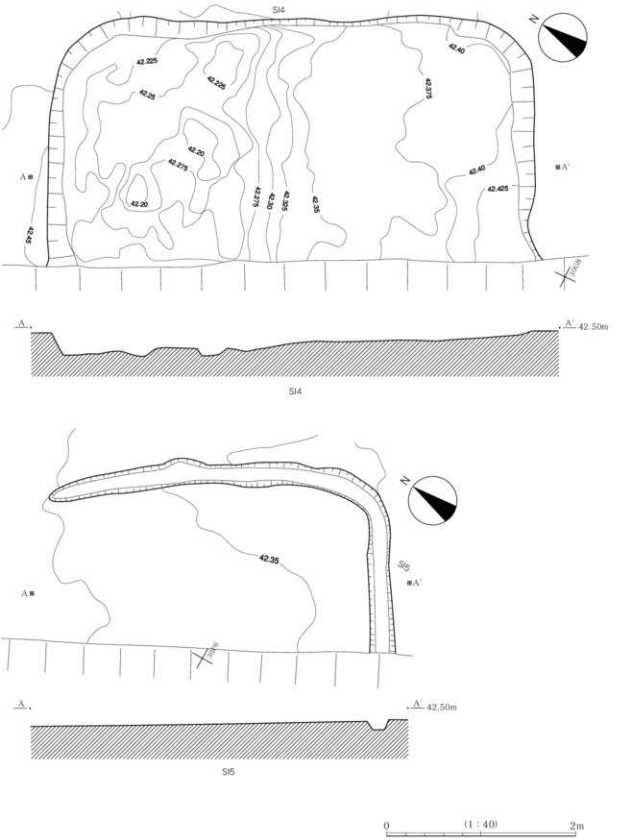
第14図　遺構平面図4


N
43.60m
C
C'
D
D'
B
B'
A
A'
SB1
SB1P1
42.325
42.30
43.60m
SB1
0
(1 : 60)
3m
P36
P39
0
(1 : 40)
2m

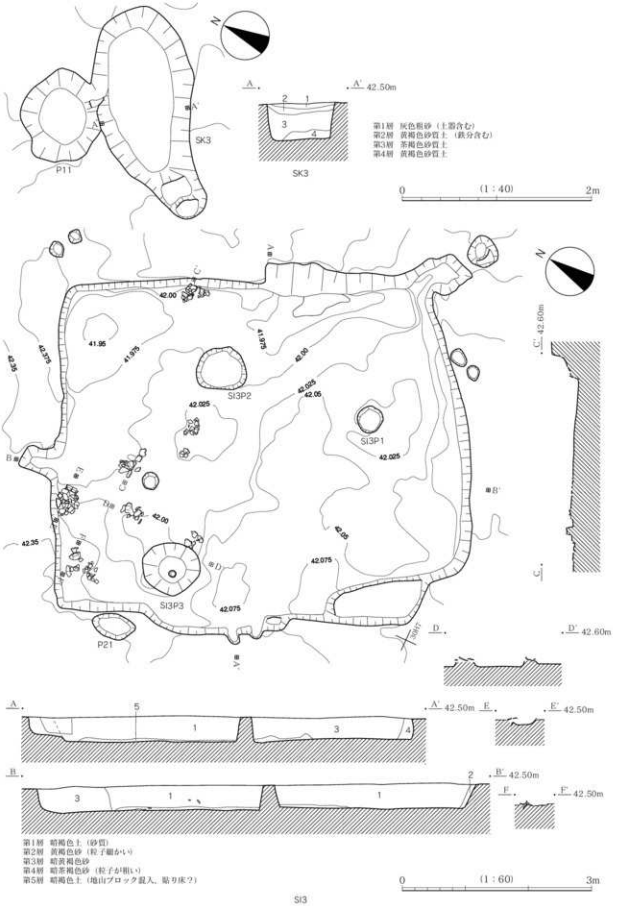
第15図　遺構個別図5



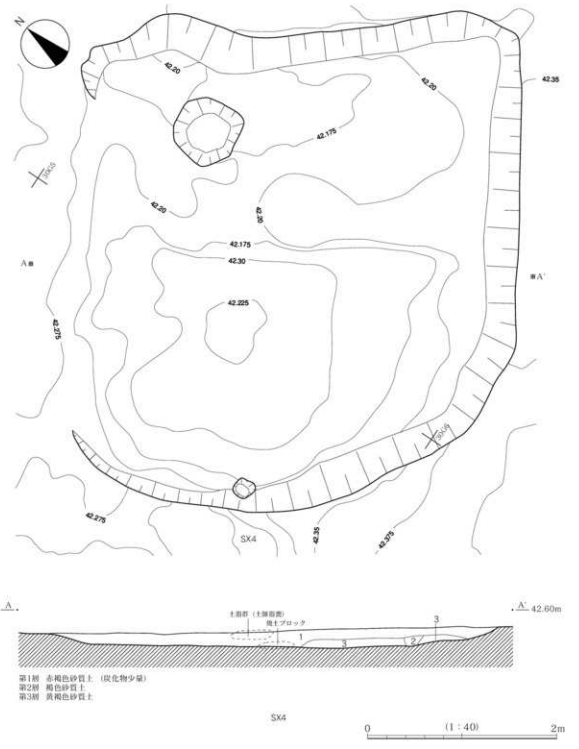
第16図　遺構平面図5


SI4
N
42.225
42.25
42.225
42.20
42.275
42.20
42.45
42.275
42.275
42.25
42.325
42.35
42.375
42.40
42.40
42.425
A
A'
A.
A'
42.50m
SI4
N
42.35
SI5
A
A'
A.
A'
42.50m
SI5
0
(1 : 40)
2m

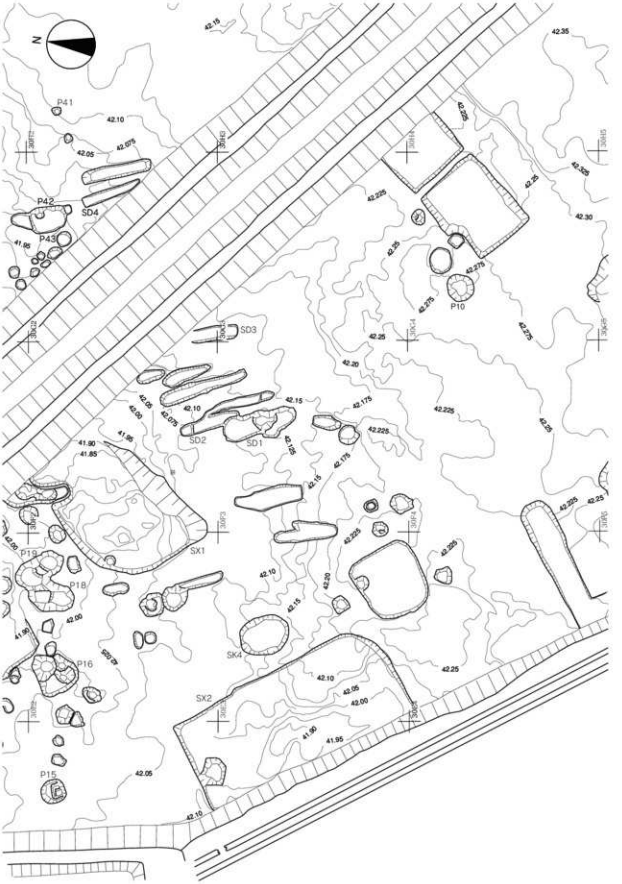
第17図　遺構個別図6


N
A
A' 42.50m
2
1
3
4
第1層　灰色粘砂（土器含む）
第2層　黄褐色砂質土（鉄分含む）
第3層　茶褐色砂質土
第4層　黄褐色砂質土
SK3
P11
0
(1：40)
2m
C
C' 42.60m
42.00
41.95
41.975
42.375
42.35
42.50
42.025
42.05
SI3P2
SI3P1
B
B'
42.075
SI3P3
P21
D
D' 42.60m
E
E' 42.50m
5
F
F' 42.50m
第1層　暗褐色土（砂質）
第2層　黄褐色砂（粒子細かい）
第3層　暗黄褐色砂
第4層　暗茶褐色砂（粒子が粗い）
第5層　暗褐色土（地山ブロック混入、貼り床？）
0
(1：60)
3m
SI3

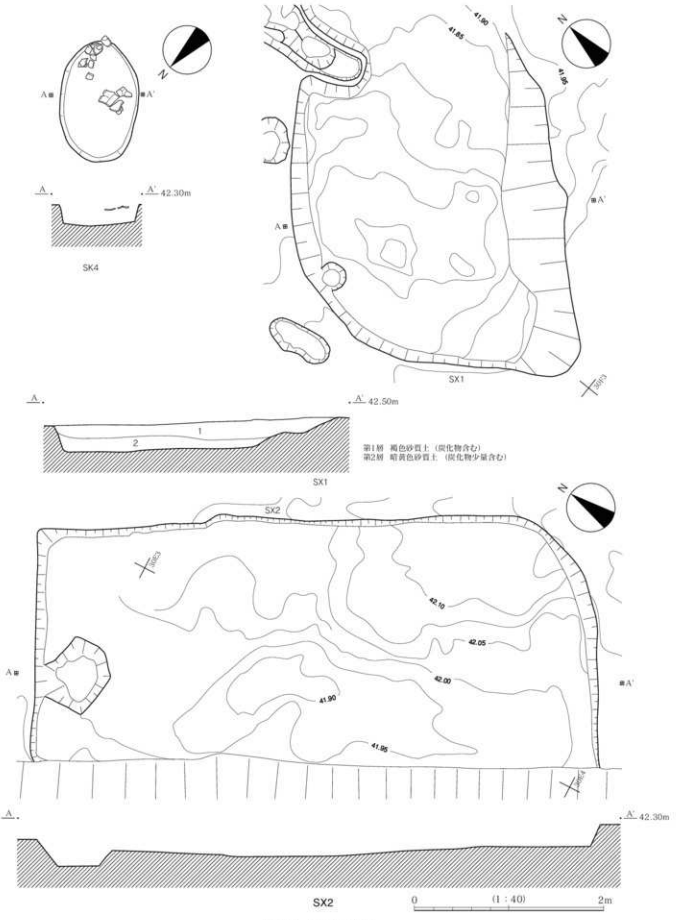
第18図　遺構個別図7


N
42.20
42.20
42.35
42.175
42.20
42.35
42.175
42.30
42.225
42.275
A
A'
SX4
42.275
42.35
42.375
A
A'
42.60m
土器群（土師器皮）
焼土ブロック
1
2
3
第1層　赤褐色砂質土（炭化物少量）
第2層　褐色砂質土
第3層　黄褐色砂質土
SX4
0
(1：40)
2m

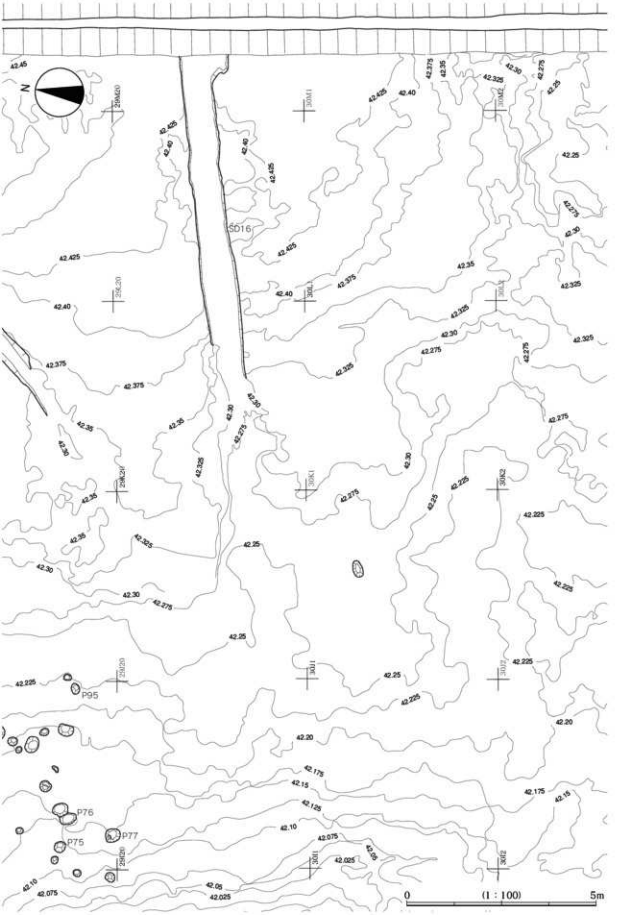
第19図　遺構個別図8


N
P41
P42
P43
SD4
SD3
SD2
SD1
SX1
SX2
SK4
P10
P15
P16
P18
P19
0
(1：100)
5m

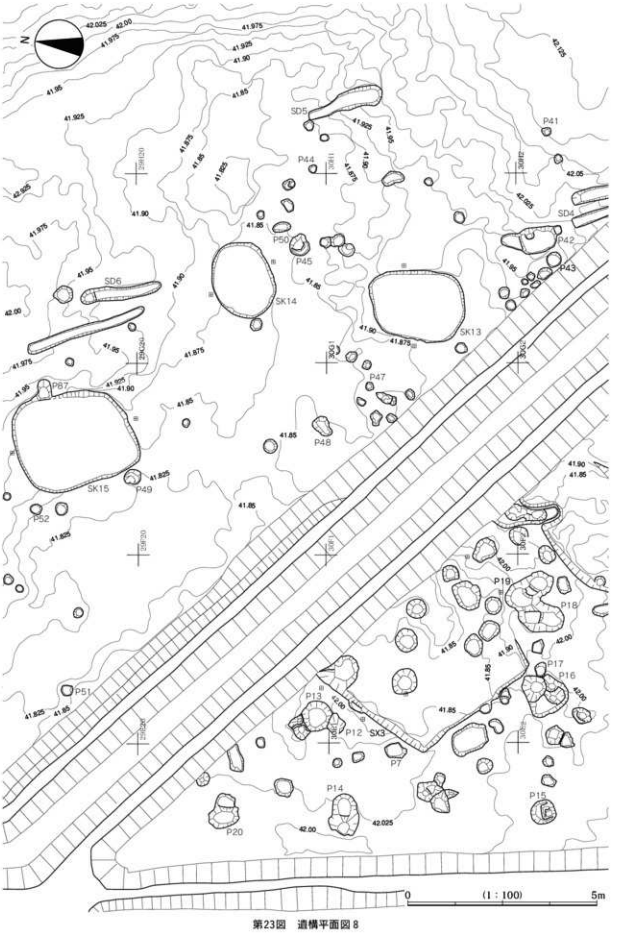
第20図　遺構平面図6


A
A'
42.30m
SK4
41.90
41.85
41.80
SX1
42.50m
1
2
第1層　褐色砂質土（炭化物含む）
第2層　暗黄色砂質土（炭化物少量含む）
SX2
42.10
42.05
42.00
41.90
41.95
42.30m
0
(1：40)
2m

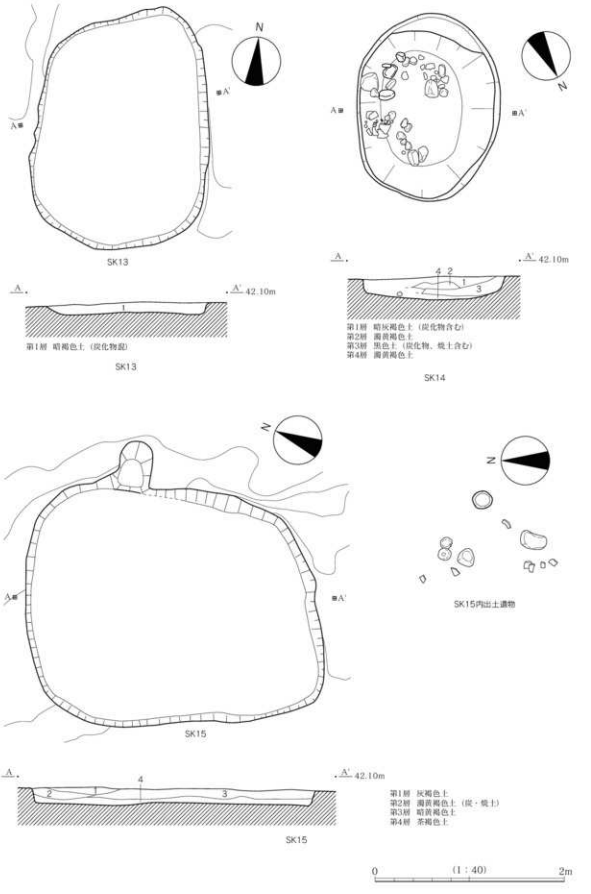
第21図　遺構個別図9



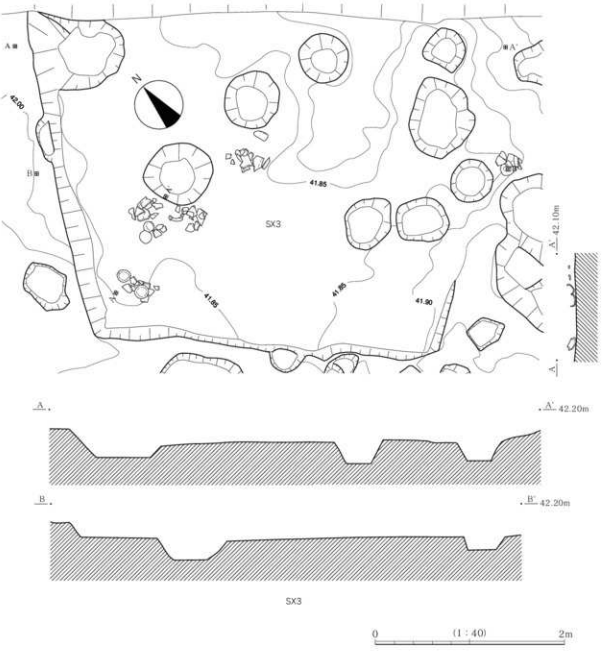
第22図　遺構平面図7


N
SD5
P41
P44
SD4
P42
P43
P50
P45
SD6
SK14
SK13
P47
P87
P48
SK15
P49
P52
P19
P18
P17
P16
P51
P13
P12
SX3
P7
P14
P15
P20
0
(1：100)
5m

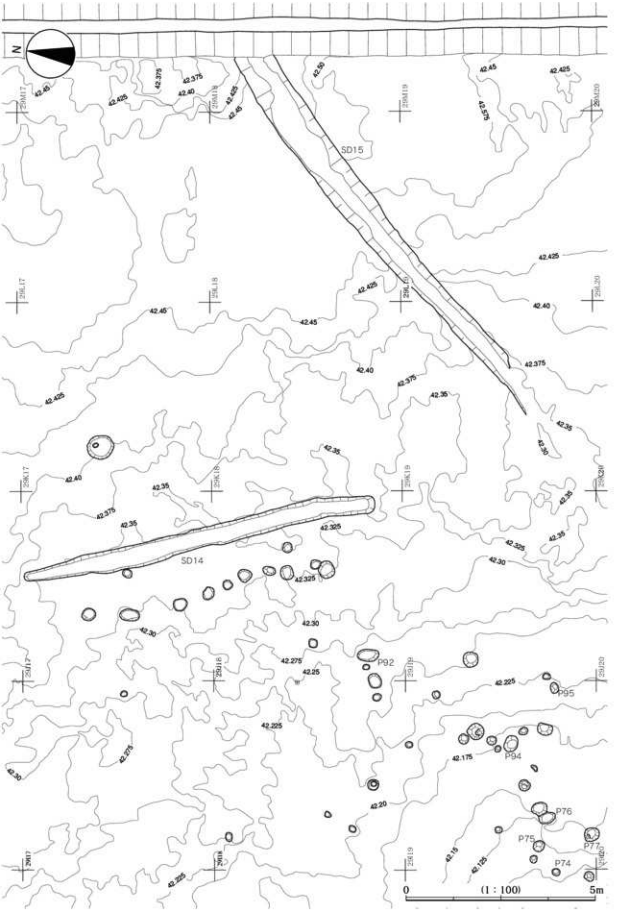
第23図 遺構平面図8



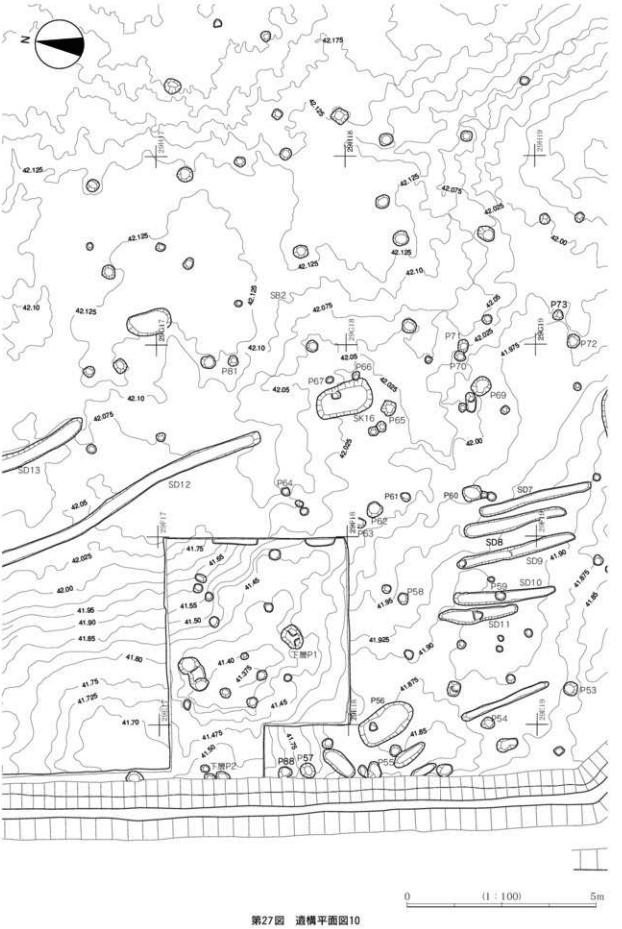
第24図　遺構個別図10



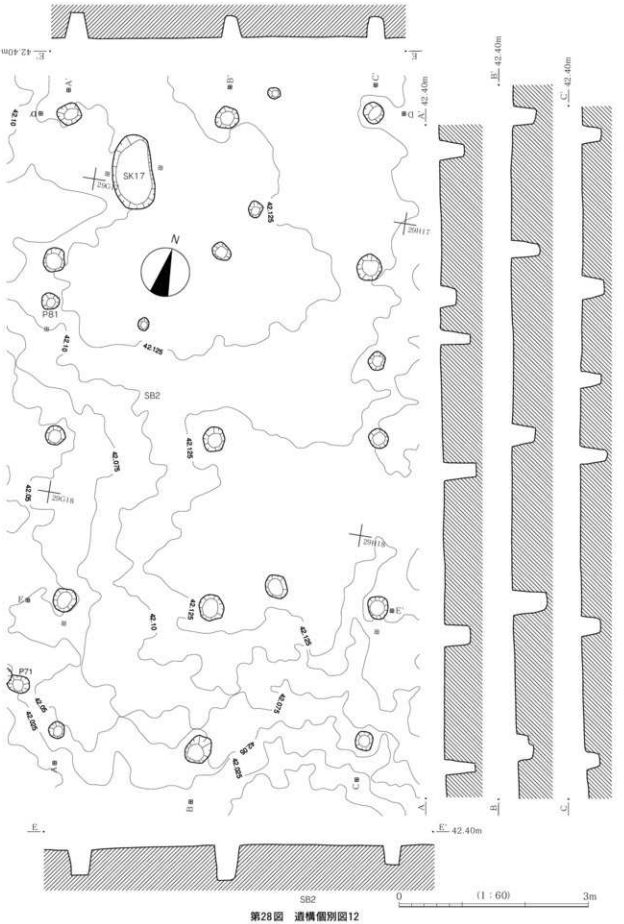
第25図　遺構平面図11



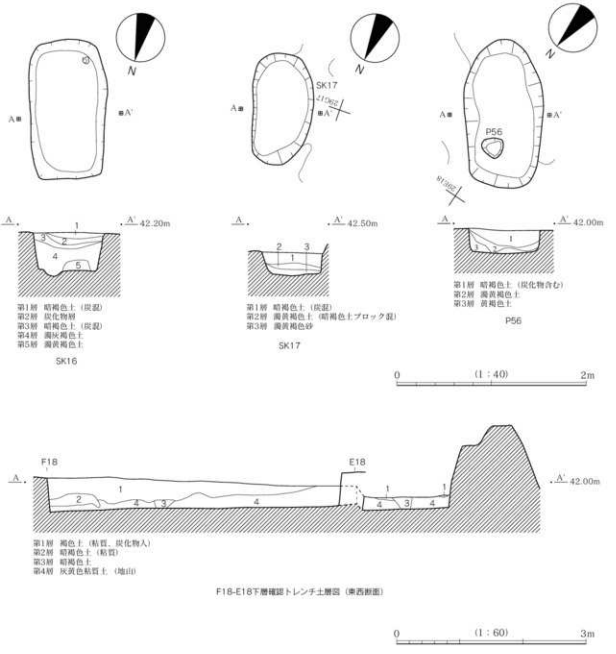
第26図　遺構平面図9



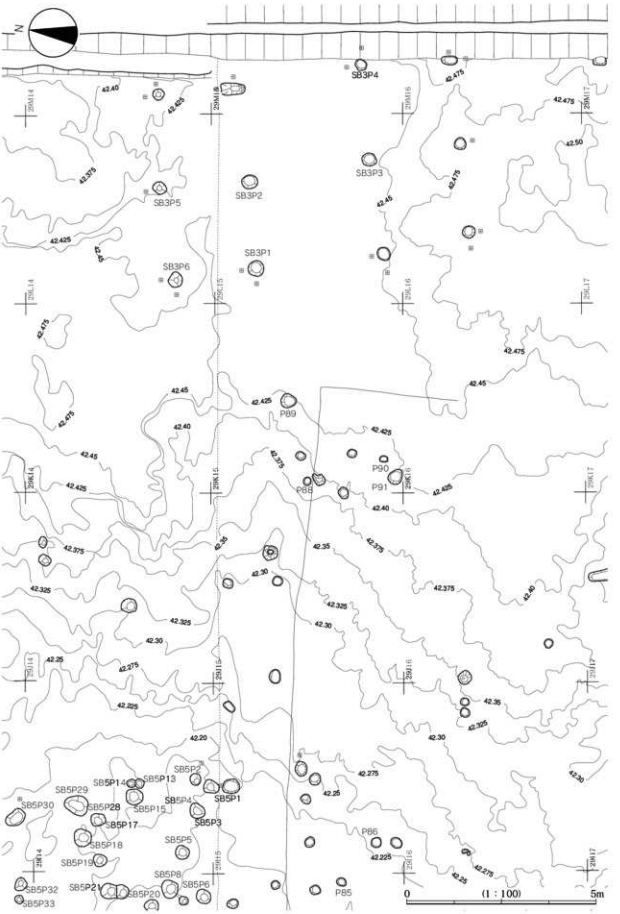
第27図 遺構平面図10



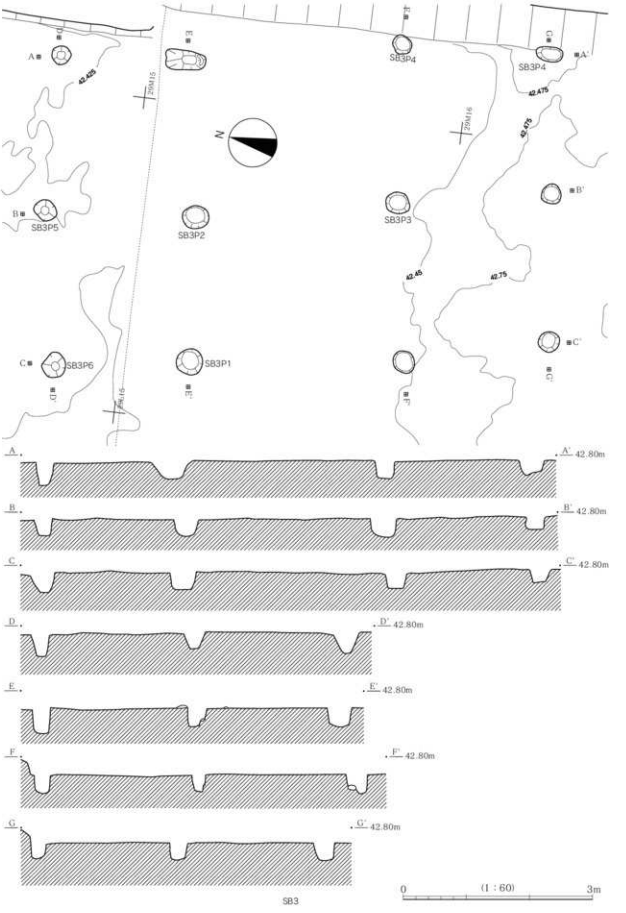
第28図　遺構個別図12



第29図　遺構個別図13

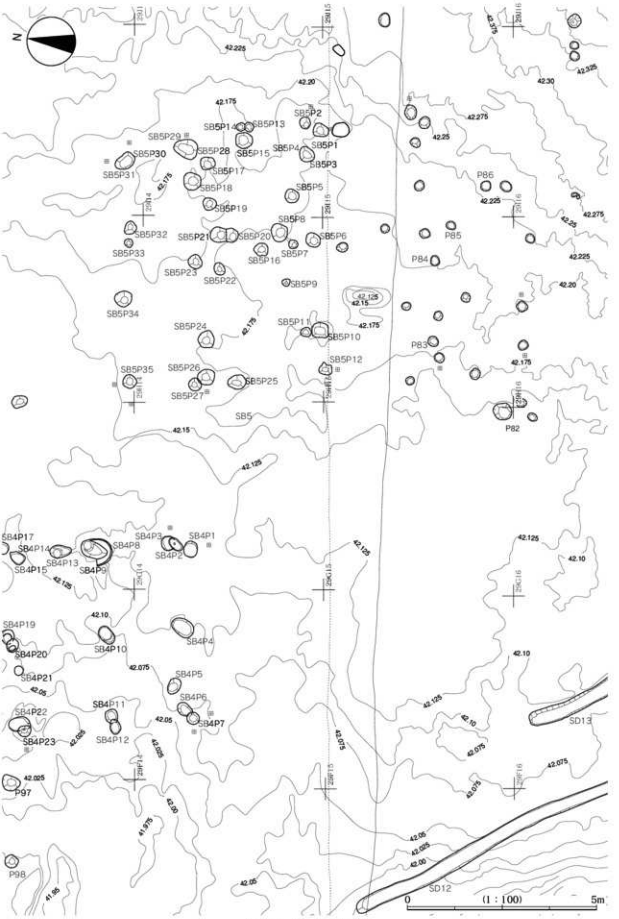


第30図　遺構平面図11

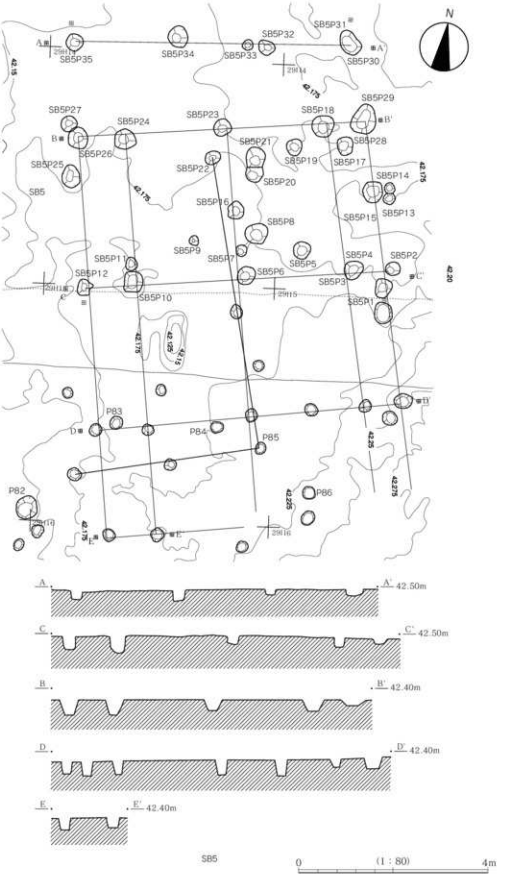


SB3

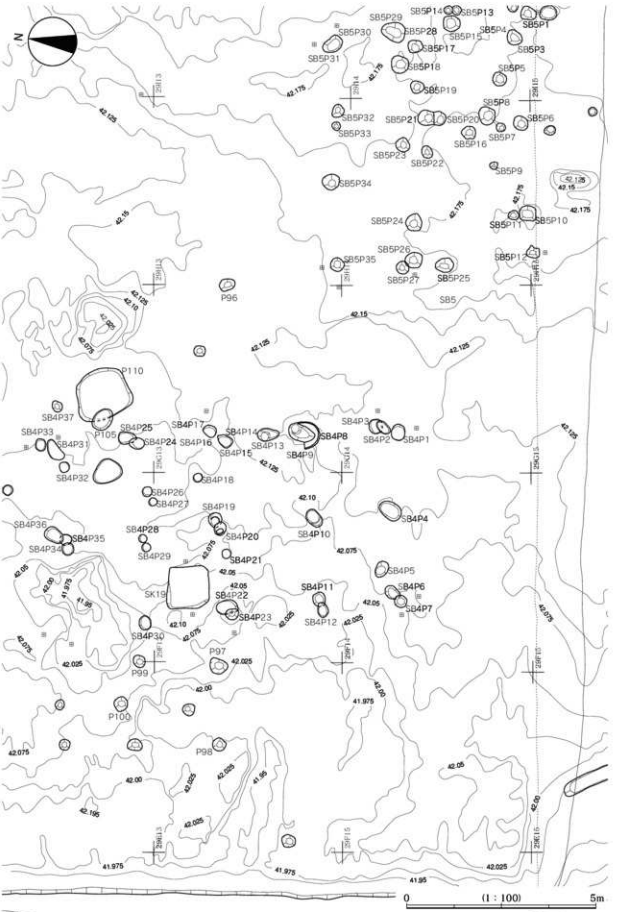
第31図 遺構個別図14



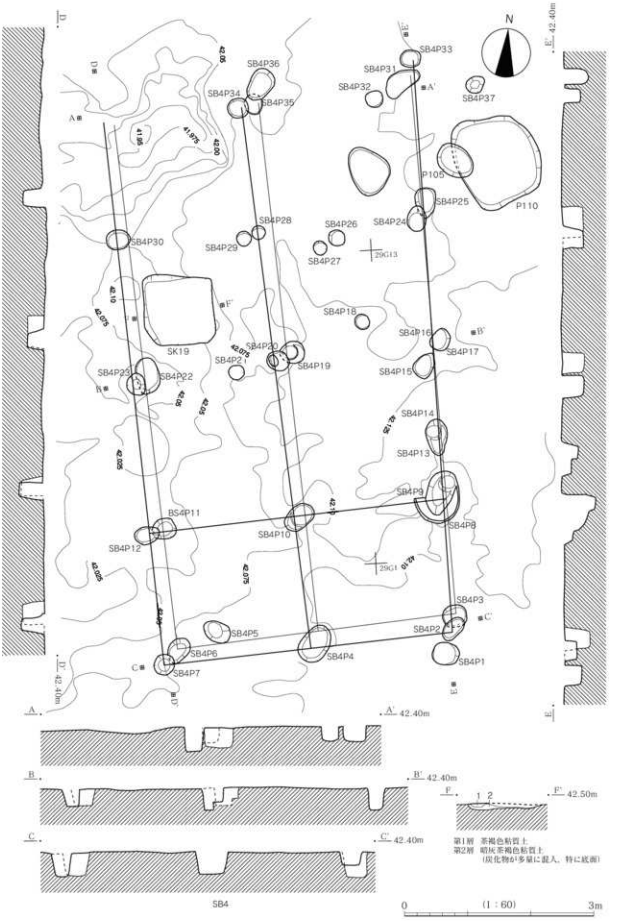
第32図　遺構平面図12



第33図　遺構個別図15

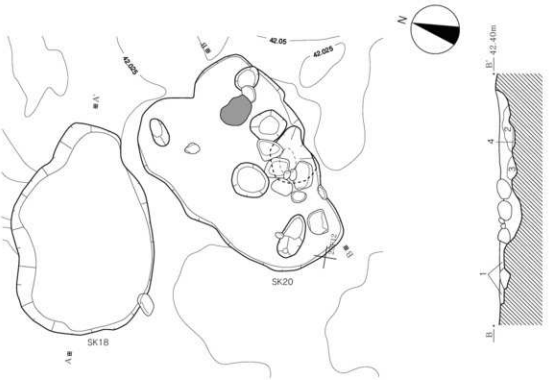


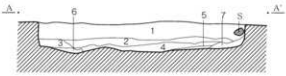
第34図　遺構平面図13



第35図　遺構個別図16

第36図　遺構平面図14

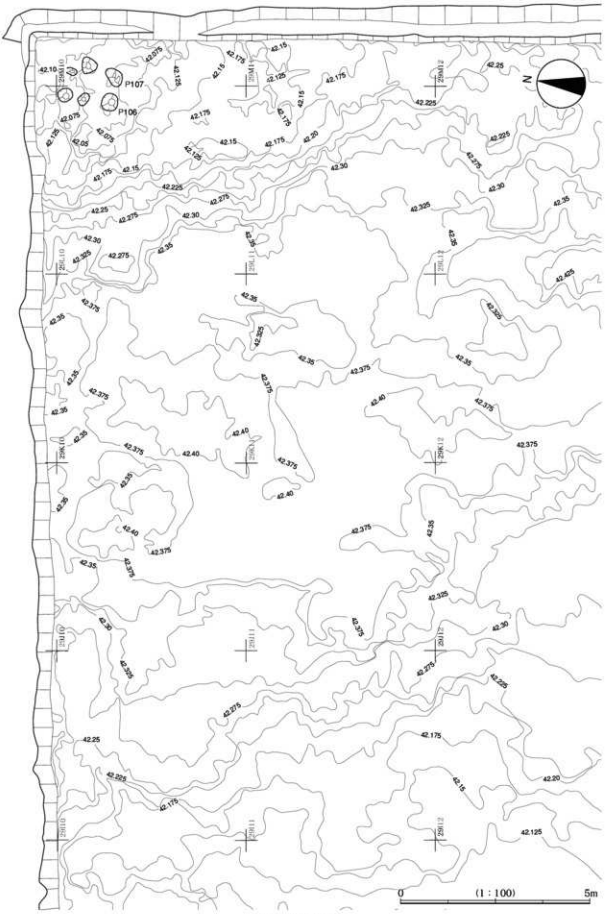




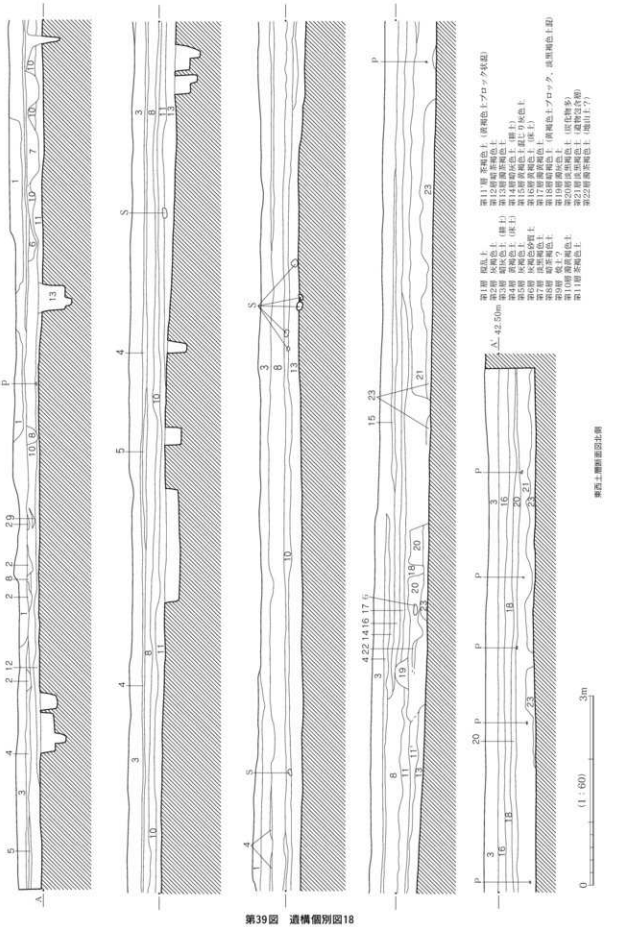
第1層　茶褐色粘質土（褐色粘ブロック混入，炭化物混入）
第2層　暗茶褐色粘質土（褐色粘ブロック混入，炭化物多量混入）
第3層　褐色粘質土（炭化物混入）
第4層　暗赤茶褐色粘質土（焼土）
ベース，灰黄色粘シルト

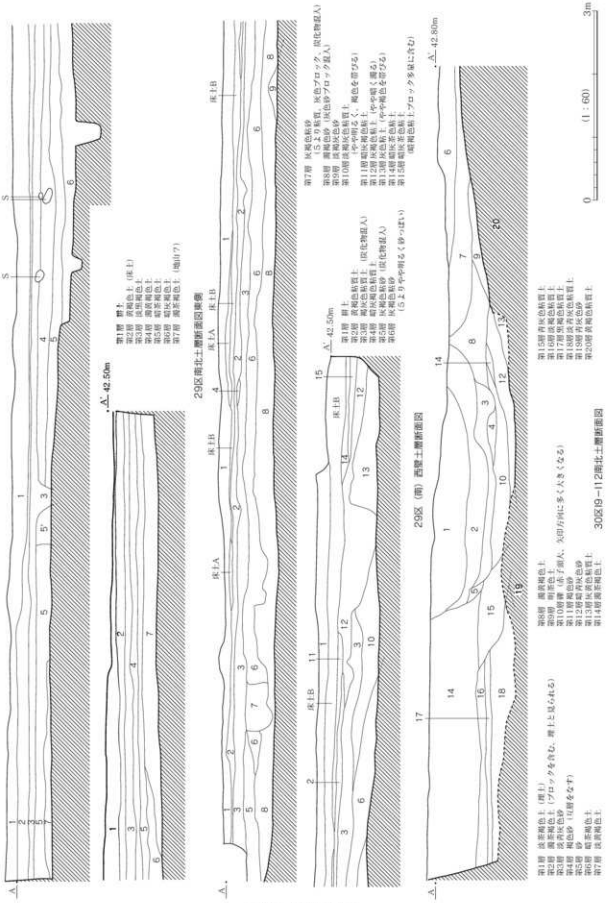
0　(1：40)　2m

第37図　遺構個別図17

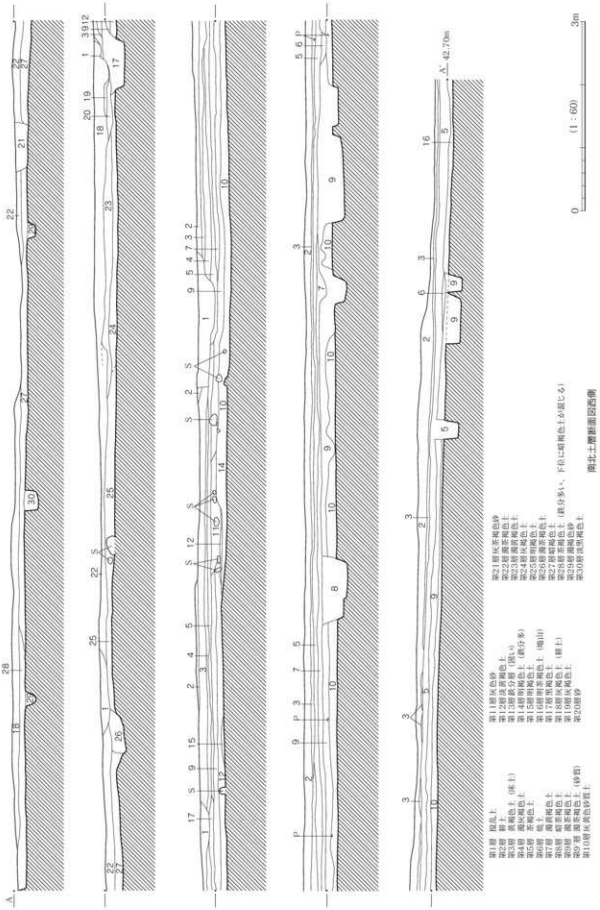


第38図　遺構平面図15


第1層 暗色土
第2層 灰褐色土
第3層 褐色土（粗土）
第4層 褐色土（細土）
第5層 灰褐色土
第6層 灰褐色砂質土
第7層 暗灰褐色土
第8層 灰褐色土
第9層 灰褐色土
第10層 灰褐色土
第11層 暗灰褐色土
第12層 灰褐色土
第13層 灰褐色土（炭化物多）
第14層 灰褐色土
第15層 灰褐色土
第16層 灰褐色土
第17層 灰褐色土
第18層 灰褐色土
第19層 灰褐色土
第20層 灰褐色土
第21層 灰褐色土
第22層 灰褐色土
第23層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第24層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第25層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第26層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第27層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第28層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第29層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第30層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第31層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第32層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第33層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第34層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第35層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第36層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第37層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第38層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第39層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第40層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第41層 灰褐色土（地山ブロック状混）
第42層 灰褐色土（地山ブロック状混）



第40図　遺構個別図19



第41図 遺構個別図 20

第2節　遺　　物

弥生時代から近世までの遺物が出土している。時期ごとに粗密があり、また全く遺物の出土がない時代もある。ここでは遺構外から出土した遺物のうち時代ごとに特記すべきものを述べる。

弥生時代の遺物

弥生時代後期後半から末の遺物が一定量出土している。D・E17で下層確認トレンチが設定されているが、その部分からの出土が特に多いようである。他に170・171のような弥生時代前期と考えられる赤塗りをした条痕文壺が出土している。なお胎土中には多量の海面骨針を含んでいる。

古墳時代の遺物

古墳時代中期頃を中心とした遺物がF・G4～6といったところにまとまって出土している。これはSX4等との関連が考えられる。古墳時代後期の遺物はそれほど目立たず、須恵器の出土は無いようである。

古代の遺物

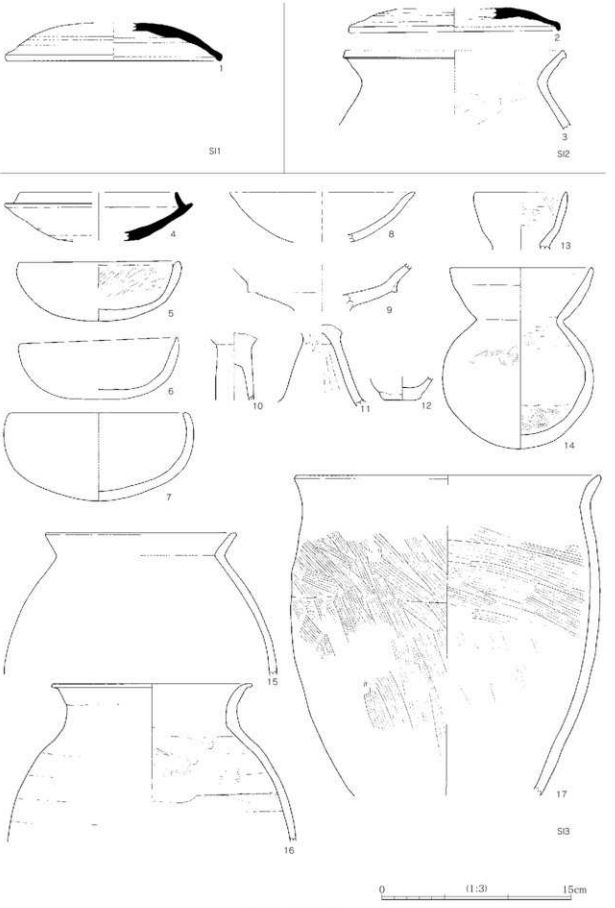
Ⅰ1期と考えられる遺物から出土している。それほど包含層からの出土量は多くない。Ⅰ2～Ⅱ2期にあたる遺物の出土はなくなり、再びみられるようになるのはⅡ3期からである。その後は途切れずⅥ2期頃まで続く。E17からは、暗文のある赤彩土師器杯が出土している。

中世以降の遺物

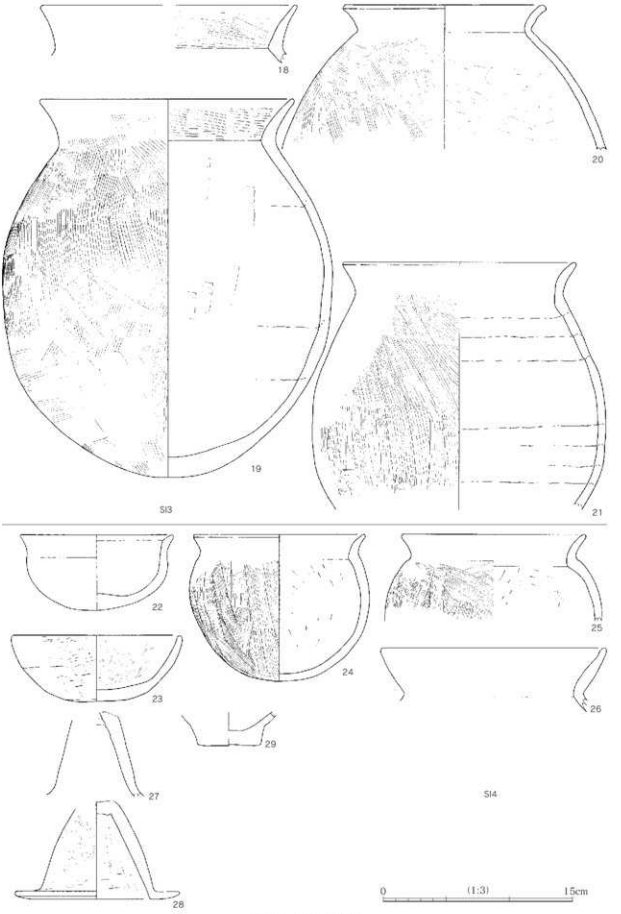
中世前半と考えられる遺物は、174・262・263・317などの土師器があげられる。その後は続かないようで、378～388などの中世後半以降近世・近代の遺物が散発的に出土しているようである。

その他

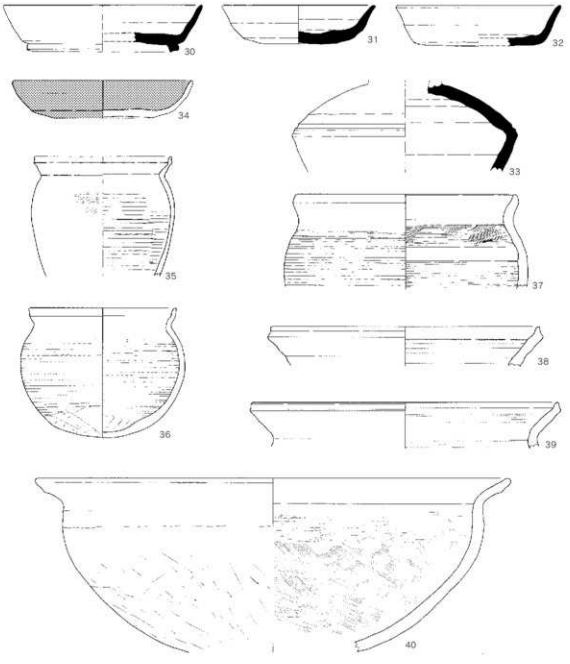
E・F16～18からは鉱滓や鞴羽口が出土している。



第42図 遺物実測図1



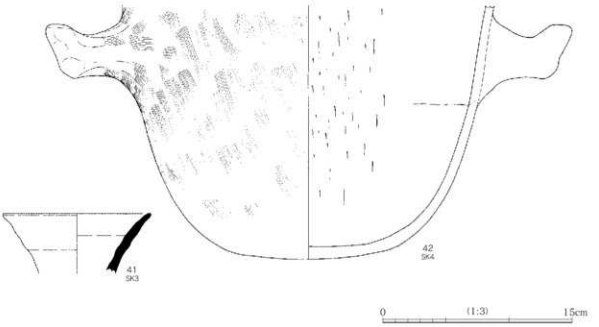
第43図　遺物実測図2



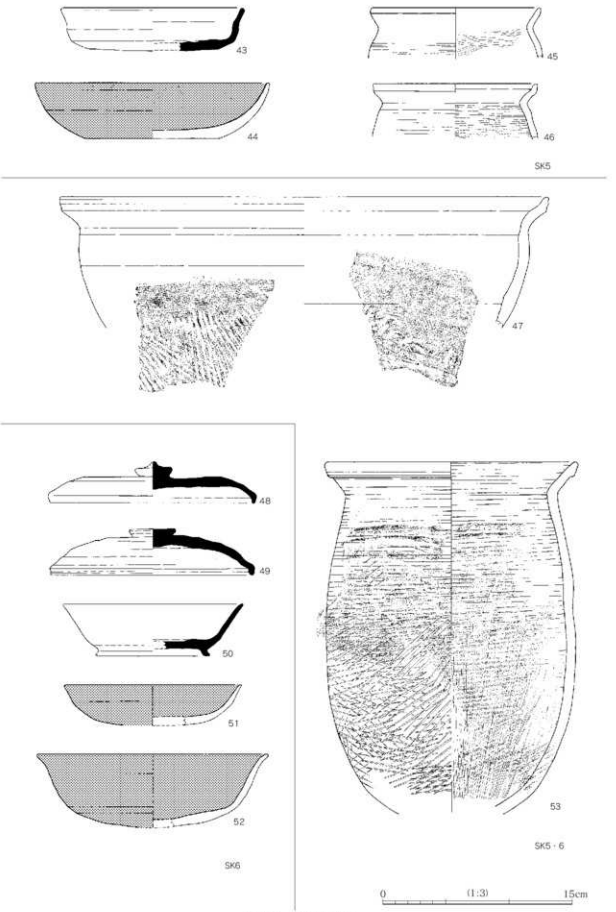
SK1

0 (1:3) 15cm

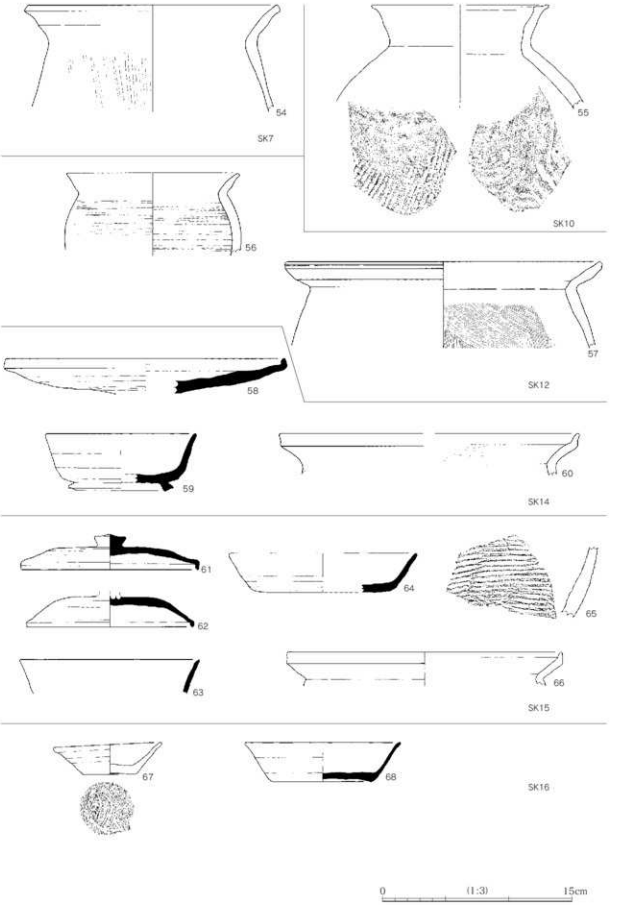
第44図 遺物実測図3



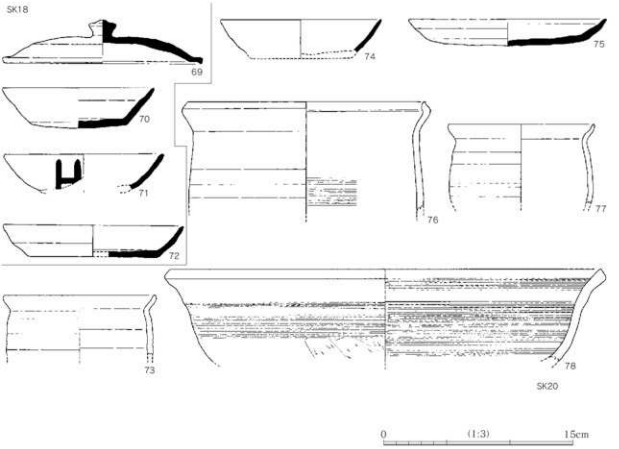
第45図　遺物実測図4



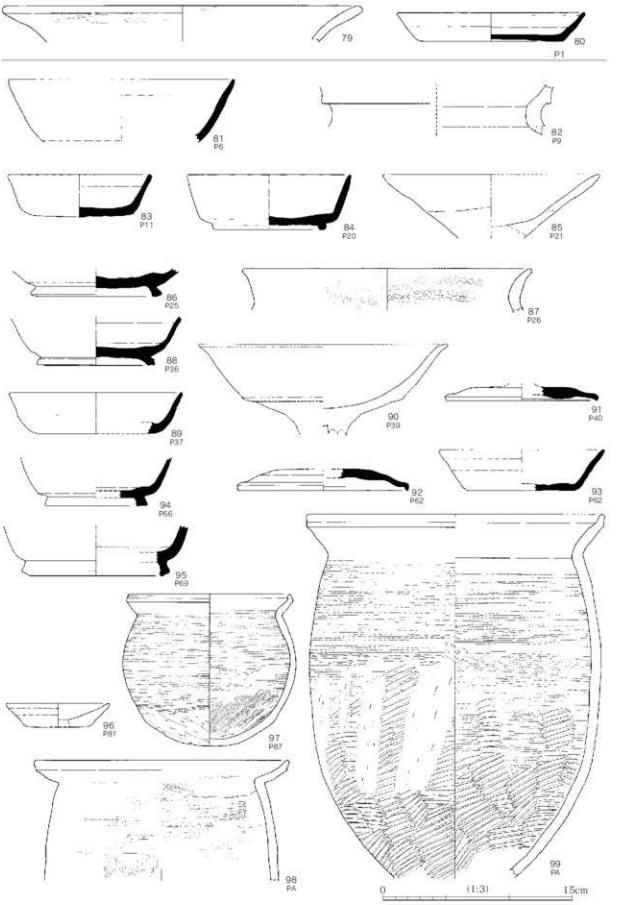
第46図 遺物実測図5


54
SK7
55
SK10
56
57
SK12
58
59
60
SK14
61
62
63
64
65
66
SK15
67
68
SK16
0
(1:3)
15cm

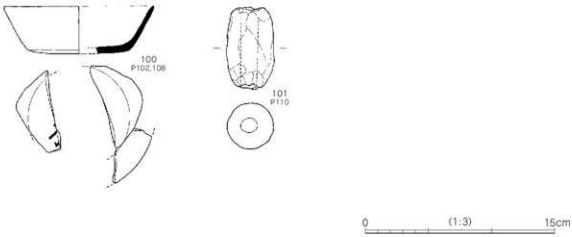
第47図　遺物実測図6



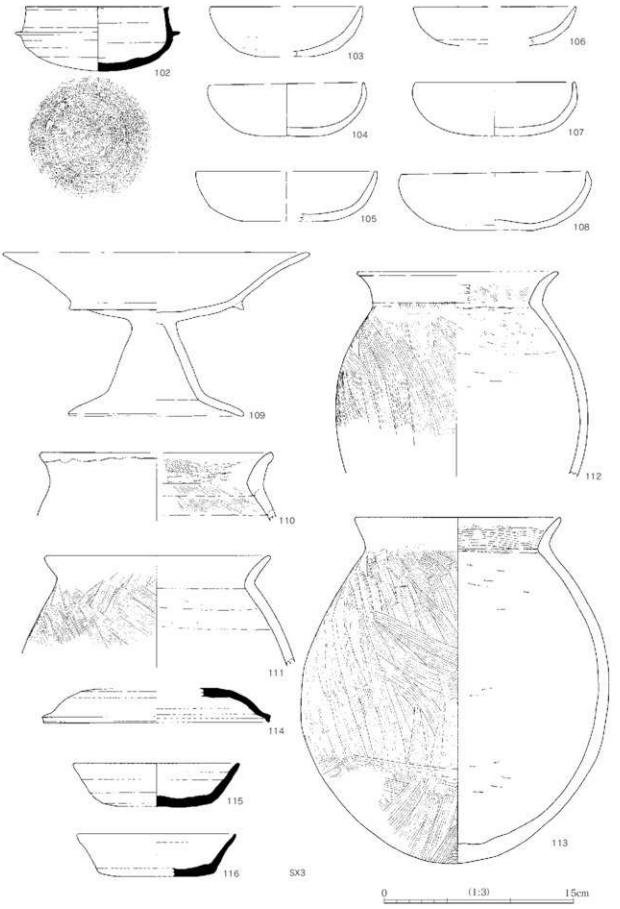
第48図　遺物実測図7


79
80
P1
81
P6
82
P9
83
P11
84
P20
85
P21
86
P25
87
P26
88
P36
89
P37
90
P39
91
P40
92
P62
93
P62
94
P66
95
P69
96
P81
97
P87
98
PA
99
PA
0
(1:3)
15cm

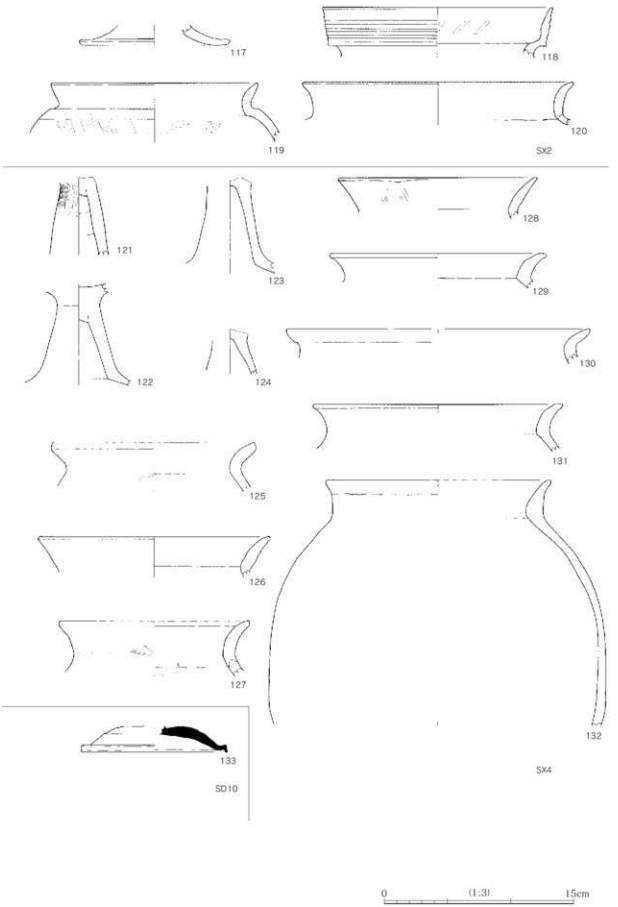
第49図　遺物実測図8



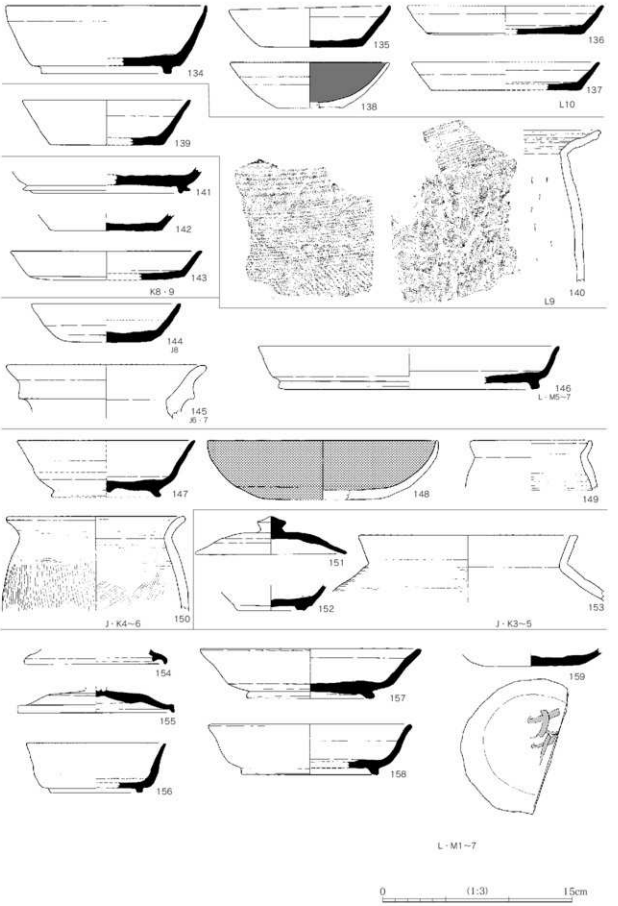
第50図　遺物実測図9



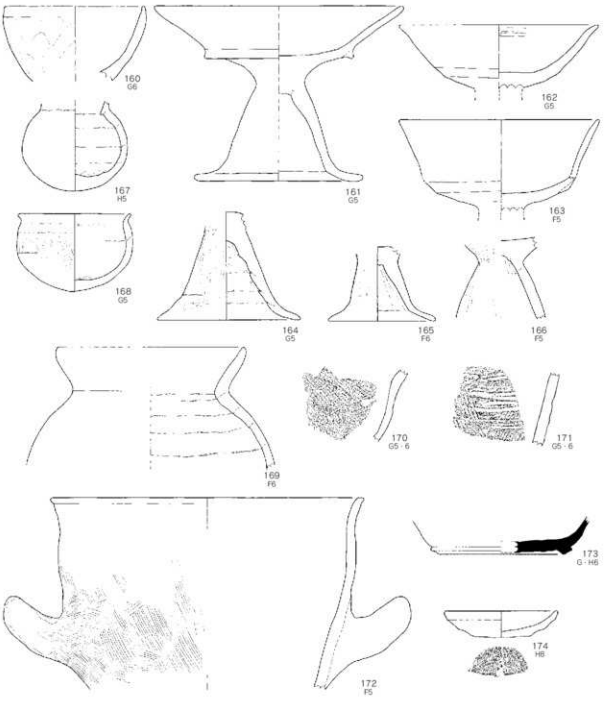
第51図　遺物実測図10



第52図 遺物実測図11

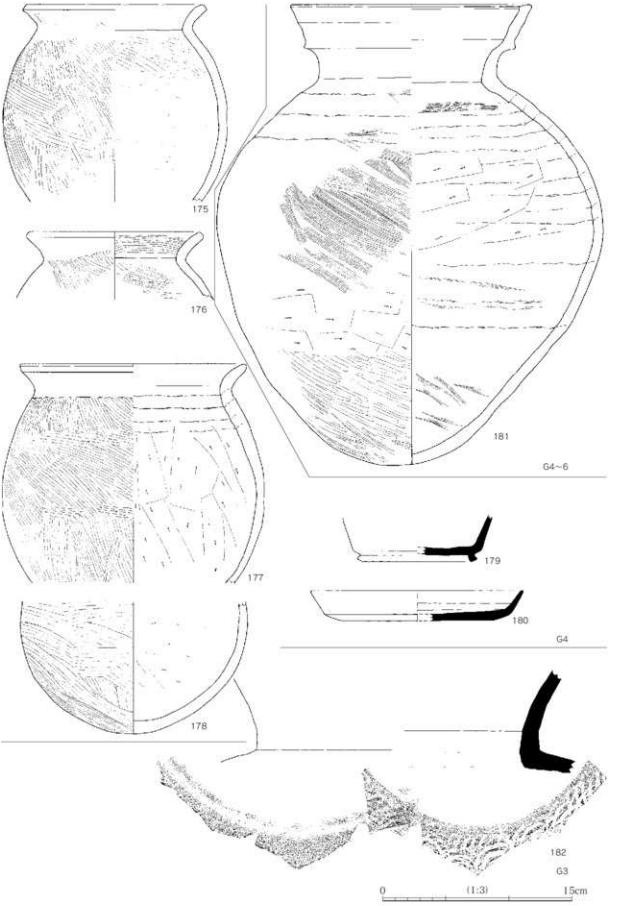


第53図　遺物実測図12

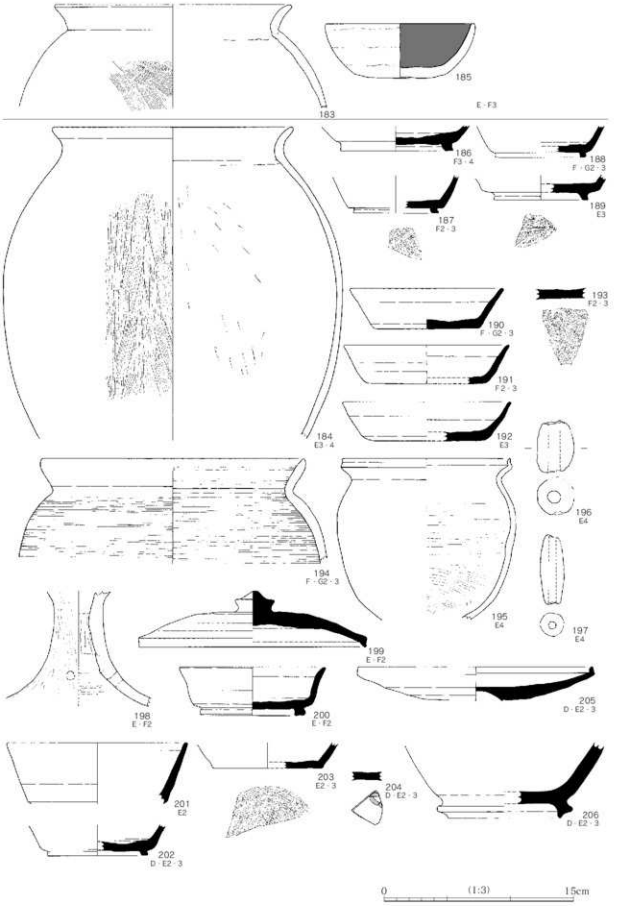


0 (1:3) 15cm

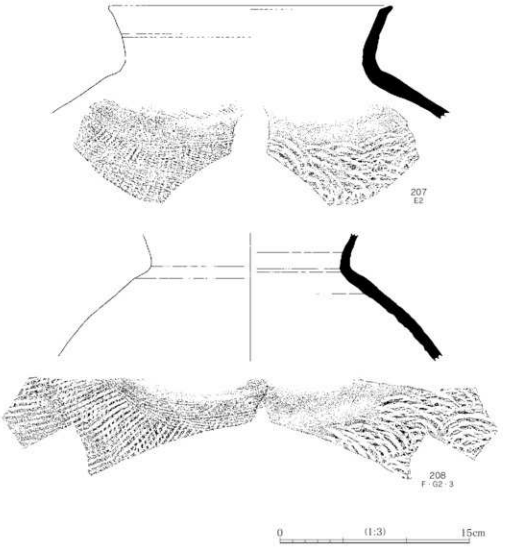
第54図 遺物実測図13



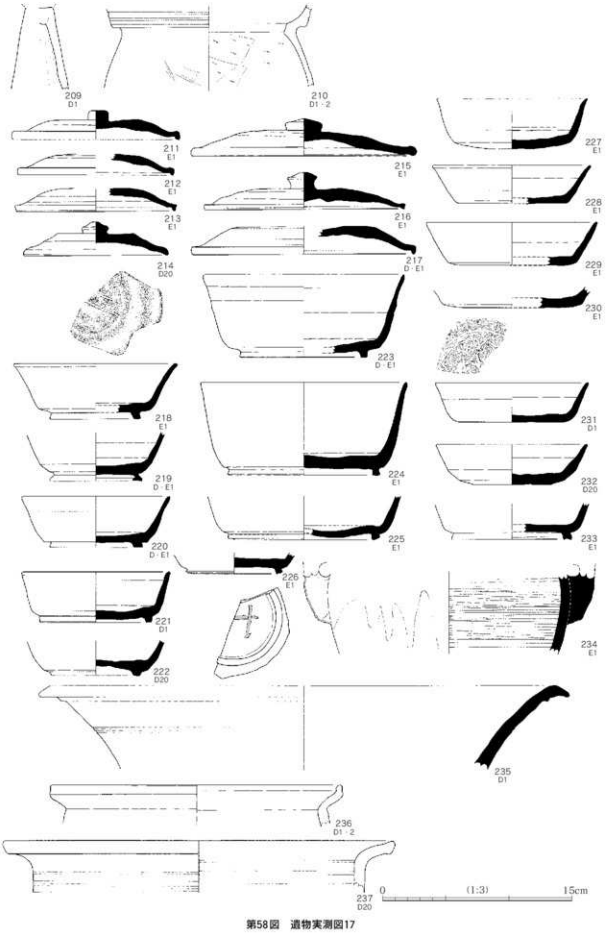
第55図　遺物実測図14



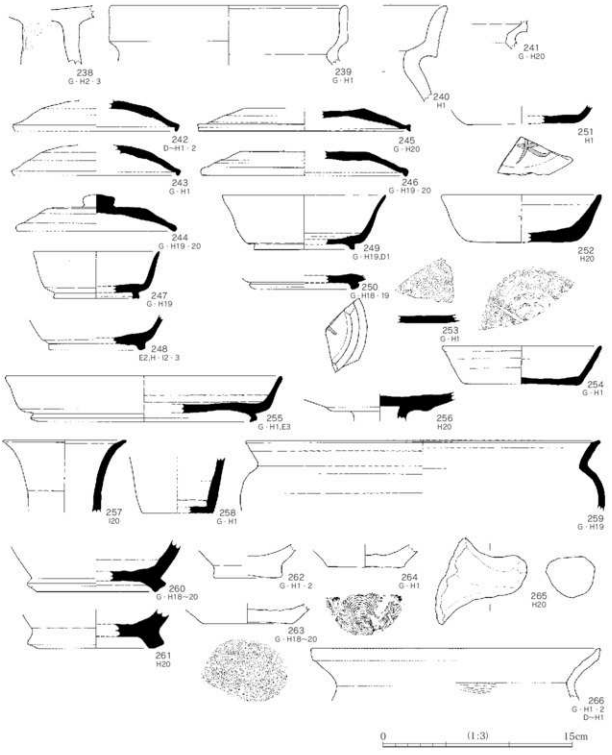
第56図 遺物実測図15



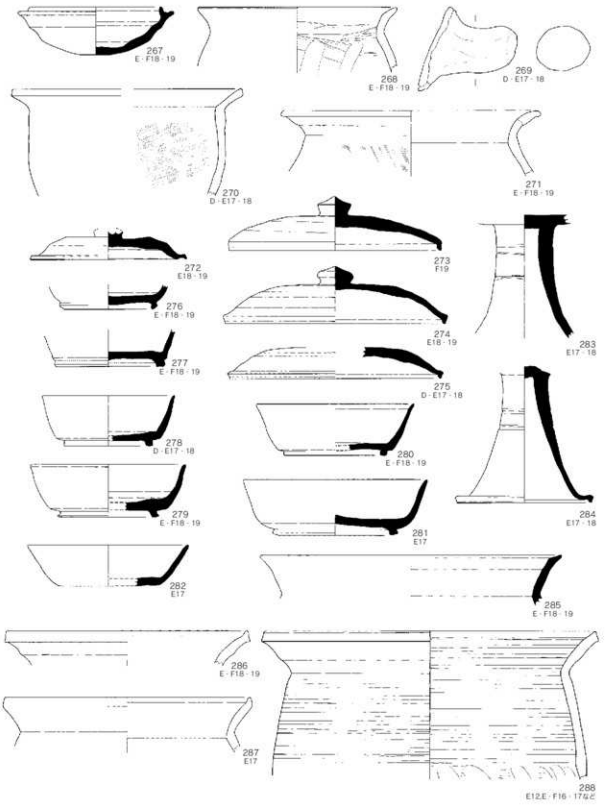
第57図　遺物実測図16



第58図 遺物実測図17

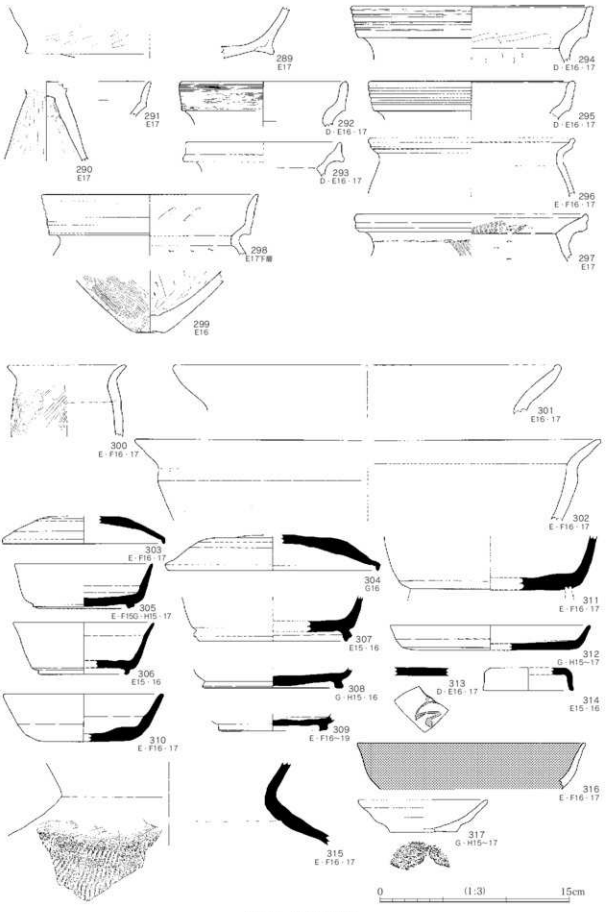


第59図　遺物実測図18

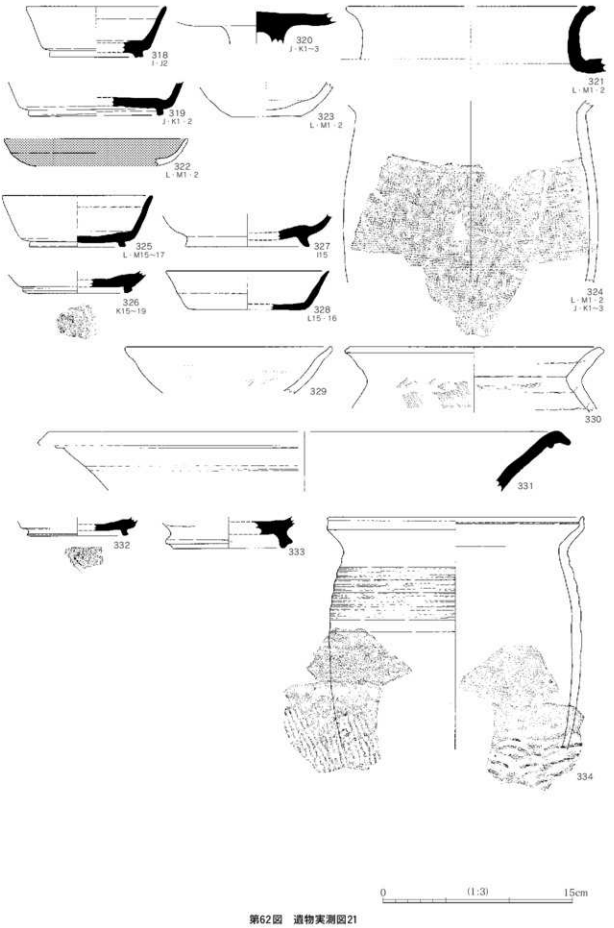


0 (1:3) 15cm

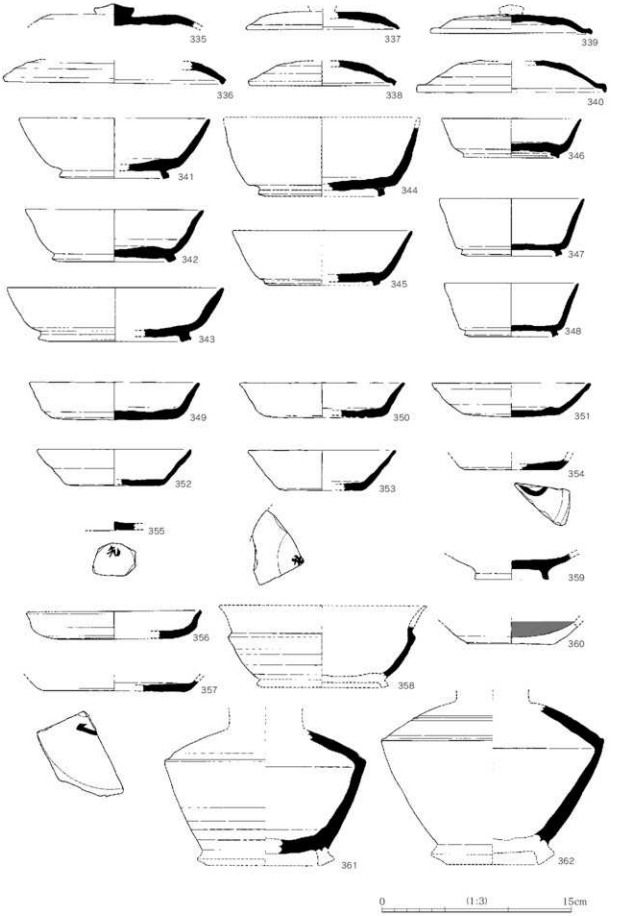
第60図 遺物実測図19



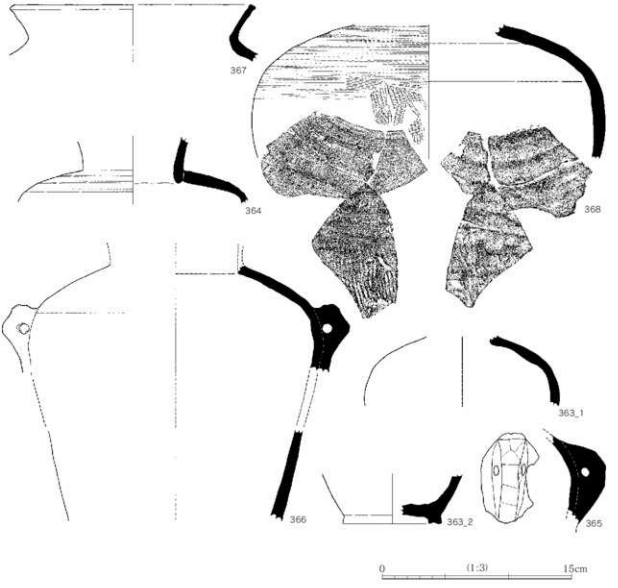
第61図　遺物実測図20



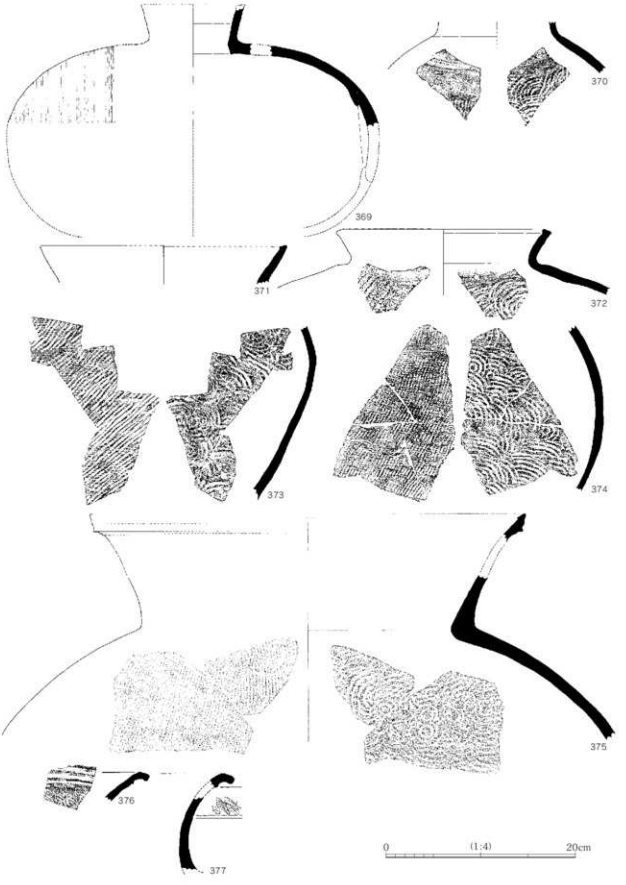
第62図 遺物実測図21



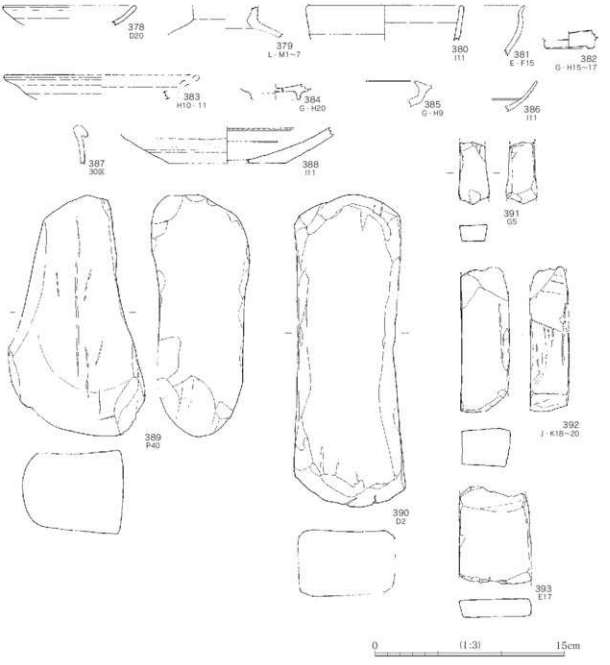
第63図　遺物実測図22



第64図 遺物実測図23



第65図　遺物実測図24



第66図 遺物実測図25

第３節　土器の胎土分類と分析

胎土の分類

須恵器の胎土をＡ～Ｇ・Ｘの８タイプに分けた。Ａは南加賀、Ｂは能美、Ｃは末、Ｄは高松押水、Ｅは羽咋、Ｆは鳥屋、Ｇは非在地、Ｘは観法寺の各窯跡群産（北陸古代土器研究会1988）の須恵器と考えている。観法寺窯の製品については、窯跡群の調査が無く詳細については不明な点が多いが、表採された資料が指江遺跡の発掘調査報告書（大西2002）で報告されており、その中で「胎土中に海面骨針を含む資料が多い点、断面が赤色化している資料が多い点」が胎土の特徴としてあげられている。また、観法寺窯周辺で観法寺ジンヤマ窯跡他確認調査が2002年度に当埋蔵文化財センターで行ったが、そのとき採集された須恵器を参考に分類した。観法寺窯跡はⅠⅠ期から開窯し末窯が開窯すると考えられる（出越1989）Ⅲ期まで生産が行われていたと考えられる。

土師器については、胎土中に海綿骨針が含まれているか否かを基準に大きく２つに分けた。海面骨針を含んでいるものをａ類、含まないものをｂ類とした。また砂粒をほとんど含まないものを１、中量含むものを２、多量に含むものを３とした。砂粒の粒径によってさらに細分することも可能ではあったが、類別が多くなり判断しにくいこともあり、細別しなかった。

須恵器の供給について

Ⅱ3期以降須恵器の産地別に供給の割合がどのように変化していくかについてみてみる。Ⅱ3期からとしたのは、ⅠⅠ期から木津遺跡では在地の須恵器もみられるようになるが、古代の集落が継続的に営まれるようになるのはⅡ3期以降と考えられ、以降Ⅵ期までの資料が豊富だからである。

Ⅱ3～Ⅲ期の奈良時代前半期では南加賀窯の製品が多く、次いで能美窯の製品が多い。末窯に分類できる胎土のものも一定量を占め、高松窯と分類できるものもあり、ほぼ最初の段階からこの地域に供給する須恵器窯跡の製品が出揃っているといえる。Ⅳ期になると能美窯が南加賀窯と並ぶようになり、Ⅴ期以降能美窯の製品を主体として供給されていると考えられる。ただし圧倒的な割合を示すものはなく、すべての供給領域の縁辺にあたっているような様相を呈している。この割合は、供膳具と貯蔵具をまとめている。供膳具・貯蔵具に分けて示すと、Ⅱ～Ⅳ期においては、南加賀の供膳具・貯蔵具とも全体に占める割合は高い。Ⅴ期以降は能美窯・高松窯の供膳具の比率が高くなっている。また貯蔵具も能美窯のものの比率が高くなる。

それでは時期ごとの詳細な割合をみてみる。Ⅱ期では南加賀で39%、能美窯23%、末窯15%である。観法寺窯と考えられる製品も15%あり、残り8%を高松窯が占める。末窯と比定したものは開窯時期を考えると難しく、観法寺窯としたものに含まれる可能性がある。

Ⅲ期では南加賀窯61%、能美窯21%、末窯11%、高松窯7%となる。Ⅱ期と比べてそれほど大きな変化はない。南加賀窯製品の80%は供膳具である。

Ⅳ期では南加賀窯40%、能美窯40%、末窯6%、高松窯13%、鳥屋窯1%となる。この期になって能美窯の割合が増え、南加賀と肩を並べる。末窯・高松窯はⅢ期とそれほど割合は変わらない。

Ⅴ期では南加賀窯19%、能美窯35%、末窯10%、高松35%となる。能美窯が南加賀窯を逆転する。また高松窯の比率も増え、能美窯と同じ割合となる。いずれも供膳具の割合が高いが、能美窯のほうが若干貯蔵具の比率が高い。

Ⅵ期では南加賀窯29%、能美窯43%、高松窯29%となる。この期になり末窯の製品はみられなくなる。土師器については末窯産とみられるものがあり、須恵器生産が終了しても供給領域内にあるといえる。資料点数も少なくなりこの期が古代においての木津遺跡の終焉と考えられる。この期における貯蔵具はほとんどみられない。

土師器の産地

古墳時代の土師器には、海面骨針が含まれているものが多い。弥生時代前期の条痕文壺にも多量に含まれている。古代になると海面骨針の含まれているものはほとんど無くなる。これは、集落周辺で生産されていたものが、須恵器の窯場の周辺で焼かれるようになるという変化に伴うと考えられる。

仮に、海面骨針が含まれているものを在地産とすると弥生時代末の土器は、他所からの搬入品であるとも考えられる。

第2表　出土土器の時期と胎土

時期	須恵器								小計	土師器						小計	合計
	A	B	C	D	E	F	G	H		a1	a2	a3	b1	b2	b3		
弥生前期									0			2				2	2
弥生後期									0			2		4	4	10	10
弥生末									0					3	3	6	6
古墳前期									0	1	2				1	4	4
古墳中期							1		1	18	7		6	9	7	47	48
古墳後期									0	1	3		1	2	6	13	13
Ⅰ	2								2	1	2		1	6	7	17	19
Ⅱ	5	3	2	1				2	13				1	5	9	15	28
Ⅲ	17	6	3	2					28				1	7	10	18	46
Ⅳ	38	38	6	12		1			95					1	3	4	99
Ⅴ	9	17	5	17					48				1	2	1	4	52
Ⅵ	2	3		2					7	2						2	9
中世Ⅰ									0	1			1	2		5	5
中世Ⅱ									0				1			1	1
合計	73	67	16	34	0	1	1	2	194	24	15	4	13	41	51	148	342

※表中の数値は実測した遺物点数

第３表　出土遺物観察表１

掲載番号	図版番号	実測	種別	器種	調査	大グリッド	グリッド	遺構	層位	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	重量(g)	色調	胎土分類	時期	備考
42	1	16	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	L9	SI1		174				灰白色	A	Ⅱ3	外ケズリ
42	2	39	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	L9	SI2		168				灰色	A？	Ⅲ	内面沉んでいる
42	3	312	土師器	椀	第1次	30区	L9	SI2P1		178				橙色	b3	古墳	外摩耗の為調整不明、内ナデ・ケズリ
42	4	40	須恵器	杯B身	第1次	30区	H6	SI3	掘土上層					灰色	A	Ⅰ1	外ケズリ、歪み著しい為底部はっきりしない
42	5	293	土師器	椀	第1次	30区	H6	SI3P3		131	48			橙色	a1	Ⅰ1	外ハケ調整後ミガキ、内斜方向のミガキ
42	6	32	土師器	椀	第1次	30区	H6	SI3	掘土中層	128	49			にぶい橙色	b3	Ⅰ1	
42	7	300	土師器	椀	第1次	30区	H6	SI3P5		140	70			橙色	b2	Ⅰ1	外ケズリ後ナデ、内強いナデ
42	8	42	土師器	高杯	第1次	30区	H6	SI3	床面					橙色	a1	5世紀中葉	
42	9	46	土師器	高杯	第1次	30区	H6	SI3	掘土上層					橙色	b2	5世紀中葉	内ミガキ、内面内黒？
42	10	45	土師器	高杯	第1次	30区	H6	SI3	掘土上層					にぶい褐色	a1	5世紀中葉	
42	11	43	土師器	高杯	第1次	30区	H6	SI3	掘土上層					橙色	a1	5世紀中葉	外縦方向のミガキ、内面成形時に出来た工具痕跡残
42	12	47	土師器	手づくね	第1次	30区	H6	SI3	掘土上層			30		淡黄橙色	a1	5世紀中葉	
42	13	41	土師器	壺	第1次	30区	H6	SI3	床面③	74				橙色	b2	5世紀中葉	内ハケメ
42	14	296	土師器	壺	第1次	30区	H6	SI3	掘土上層	112	144			明黄橙色	不明	5世紀中葉	外内ハケ調整後ナデ、外内面部分的に黒斑
42	15	31	土師器	甕	第1次	30区	H6	SI3	掘土上層	152				明赤褐色	不明	Ⅰ1	外内摩耗著しい、外面煤付着
42	16	320	土師器	甕	第1次	30区	H6	SI3	掘土下層	159				にぶい橙色	b3	Ⅰ1	口縁ヨコナデ、内2～8条の荒いハケ調整後ナデ、内鍵かぎハケメ、輪積み痕、外約2cm幅の輪積み痕
42	17	302	土師器	甕	第1次	30区	H6	SI3	床面	246				にぶい橙色	a2	Ⅰ1？	口縁ヨコナデ、内ハケ、外ハケメ、接合痕
43	18	44	土師器	甕	第1次	30区	H6	SI3	掘土上層					にぶい橙色	a2	Ⅰ1	外ヨコナデ、内ハケメ（単位8～9条？）
43	19	311	土師器	甕	第1次	30区	H6	SI3	床面	200	293			橙褐色	b1	Ⅰ1	口縁ハケ調整後ヨコナデ、外ハケメ・ケズリ・ナデ、内ヘラ状工具によるナデ・幅の広いヘラ状工具による強いナデ、最大側径264mm、外面煤状のもの付着、巻き上げ痕
43	20	323	土師器	甕	第1次	30区	H6	SI3	床面2	162				浅黄橙色	b3	Ⅰ1	外ナデ・ハケ、内ナデ・ケズリ、外面煤付着
43	21	317	土師器	甕	第1次	30区	H6	SI3	壁面①	194				にぶい黄橙色	b3	Ⅰ1	外ヨコナデ後ハケメ（約1.5～2mm幅）、輪積み痕、粘土幅約1mm、器面摩耗、外面煤付着
43	22	291	土師器	鉢	第1次	30区	G7	SI4	掘土上層	122	56			にぶい黄橙色	a1	6世紀代	外ヨコナデ、外部分的に煤付着
43	23	38	内黒土師器	椀	第1次	30区	G7	SI4、SK4		13.6	5.3	4.9		にぶい橙色	b2	6世紀後半	外ミガキ・ケズリ、内ミガキ
43	24	295	土師器	小甕	第1次	30区	G7	SI4	①	137	117			にぶい橙色	b3	6世紀代	外ヨコナデ・ハケメ、内ヨコナデ・ケズリ、外面部分的に煤付着
43	25	36	土師器	甕	第1次	30区	G7	SI4、SK4、SX2	①	146				橙色	b2	6世紀後半	外ヨコナデ、ハケメ、内ヨコナデ
43	26	37	土師器	甕	第1次	30区	G7	SI4	掘土	180				橙色	a2	5世紀代？	内摩耗激しい
43	27	33	土師器	高杯	第1次	30区	G7	SI4	掘土上層					橙色	b1	5世紀代？	
43	28	34	土師器	高杯	第1次	30区	G7	SI4	掘土			131		にぶい橙色	a1	5世紀前半	外斜方向の細かいミガキ・横方向のミガキ、内ケズリ
43	29	35	弥生土器	壺	第1次	30区	G7	SI4	掘土上層			51		にぶい橙色	a3	弥生後期	外面煤付着
44	30	262	須恵器	杯B身	第1次	30区	J8	SK1	掘土下層	156	37	108		灰色	A	Ⅲ	
44	31	27	須恵器	杯A	第1次	30区	J8	SK1	掘土	122	30	88	3	灰色	A	Ⅳ1	
44	32	28	須恵器	杯A	第1次	30区	J8	SK1	掘土下層	130	32	103	3	灰色	A	Ⅳ1	
44	33	25	須恵器	長頸瓶	第1次	30区	J8	SK1	掘土下層					灰色	A	Ⅲ～Ⅳ1？	
44	34	26	土師器	杯	第1次	30区	J8	SK1	掘土下層	142	30	78		浅黄橙色	b2	Ⅲ～Ⅳ	摩耗激く調整不明、両面赤彩
44	35	298	土師器	小甕	第1次	30区	J8	SK1	掘土	109				赤橙色	b1	5世紀	外内ロクロナデ、ハケ、内カキメ
44	36	318	土師器	小甕	第1次	30区	J8	SK1	掘土	117	103			にぶい黄橙色	b3	Ⅲ？	外カキメ・ケズリ、内カキメ
44	37	24	土師器	甕？	第1次	30区	J8	SK1	掘土	176				にぶい黄橙色	b3	Ⅲ～Ⅳ1？	外カキメ・ヨコナデ、内カキメ・ハケメ・ヨコナデ、内コゲ付着
44	38	29	土師器	長頸甕	第1次	30区	J8	SK1	掘土	214				にぶい橙色	b3	Ⅲ～Ⅳ	外内ロクロナデ、内カキメ
44	39	30	土師器	長頸甕	第1次	30区	J8	SK1	掘土下層	242				にぶい黄橙色	b3	Ⅲ～Ⅳ	外内ロクロナデ、内カキメ
44	40	309	土師器	鉢	第1次	30区	J8	SK1	掘土下層	378				浅黄橙色	b3	Ⅱ3？	外ナデ・ケズリ、内ナデ・ハケ、外面煤付着
45	41	19	須恵器	甕	第1次	30区	F5	SK3	掘土	116				明灰色	X	Ⅱ3～Ⅲ？	外内面白然釉
45	42	322	土師器	把手付甕	第1次	30区	E3	SK4	②					橙褐色	b3	Ⅰ1	外ハケ調整後ナデ、内ケズリ後ナデ、外煤状のもの付着
46	43	20	須恵器	杯A	第1次	30区	L7	SK5		145	34	102		灰褐色	A	Ⅲ？	

第4表　出土遺物観察表2

掲載番号	図版番号	実測	種別	器種	調査	大グリッド	グリッド	遺構	層位	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	重量(g)	色調	胎土分類	時期	備考
46	44	316	土師器	坏	第1次	30区	L7	SK5	①	186	44	105		赤橙色	b2	墨?	外内赤彩、ミガキ
46	45	21	土師器	小鍋	第1次	30区	L7	SK5		134				にぶい黄橙色	b3	墨?	摩耗のため調整は不明瞭
46	46	23	土師器	小鍋	第1次	30区	L7	SK5		131				にぶい黄橙色	b3	墨?	外内ヨコナデ・カキメ
46	47	22	土師器	鍋	第1次	30区	L7	SK5-6	層土	388				にぶい橙色	b3	墨?	胴外カキメ・ヨコナデ・タタキ、内ハケ・タタキ・ヨコナデ・ケズリ
46	48	13	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	L7	SK6	層土	165	33			暗灰色	B?	墨?	外ヨコナデ・ケズリ、内ヨコナデ
46	49	12	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	L7	SK6	層土上層	162	32			淡灰色	A	墨	外ヨコナデ・ケズリ、内ヨコナデ
46	50	255	須恵器	杯B身	第1次	30区	L7	SK6		141	41	90		灰白色	A	H3	外内ロクロナデ
46	51	314	土師器	坏	第1次	30区	L7	SK6		141				赤橙色	b1		外内とも赤彩、ミガキ、摩耗のためミガキ単位不明
46	52	313	土師器	坏	第1次	30区	L7	SK6		164	59			浅黄橙色	b2	H3	外内ミガキ、外面ミガキ単位不明、外内面赤彩
46	53	307	土師器	長胴甕	第1次	30区	L7	SK5-6		202				にぶい橙色	b3	H3前	外タキメ・タタキ、内ハケ
47	54	14	土師器	甕	第1次	30区	L7	SK7		203				橙色	a3	古墳時代	外ヨコナデ・ハケメ、内不明
47	55	15	須恵器	横瓶	第1次	30区	M5	SK20		119				明灰色	A	墨?	内外白然釉、同心円圧痕
47	56	18	土師器	小鍋	第1次	30区	J5	SK12		135				浅橙褐色	b2	H2?	外内ロクロナデ・カキメ
47	57	17	土師器	甕	第1次	30区	J5	SK12		252				淡橙褐色	b2	H2?	外ヨコナデ・ケズリ、内ハケメ・ヨコナデ、近江系
47	58	1	須恵器	高杯	第1次	29区	G20	SK34		225				灰色	A	N	外ケズリ、内ヨコナデ
47	59	271	須恵器	杯B身	第1次	29区	G20	SK34		117	45	69		灰色	A	N1	外白然釉
47	60	2	土師器	長胴甕	第1次	29区	G20	SK34		238				浅黄橙色	b3	N?	外内ナデ・ハケ
47	61	4	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	F19	SK15	①	142	28			灰色	A	N1?	外白然釉
47	62	3	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	F19	SK15	②	133				灰色	A	N1?	外白然釉
47	63	7	須恵器	杯B身	第1次	29区	F19	SK15		143			2	灰色	C?	N?	
47	64	5	須恵器	杯A	第1次	29区	F19	SK15		149	31	108		灰色	A	墨?	外白然釉
47	65	11	土師器	長胴甕?	第1次	29区	F19	SK15						浅橙褐色	b3	?	
47	66	6	土師器	長胴甕	第1次	29区	F19	SK15		218				浅黄橙色	b3	N?	
47	67	8	土師器	小皿	第1次	29区	F17	SK16	層土上層	87	25	42		淡黄色	b2	中世I-II1?	底面糸切り
47	68	9	須恵器	杯A	第1次	29区	F17	SK16		124	31	79		淡灰色	B	V1	外白然釉
48	69	6	須恵器	杯B蓋	第2次	29区	E・F11	SK18	層土	160	35		2b	灰色	A	V1	
48	70	7	須恵器	杯A	第2次	29区	E・F11	SK18	層土	120	32	267		灰オリーブ色	A	V2	
48	71	8	須恵器	杯A	第2次	29区	E・F11	SK18	層土	126				灰色	D	V2～V1	体外黒書
48	72	9	須恵器	甕A	第2次	29区	E・F11	SK18	層土	143	25	175		くすむ灰色	D	V1	口縁域の小型甕
48	73	10	土師器	小鍋	第2次	29区	E・F11	SK18	層土	120				褐色		V1?	
48	74	1	須恵器	甕A	第2次	29区	F11	SK20	層土	128				灰オリーブ色	B	V1	
48	75	2	須恵器	甕A	第2次	29区	F11	SK20	層土	158	22	139		灰（緑）色	A	V1	ナデ第3号前後
48	76	3	土師器	長甕	第2次	29区	F11	SK20	層土	188				褐色	a1	V1	胴部少量
48	77	4	土師器	小鍋	第2次	29区	F11	SK20	層土	115				橙色	a1	V1	胴部少量
48	78	5	土師器	鍋	第2次	29区	F11	SK20	層土	344				褐色	?	V1?	
49	79	87	土師器	高杯	第1次	29区	E-17	下層9	下層9	28				淡黄橙色	a1	弥生	外内ミガキ
49	80	74	須恵器	無台椀	第1次	30区	L10	P1		148	23	100	3	灰色	B	V2	外面降灰
49	81	80	須恵器	高台杯	第1次	30区	K8	P6		178				暗灰～灰色	A-B	H3間?	外面降灰
49	82	86	土師器	壺	第1次	不明	不明	P9						淡黄橙色	b3	古墳前期	外ヨコナデ、内ヨコナデ・摩耗
49	83	294	須恵器	杯A	第1次	30区	F5	P11	層土上層	113	34	102		淡灰色	A	N2	
49	84	267	須恵器	杯B身	第1次	29区	D20	P20		129	44	89		灰白色	C	N2古	
49	85	84	土師器	高杯	第1次	30区	G6	P21		171				明黄橙色	b2	5世紀後?	外ヨコナデ、内ヨコナデ
49	86	78	須恵器	杯B身	第1次	30区	L6	P25				92		明灰色	?	H3	
49	87	83	土師器	甕	第1次	30区	L6	P26		228				淡橙色	b3	5世紀代?	外内ハケ後ナデ、内面赤彩?
49	88	73	須恵器	杯B身	第1次	30区	K5	P36				92	1	明灰色	B	墨?	
49	89	79	須恵器	杯A	第1次	30区	M4	P37		136	23	96	3	明灰色	D?	N1	外面降灰
49	90	321	土師器	高杯	第1次	30区	K3	P39		198				にぶい赤褐色	a1	古墳前期	内ミガキ、外摩耗の為調整不明
49	91	81	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	K2	P40		120				灰色	D	V1	
49	92	77	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	F18	P62		134			2B	灰色	B?	N2前	降灰
49	93	75	須恵器	杯A	第1次	29区	F18	P62		130	72	88		淡灰色	B	V2	
49	94	281	須恵器	杯B身	第1次	29区	F18	P66				78		灰色	A	N1?	
49	95	76	須恵器	高台杯	第1次	29区	F18	P69				10.6		明灰	?	N?	
49	96	82	土師器	小皿	第1次	29区	F17	P81		81	19	52		淡橙色	b2	中世I-II	外内ロクロナデ
49	97	305	土師器	小鍋	第1次	不明	不明	P87		133	121			にぶい褐色	b3	H3～II?	外ヨコナデ・カキメ・ケズリ、内ヨコナデ・ハケメ
49	98	85	土師器	長胴甕	第1次	29区	F19	P A		200				淡黄褐	b3	H3間?	外ヨコナデ・カキメ・ハケメ、内ヨコナデ・ハケメ、外スス付着
49	99	308	土師器	長胴甕	第1次	29区	F19	P A		258				にぶい橙色	b3	H3?	近江系?
50	100	12	須恵器	杯A	第2次	29区	E 10	P102 P108	層土	120	38	317		灰（緑）	C	V2	外底墨書
50	101	13	土製品	土錘	第2次	29区	G12	P110	層土	65	38			浅黄橙	?	古代?	胴部少量、75.9g
51	102	49	須恵器	杯B	第1次	30区	E1	SX3		114	52	97		明灰色	G	TK23	～ラ記号有り
51	103	66	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3						にぶい橙色	a1	5世紀後半	
51	104	292	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3		127	43			橙色	a2	5世紀後半	底面箱抜大の凹み
51	105	67	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3						淡黄橙色	b1	5世紀後半	外内面摩耗・もろい
51	106	65	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3						にぶい橙色	a1	5世紀後半	
51	107	63	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3		128	43	90		赤橙色	a1	5世紀後半	
51	108	64	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3		148	47	61		にぶい橙色	b3	5世紀後半	底部平行な圧痕がある、完形なるも多少歪みあり
51	109	315	土師器	高杯	第1次	30区	E1	SX3		244	130	140		橙色	b1	5世紀後半	外摩耗の為調整不明、内摩耗の為調整不明・ナデ
51	110	68	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3		166				淡黄橙色	?	5世紀後半	内ハケ

第５表　出土遺物観察表３

掲載番号	図版番号	実測	種別	器種	調査	大グリッド	グリッド	遺構	層位	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	重量(g)	色調	胎土分類	時期	備考
51	111	297	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3	①	170				にぶい黄橙色	b3	5世紀後半	外ヨコナデ・細密なハケ（ハケ単位約1mm幅約15条）内ヨコナデ、輪積み痕、粘土幅を上から引 約1.8cm、外面部分的に煤付着
51	112	303	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3	②	160				にぶい橙色	a2	5世紀後半	外ヨコナデ・ハケメ（単位約13条）内ヨコナデ・ケズリ、約2cm幅の右上がり粘土巻き上げ痕、内面口縁部からの粘土、ケズリ始めの工具のあとがはっきり見える、外面全体的に煤付着
51	113	299	土師器	甕	第1次	30区	E1	SX3	③	164	225			にぶい黄橙色	b3	5世紀後半	外ヨコナデ後ハケ（単位約2mm幅8～9条）内ヨコナデ・全体に左方向のケズリ、外面全体に煤付着
51	114	50	須恵器	蓋	第1次	30区	E1	SX3		181			2A	灰色	B	N2?	内縁方向のナデ、外面自然釉による黒灰色
51	115	48	須恵器	杯A	第1次	30区	E1	SX3		132	35	86		明灰色	C	N2古	
51	116	51	須恵器	杯A	第1次	30区	E1	SX3		137	34	96	3	明灰色	A	N2新	
52	117	72	土師器	高杯	第1次	30区	E3	SX2				120		淡黄橙色	b1	5世紀代?	
52	118	71	弥生土器	鉢	第1次	30区	E3	SX2		184				淡黄橙色	b3	弥生末	内面指圧痕、外面煤付着
52	119	69	土師器	甕	第1次	30区	E3	SX2		165				淡橙色	b2	I1?	外ヨコナデ・ハケ、内ヨコナデ・ケズリ
52	120	70	土師器	甕	第1次	30区	E3	SX2		216				淡橙色	b3	I1?	接合痕
52	121	56	土師器	高杯	第1次	30区	G5	SX4						淡黄橙色	b3	5世紀代?	外ハケメ、内ケズリ
52	122	58	土師器	高杯	第1次	30区	G5	SX4						橙色	a1	5世紀代?	
52	123	57	土師器	高杯	第1次	30区	G5	SX4						にぶい橙色	b1	5世紀代?	
52	124	53	土師器	高杯	第1次	30区	G5	SX4						橙色	a1	5世紀代?	
52	125	52	土師器	甕	第1次	30区	G5	SX4		160				淡黄橙色	b3	5世紀代?	外ヨコナデ・ハケ、内ヨコナデ、内面化粧土
52	126	59	土師器	甕	第1次	30区	G5	SX4		184				にぶい橙色	a2	5世紀代?	外ヨコナデ、外面煤付着
52	127	55	土師器	甕	第1次	30区	G5	SX4		152				にぶい橙色	b2	5世紀代?	外ヨコナデ、内ハケ?
52	128	60	土師器	甕	第1次	30区	G5	SX4		158				にぶい橙色	a2	5世紀代?	外ハケ、内ヨコナデ
52	129	62	土師器	甕	第1次	30区	G5	SX4		172				明褐灰色	b2	5世紀代?	外内ヨコナデ、外面煤付着
52	130	54	土師器	甕	第1次	30区	G5	SX4						にぶい橙色	b3	5世紀代?	
52	131	61	土師器	甕	第1次	30区	G5	SX4		198				にぶい橙色	b2	5世紀代?	外内ヨコナデ、外面煤付着
52	132	301	土師器	甕	第1次	30区	G5	SX4		176				にぶい赤褐色	a2	5世紀代?	外内摩耗の為調整不明、外面黒斑・煤付着
52	133	10	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	E18	SD10		116				灰色	B	V1	外石然釉
53	134	251	須恵器	杯B身	第1次	30区	L10		包含層	156	53	99		灰色	C	N2	
53	135	179	須恵器	杯A	第1次	30区	L10		包含層	129	29	80		灰色	B	V2	
53	136	200	須恵器	無台椀	第1次	30区	L10		包含層	153	22	117		灰色	A・B	V2	
53	137	202	須恵器	無台椀	第1次	30区	L10		包含層	147	22	117	3	灰色	C	V	
53	138	91	内黒土器	鉢	第1次	30区	L10		包含層	126	36	52		淡黄色	b1	V2	内ミガキ
53	139	185	須恵器	杯A	第1次	30区	L9		包含層	130	36	90	3	灰白色	B	V1	
53	140	155	土師器	長胴甕	第1次	30区	L9		包含層					にぶい黄橙色	b2	V?	外ヨコナデ・カキメ・タタキ、内ケズリ・ヨコナデ・カキメ
3	141	246	須恵器	杯B身	第1次		K8-9		包含層			99		灰色	A	Ⅲ?	外内ロクロナデ
53	142	199	須恵器	杯A	第1次	30区	K8-9		包含層			84		灰白色	B	V2	
53	143	183	須恵器	無台椀	第1次	30区	K8-9		包含層	150	24	123	3	灰白色	B	V1	
53	144	184	須恵器	杯A	第1次	30区	J-8		包含層	115	33	68		灰白色	D?	V2	
53	145	127	弥生土器	壺	第1次	30区	J6-7		包含層	159				浅黄橙色	b2	弥生末	外内ヨコナデ
53	146	253	須恵器	甕B	第1次	30区	L・M5～7		包含層	234	34	192		灰白色	A	V1	外内ロクロナデ
53	147	256	須恵器	杯B身	第1次	30区	J・K4～6		包含層	138	43	83		灰白色	A	Ⅲ?	外内ロクロナデ
53	148	117	土師器	杯	第1次	30区	J・K4～6		包含層	182	47	88		淡黄色	b1	Ⅲ?	外ナデ、内ミガキ、外内面赤彩
53	149	148	土師器	小甕	第1次	30区	J・K4～6		包含層	97				にぶい橙色	b2	H3～Ⅲ?	外ヨコナデ、内カキメ後ヨコナデ?
53	150	147	土師器	甕	第1次	30区	J・K4～6		包含層	142				浅黄橙色	b2	H3?	外カキメ後ヨコナデ・ハケ、内カキメ後ヨコナデ・斜位のハケ
53	151	231	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	J・K3～5		包含層	117	30			灰白色	A	N2	外内ロクロナデ
53	152	284	須恵器	杯B身	第1次	30区	J・K3～5		包含層			51		灰色	D	V2?	外内ロクロナデ
53	153	156	須恵器	短頸壺	第1次	30区	J・K3～5		包含層	171				灰白色	B	Ⅲ?	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ
53	154	243	須恵器	杯G蓋	第1次	30区	L・M1～6		包含層					灰色	X	H2	外内ロクロナデ・自然釉
53	155	240	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	L・M1～7		包含層	128				灰白色	B?	N2	外内ロクロナデ・天上部ロクロケズリ
53	156	275	須恵器	杯B身	第1次	30区	L・M1～6		包含層	108	39	70		灰色	A	N2古	外内ロクロナデ
53	157	264	須恵器	杯B身	第1次	30区	L・M1～7		包含層	171	39	91		灰白色	D	H3?	外内ロクロナデ
53	158	265	須恵器	杯B身	第1次	30区	L・M1～7		包含層	156	40	106		灰色	A	Ⅲ	外内ロクロナデ
53	159	165	須恵器	杯A	第1次	30区	L・M1～6		包含層			83		灰赤色	A	N1?	墨書「大十」、低成形、文字はあまりはっきりしない
54	160	88	土師器	甕	第1次	30区	G6		包含層	111				浅黄橙色	b2	古墳中期?	外ナデ・ケズリ、内ナデ

第6表 出土遺物観察表4

掲載番号	報告番号	実測	種別	器種	調査	大グリッド	グリッド	遺構	層位	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	重量(g)	色調	胎土分類	時期	備考
54	161	306	土師器	高杯	第1次	301区	G5		包含層	198	140	134		浅黄橙色	b2	5世紀中葉	外内摩耗の為不明・ナデ
54	162	100	土師器	高杯	第1次	300区	G5		包含層	158				浅黄橙色	b1	5世紀中葉	外ナデ?ミガキ、内ミガキ
54	163	103	土師器	高杯	第1次	300区	F5		包含層	158				に赤い橙色	a1	古墳中期	外ナデ・ケズリ、内ナデ
54	164	105	土師器	高杯	第1次	300区	G5	第3	包含層					橙色	a1	古墳中期	外ミガキ・内一部ハケ・ナデ
54	165	106	土師器	高杯	第1次	300区	F6		包含層					橙色	a1	古墳中期	外ミガキ、内ケズリ・ナデ
54	166	104	土師器	高杯	第1次	300区	F5		包含層					浅黄橙色	a1	古墳中期	外ミガキ、内ミガキ・ナデ
54	167	89	土師器	小壺	第1次	300区	H5		包含層					橙色	a1	古墳中期	外摩耗の為調整不明、内ナデ・指押さえ?
54	168	92	土師器	鉢?	第1次	300区	G5		包含層	90	62			橙色	a1	5世紀中葉	外ナデ・一部ハケ、内ナデ
54	169	151	土師器	甕	第1次	300区	F6		包含層	150				に赤い黄褐色	a2	古墳中期?	外内摩耗甚しく調整不明、2mm程度の砂粒目立つ
54	170	138	弥生土器	深鉢?	第1次	300区	G5・6		包含層					浅黄橙色	a3	弥生前期	条痕文
54	171	97	弥生土器	深鉢?	第1次	300区	G5・6		包含層					浅黄橙色	a3	弥生前期	条痕文
54	172	109	土師器	甑	第1次	300区	F5		包含層	249				浅黄橙色	b3	古墳後期	外ナデ・ハケ、内ナデ
54	173	215	須恵器	杯B身	第1次	300区	G・H6		包含層			99		灰白色	B?	N1?	外内ロクロナデ
54	174	90	土師器	小甕	第1次	301区	H4		包含層	90	21	48		浅黄色	b1	中世II	内ナデ、底面赤切り、面取、焼芯油痕
55	175	310	土師器	甕	第1次	300区	G4		包含層	146				橙色	a2	古墳後期	外ナデ後ハケ、内ナデ・ハケ・ケズリ、鍋縁含む、外面煤付着
55	176	146	土師器	甕	第1次	300区	G4		包含層	140				橙色	a2	古墳後期	外ハケ後ヨコナデ、外面一部煤付着
55	177	324	土師器	甕	第1次	300区	G4		下層包含層	180				に赤い橙色	b3	飛鳥後期	外ヨコナデ・縦位のハケ・一部に横位のハケ、内ヨコナデ、外面単位8~9本、煤付着
55	178	319	土師器	甕	第1次	300区	G4		包含層					に赤い褐色	b3	古墳後期	外タタキ(約3 幅の単位約10本)、内ケズリ
55	179	280	須恵器	杯B身	第1次	300区	G4		包含層			84		灰白色	A	N2か?	外内ロクロナデ
55	180	182	須恵器	無台椀	第1次	300区	G4		包含層	168	24	120	3	灰色	A	N2	
55	181	304	土師器	壺	第1次	300区	G4~6		包含層	193	365			に赤い橙色	a2	古墳前期?	外ヨコナデ・ハケ後ナデ・細いハケ・横位のケズリ・ミガキか?内ハケ・ケズリ・ナデ
55	182	163	須恵器	甕	第1次	300区	G3		包含層					灰白色	A	II3~III?	外ロクロナデ・自然釉、内同心円文
56	183	119	土師器	甕	第1次	300区	E・F3		包含層	188				に赤い橙色	b2	I I?	外ハケ・ヨコナデ、内ヨコナデ?ケズリ?摩耗の為不明
56	184	325	土師器	甕	第1次	300区	E3・4		包含層	192				に赤い黄橙色	b3	I I I?	外張いナデ・ナデ、内ケズリ、内面接合痕
56	185	96	内黒土器	椀	第1次	300区	E・F3		包含層	120	44	76		浅黄橙色	b2	I I?	内ミガキ、内黒、外面接合痕
56	186	261	須恵器	杯B身	第1次	300区	F3・4		包含層			87		灰白色	B	N1?	外内ロクロナデ、外底天たすき
56	187	173	須恵器	杯B身	第1次	300区	E2・3		包含層			68		灰色	B	M1	へラ記号
56	188	283	須恵器	杯B身	第1次	300区	F・G2・3		包含層			63		灰色	B	N2か?	外内ロクロナデ、へラ記号有り、転用硯
56	189	172	須恵器	杯B身	第1次	300区	E3		包含層			75		灰色	D	V1	へラ記号
56	190	180	須恵器	杯A	第1次	300区	F・G2・3		包含層	129	32	80	3	灰白色	B	V2	
56	191	181	須恵器	杯A	第1次	300区	F2・3		包含層	129	30	87	3	灰色	B	N2	
56	192	197	須恵器	杯A	第1次	300区	E3		包含層	132	30	87		灰白色	B	N2	
56	193	170	須恵器	底部	第1次	300区	F2・3		包含層					灰色	A	?	へラ記号
56	194	149	土師器	鍋	第1次	300区	F・G2・3		包含層	211				に赤い黄橙色	b3	II3~III?	外ロクロナデ・カキメ、内カキメ
56	195	99	土師器	小鍋	第1次	300区	E4		包含層	134				浅黄橙色	b3	III?	外ナデ・調整摩耗の為調整不明、内ナデ・ハケ
56	196	13	土製品	土錘	第1次	300区	E4		包含層					淡橙色	#	古代	最大長4.10cm、最大幅2.90cm、最大厚3.0cm、重5.20g
56	197	12	土製品	土錘	第1次	300区	E4		包含層					浅黄橙色	b3	古代	最大長5.55cm、最大幅1.90cm、最大厚1.85cm、重5.10g
56	198	101	土師器	高杯	第1次	300区	E・F2		包含層					浅黄色	b2	弥生末?	外ミガキ、内ナデ・ハケ
56	199	226	須恵器	杯B蓋	第1次	300区	E・F2		包含層	178	43		2a	灰白色	A	蓋	外内ロクロナデ・天上部ロクロケズリ
56	200	263	須恵器	杯B身	第1次	300区	E・F2		包含層	111	38	69		灰白色	A	N1	外内ロクロナデ
56	201	193	須恵器	杯B身	第1次	300区	E・2		包含層	141				灰色	D	N	
56	202	290	須恵器	杯B身	第1次	300区	D・E2・3		包含層			78		灰白色	D	V1	外内ロクロナデ
56	203	167	須恵器	杯A	第1次	300区	E2・3		包含層			88		白灰色	B	V1	へラ記号
56	204	168	須恵器	小片	第1次	300区	D・E2・3		包含層					灰色	B	?	器種、文字不明
56	205	216	須恵器	高杯	第1次	300区	D・E2・3		包含層	184				灰色	B	N	外内ロクロナデ
56	206	220	須恵器	鉢	第1次	300区	D・E2・3		包含層			84		灰白色	D	N?	外内ロクロナデ
57	207	157	須恵器	甕	第1次	300区	E2		包含層	219				灰白色	A	N?	外平行タタキ巡端、内同心円巡端
57	208	162	須恵器	甕	第1次	300区	F・G2・3		包含層					灰白色	D?	N?	外平行タタキ、内同心円
58	209	102	土師器	高杯	第1次	300区	D1		包含層					浅橙色	a2	古墳前期?	外内ナデ
58	210	140	弥生土器	甕	第1次	300区	D1・2		包含層					に赤い橙色	b3	弥生末?	外ナデ、ハケ、内ナデ、ケズリ
58	211	227	須恵器	杯B蓋	第1次	300区	E1		包含層	130	22			褐灰色	D	V1	外内ロクロナデ
58	212	241	須恵器	杯B蓋	第1次	300区	E1		包含層	121				灰白色	B	V1	外内ロクロナデ
58	213	245	須恵器	杯B蓋	第1次	300区	E1		包含層	125				灰白色	A	N2か?	外内ロクロナデ・天上部ロクロケズリ
58	214	233	須恵器	杯B蓋	第1次	299区	D・20		包含層	117	25		2a	灰白色	A	V1	外内ロクロナデ・天上部から体部篦ロクロケズリ
58	215	225	須恵器	杯B蓋	第1次	300区	E・4		包含層	175	28		2b	灰色	C	蓋?	天上部ロクロケズリ
58	216	229	須恵器	杯B蓋	第1次	299区	D・20		包含層	156	28		2a	灰色	B	N1?	外内ロクロナデ
58	217	234	須恵器	杯B蓋	第1次	300区	D・E1		包含層	171				灰色	D	N2?	外内ロクロナデ
58	218	269	須恵器	杯B身	第1次	300区	E1		包含層	126	42	69		灰白色	B	N	外内ロクロナデ
58	219	268	須恵器	杯B身	第1次	300区	D・E1		包含層			72		灰色	D	N1	外内ロクロナデ
58	220	272	須恵器	杯B身	第1次	300区	D・E1		包含層	114	39	72		灰色	D	V2	外内ロクロナデ
58	221	258	須恵器	杯B身	第1次	300区	D1		包含層	115	39	80		灰白色	A	N1	外内ロクロナデ
58	222	287	須恵器	杯B身	第1次	299区	D20		包含層			71		灰白色	D	V2	外内ロクロナデ
58	223	248	須恵器	杯B身	第1次	300区	D・E1		包含層	154	64	97		淡褐灰色	D	V1	外内ロクロナデ
58	224	247	須恵器	杯B身	第1次	300区	E1		包含層	159	72	117		灰白色	A	N2か?	外内ロクロナデ

第７表　出土遺物観察表５

掲載番号	図片番号	実測	種別	器種	調査	大グリッド	グリッド	遺構	層位	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	重量(g)	色調	胎土分類	時期	備考
58	225	252	須恵器	杯B身	第1次	30区	E 1		包含層			107		灰色	B	N2古	外内ロクロナデ、内漆付着
58	226	164	須恵器	杯B身	第1次	30区	E 1		包含層			76		灰色	B	N	墨書「×」
58	227	194	須恵器	杯A	第1次	30区	E 1		包含層	118	40	93	3	灰白色	A	N1?	
58	228	205	須恵器	杯A	第1次	30区	E 1		包含層	123	30	87	3	灰白色	A	V1	
58	229	189	須恵器	杯A	第1次	30区	E 1		包含層	133	33	99	3	灰白色	B	N2新?	
58	230	174	須恵器	杯A	第1次	30区	E 1		包含層			11		灰褐色	B ?	N	ヘラ記号、焼成良
58	231	192	須恵器	杯A	第1次	30区	D 1		包含層	120	31	87	3	灰黄白色	B	N2	
58	232	190	須恵器	杯A	第1次	29区	D 20		包含層	115	33	65	3	灰色	D	N2	
58	233	285	須恵器	杯B身	第1次	30区	E 1		包含層			81		灰色	A	N2古	外内ロクロナデ
58	234	217	須恵器	双耳瓶	第1次	30区	E 1		包含層					灰白色	B	N～V ?	外内ロクロナデ、外自然釉
58	235	160	須恵器	甕	第1次	30区	D 1		包含層					灰白色	A	H3?	外内ロクロナデ・自然釉
58	236	143	土師器	長胴甕	第1次	30区	D 1-2		包含層	231				浅黄橙色	b3	V	外内ロクロナデ
58	237	152	土師器	鍋	第1次	29区	D 20		包含層	311				浅黄橙色	b2	N?	外内ヨコナデ・カキメ
59	238	116	土師器	高杯	第1次	30区	F・G 2-3		包含層					灰白色	b1	古墳後期?	外ミガキ、内ナデ、赤彩
59	239	131	弥生土器	甕	第1次	30区	G・H 1		包含層	189				にぶい橙色	b2	弥生後期	外内ヨコナデ、焼成不良、内面は黒っぽい色を呈している
59	240	125	弥生土器	甕	第1次	30区	H 1		包含層					淡黄色	b3	弥生後期	外ヨコナデ・ハケ、内ヨコナデ・ケズリ
59	241	130	弥生土器	甕	第1次	29区	G・H 20		包含層					浅黄橙色	b2	弥生後期	外ヨコナデ、内ヨコナデ・ケズリ(方向不明)
59	242	237	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	D・H 1-2		包含層	126				褐灰色	D	V1	外内ロクロナデ
59	243	238	須恵器	杯B蓋	第1次	30区	G・H 1		包含層	127				灰白色	B	N2	外内ロクロナデ
59	244	232	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	G・H 19 -20		包含層	121				灰色	C	V1	外内ロクロナデ
59	245	242	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	G・H 20		包含層	165				灰白色	A	Ⅱ?	外内ロクロナデ・天上部から体部にロクロケズリ、後処置?
59	246	239	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	G・H 19 -20		包含層	159				灰色	D	N2	外内ロクロナデ
59	247	279	須恵器	杯B身	第1次	29区	G・H 19		包含層	96	36	58		灰白色	B	N2	外内ロクロナデ
59	248	286	須恵器	杯B身	第1次	30区	H・I 2-3		包含層			66		灰白色	A	N2古?	外内ロクロナデ
59	249	276	須恵器	杯B身	第1次	29区	G・H 19		包含層	127	42	78		灰色	D	V1?	外内ロクロナデ
59	250	177	須恵器	杯B身	第1次	29区	G・H 18 -19		包含層			8.8		灰色	B	?	墨書「大」の下の部分か?
59	251	167	須恵器	杯A	第1次	29区	H 20-1		包含層					灰色	A	N2?	墨書「大」、文字はっきり
59	252	186	須恵器	杯A	第1次	29区	D 20		包含層	126	36	72	3	灰白色	D	N2	
59	253	171	須恵器	底部	第1次	30区	G・H 1		包含層					灰色	A	?	ヘラ記号
59	254	188	須恵器	杯A	第1次	30区	G・H 1		包含層	124	32	93		灰白色	B	V1	外内ロクロナデ
59	255	249	須恵器	壺B	第1次	30区	G・H 1		包含層	214	36	165		灰色	A	V1	外内ロクロナデ
59	256	219	須恵器	高杯	第1次	29区	H 20		包含層					灰色	A	N	外内ロクロナデ
59	257	207	須恵器	甕	第1次	29区	I 20		包含層	94				灰白色	B ?	Ⅱ～Ⅲ	外内ロクロナデ、内自然釉
59	258	210	須恵器	甕	第1次	30区	G・H 1		包含層			54		灰色	A	V ?	外内ロクロナデ、外自然釉
59	259	218	須恵器	鉢	第1次	29区	G・H 19		包含層	276				灰色	B	N2	外内ロクロナデ
59	260	222	須恵器	甕	第1次	29区	G・H 18 ～20		包含層			93		灰白色	A	N	外内ロクロナデ
59	261	212	須恵器	甕	第1次	29区	H 20		包含層			57		灰色	C	V	外内ロクロナデ
59	262	123	土師器	甑?	第1次	30区	G・H 1-2		包含層			55		にぶい褐	a1	中世Ⅰ	外内ロクロナデ
59	263	95	土師器	小甕?	第1次	29区	G・H 18 ～20		包含層			70		浅黄橙色	b3	古代	外内面摩耗の為調整不明、底面糸切り
59	264	124	土師器	鍋	第1次	30区	G・H 1		包含層			61		灰黄色	b1	中世Ⅰ	外内ロクロナデ、
59	265	110	土師器	甑?	第1次	29区	H 20		包含層					浅黄橙色	b2	古代	
59	266	128	土師器	長胴甕	第1次	30区	G・H 1-2		包含層	240				浅黄橙色	b2	Ⅱ?	外ヨコナデ、内ヨコナデ・ハケ
60	267	178	須恵器	杯H身	第1次	30区	E・F 18 -19		包含層	109	36	1		灰白色	A	I 1	
60	268	150	土師器	甕	第1次	29区	E・F 18 -19		包含層	159				にぶい褐色	b2	I 1?	外ヨコナデ?ハケ?内ヨコナデ・ナデ、外面摩耗の為不明瞭
60	269	120	土師器	甑?	第1次	29区	D・E 17 -18		包含層					浅黄橙色	b2	古代	
60	270	118	土師器	長胴甕	第1次	29区	D・E 17 -18		包含層	183				橙色	b3	古墳後期?	外摩耗の為調整不明、内ナデ・ハケ、外面剥離
60	271	144	土師器	甕	第1次	29区	E・F 18 -19		包含層	208				にぶい橙色	b3	古墳後期	外ハケ・ヨコナデ、内ヨコナデ
60	272	230	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	E 18-19		包含層	123			1	灰白色	B	V1	外内ロクロナデ
60	273	224	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	F 19		包含層	166	42		1	灰白色	D	Ⅲ	外内ロクロナデ・天上部ロクロケズリ、補修痕跡あり
60	274	228	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	E 18-19		包含層	171	44			灰白色	B	Ⅲ	外内ロクロナデ・天上部ロクロケズリ
60	275	244	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	D・E 17 -18		包含層	165				灰白色	B	N1?	外内ロクロナデ
60	276	289	須恵器	杯B身	第1次	29区	E・F 18 -19		包含層			67		灰白色	B	N2	外内ロクロナデ
60	277	260	須恵器	杯B身	第1次	29区	E・F 18 -19		包含層			75		灰白色	A	N2	外内ロクロナデ、内底摩耗強
60	278	282	須恵器	杯B身	第1次	29区	D・E 17 -18		包含層	101	36	69		灰白色	B	N2新?	外内ロクロナデ、ヘラ記号有り
60	279	270	須恵器	杯B身	第1次	29区	E・F 18 -19		包含層	120	41	69		灰白色	B	N2新?	外内ロクロナデ
60	280	277	須恵器	杯B身	第1次	29区	E・F 18 -19		包含層	122	40	78		灰色	A	N2新?	外内ロクロナデ、外自然釉
60	281	254	須恵器	杯B身	第1次	29区	E 17		包含層	141	43	88		灰白色	D	Ⅲ	外内ロクロナデ、外自然釉、内摩耗強

第8表　出土遺物観察表6

掲載番号	報告番号	実測	種別	器種	調査	大グリッド	グリッド	遺構	層位	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	胎土分類	時期	備考
60	282	226	須恵器	杯A	第1次	29区	E-17		包含層	124	32	78		灰白色	B	V1	外内ロクロナデ
60	283	223	須恵器	高杯	第1次	29区	E-17-18		包含層					灰白色	A？	Ⅳ	外内ロクロナデ
60	284	214	須恵器	高杯	第1次	29区	E-17-18		包含層			105		灰白色	B	Ⅳ？	外内ロクロナデ
60	285	213	須恵器	甕	第1次	29区	E・F18-19		包含層	147				灰白色	A	Ⅳ？	
60	286	132	土師器	長胴甕	第1次	29区	E・F18-19		包含層	193				淡黄色	b2	Ⅲ～Ⅳ	外内ヨコナデ
60	287	139	土師器	長胴甕	第1次	29区	E-17		包含層	197				浅黄橙色	b2	Ⅲ～Ⅳ	外内摩耗の為調整不明
60	288	121	土師器	長胴甕	第1次	29区	E-18-19		包含層	266				浅黄橙色	b3	Ⅲ？	外ヨコナデ・カキメ・タタキかナデ？内ヨコナデ
61	289	107	土師器	高杯	第1次	29区	E-17		包含層					浅黄橙色	a1	古墳中期	外ナデ後ミガキ？内ミガキ？
61	290	108	土師器	高杯	第1次	29区	E-17		包含層					浅黄橙色	a1	古墳中期	外ミガキ、内ケズリ
61	291	142	弥生土器	鉢	第1次	29区	E-17		包含層					にぶい黄橙色	b2	弥生後期	外内ヨコナデ、外面煤付着
61	292	136	弥生土器	甕	第1次	29区	D・E16-17		包含層	135				にぶい黄橙色	a3	弥生後期	外ヨコナデ・ナデ、内ヨコナデ・不明、外面煤付着
61	293	134	弥生土器	甕	第1次	29区	D・E16-17		包含層	124				にぶい黄橙色	b3	弥生後期	外ヨコナデ、内ヨコナデ・ケズリか？
61	294	137	弥生土器	甕	第1次	29区	D・E16-17		包含層	193				浅黄橙色	b3	弥生後期	外ヨコナデ、内ヨコナデ・ナデ・ケズリ
61	295	141	弥生土器	甕	第1次	29区	D・E16-17		包含層	166				灰黄褐色	b2	弥生後期	外内ヨコナデ
61	296	126	土師器	長胴甕	第1次	29区	E・F16-17		包含層	163				にぶい黄橙色	b3	Ⅲ？	外内ロクロナデ、内口縁部コゲ付着
61	297	135	弥生土器	甕	第1次	29区	E-17		包含層	186				にぶい褐色	b3	弥生後期？	外ヨコナデ、内ヨコナデ後ハケか？ケズリ、外面煤付着
61	298	129	弥生土器	甕	第1次	29区	E-17		下層包含層	171				橙色	b2	弥生末	内ヨコナデ・ケズリ、外ヨコナデ、外面煤付着
61	299	122	弥生土器	甕	第1次	29区	D・E16		包含層			25		にぶい黄橙色	b3	弥生末	内ケズリ後ナデ上げ
61	300	111	土師器	小甕	第1次	29区	E・F16-17		包含層	94				浅黄橙色	b2	11？	外ナデ・ハケ、内ナデ
61	301	113	土師器	鉢？	第1次	29区	E16-17		包含層	309				浅黄橙色	b2	Ⅱ2～3？	外内ナデ
61	302	112	土師器	鉢	第1次	29区	E・F16-17		包含層	371				浅黄橙色	b3	Ⅱ2～3？	外ナデ・ハケ？内ナデ
61	303	236	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	E・F16-17		包含層	126				灰白色	B	Ⅳ2	外内ロクロナデ・天上部ロクロケズリ
61	304	235	須恵器	杯B蓋	第1次	29区	G16		包含層	165				灰白色	D	Ⅳ2	外内ロクロナデ・天上部ロクロケズリ
61	305	278	須恵器	杯B身	第1次	29区	E・F15		包含層	106	34	70		暗灰色	A	Ⅳ2古？	外内ロクロナデ、内降灰多
61	306	274	須恵器	杯B身	第1次	29区	E15-16		包含層	108	41	67		灰白色	B	Ⅳ2	外内ロクロナデ
61	307	208	須恵器	杯B身	第1次	29区	E15-16		包含層			114		灰白色	B？	Ⅳ1	外内ロクロナデ
61	308	250	須恵器	杯B身	第1次	29区	G・H15-16		包含層			105		灰色	B	Ⅳ1	外内ロクロナデ
61	309	259	須恵器	杯B身	第1次	29区	E・F16～19		包含層			75		淡灰褐色	C	Ⅳ2	赤彩？
61	310	187	須恵器	杯A	第1次	29区	E・F16-17		包含層	126	37	75		灰色	A	Ⅳ2古	
61	311	211	須恵器	杯B身	第1次	29区	E・F16-17		包含層					灰白色	A	Ⅲ？	外内ロクロナデ
61	312	198	須恵器	無台盤	第1次	29区	G・H15～17		包含層	158	20	120	3	灰白色	A	Ⅳ2	
61	313	166	須恵器	小片	第1次	29区	D・E16-17		包含層					灰色	A・B	？	加湿、文字不明
61	314	196	須恵器	壺蓋	第1次	29区	E15-16		包含層	69			1	灰白色	A	Ⅳ？	
61	315	159	須恵器	甕	第1次	29区	E・F16-17		包含層					褐灰色	X	？	
61	316	114	土師器	杯	第1次	29区	E・F16-17		包含層	181				浅黄橙色	b2	Ⅲ？	内ミガキ、外内面赤彩
61	317	93	土師器	小皿	第1次	29区	G・H15～17		包含層	104	21	54		浅黄橙色	a2	中世1～	外強いナデ、内ナデ、底面糸切り
62	318	273	須恵器	杯B身	第1次	30区	I・J2		包含層	108	37	72		灰白色	D	V1？	外内ロクロナデ
62	319	257	須恵器	杯B身	第1次	30区	J・K1-2		包含層			98		灰白色	B	Ⅳ1	外内ロクロナデ
62	320	221	須恵器	高杯	第1次	30区	J・K1～3		包含層					灰色	C	Ⅳ	外内ロクロナデ
62	321	161	須恵器	甕	第1次	30区	L・M1-2 L・H-1-2		包含層					灰白色	A	Ⅳ？	外内ロクロナデ
62	322	115	土師器	杯	第1次	30区	L・M1-2		包含層	146				浅黄橙色	b1	Ⅱ3？	外ナデ、内ミガキ、外内面赤彩
62	323	98	土師器	小甕	第1次	30区	L・M1-2		包含層			46		にぶい橙色	b3	Ⅲ～Ⅳ？	外ケズリ、内カキメ・ナデ
62	324	153	土師器	長胴甕	第1次	30区	J～M1～3		包含層					にぶい黄橙色	b3	Ⅱ3？	外ハケ後ヨコナデ・最後のハケ後カキメ、内カキメ・一部に斜位のハケの痕・最後のハケ後ヨコナデ
62	325	266	須恵器	杯B身	第1次	29区	L・M15～17		包含層	117	41	75		灰白色	B	Ⅳ2	外内ロクロナデ、ヘラ記号有り
62	326	175	須恵器	杯B身	第1次	29区	K15～19		包含層			88		灰色	A	Ⅳ	ヘラ記号
62	327	288	須恵器	杯B身	第1次	29区	I15		包含層			96		灰白色	B	Ⅱ2？	外内ロクロナデ
62	328	204	須恵器	杯A	第1次	29区	L15-16		包含層	127	30	90		灰白色	B	Ⅳ2古？	
62	329	94	土師器	椀	第1次		6-明		包含層	165				にぶい橙色	b2	古墳中期	外ハケ後ナデ、内ナデ・ミガキ
62	330	145	土師器	甕	第1次		6-明		包含層	207				にぶい黄橙色	a2	古墳後期？	外ヨコナデ、内ヨコナデ・ハケの痕わずかに見られる
62	331	158	須恵器	甕	第1次	30区	D1		包含層					灰白色	A	Ⅱ3？	内ロクロナデ、外内面輪付着

第９表　出土遺物観察表７

図番	掲載番号	実測	種類	器種	調査	大グリッド	グリッド	遺構	層位	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	重焼き	色調	胎土分類	時期	備考
62	332	176	須恵器	杯Ｂ身	第12次		不明		包含層			81		灰色	D	Ⅵ1	ヘラ記号有り
62	333	209	須恵器	甕	第12次		不明		包含層			84		灰白色	B	第～Ⅳ	外内ロクロナデ
62	334	154	土師器	長胴甕	第12次	30区	L 10		包含層	204				にぶい橙色	b2	Ⅴ？	外カキメ・ヨコナデ・タタキ・一部にハケの痕、内ヨコナデ・タタキ
63	335	14	須恵器	杯Ｂ蓋	第2次	29区	6		包含層					青灰	A	第？	断面セピア色
63	336	15	須恵器	杯Ｂ蓋	第2次	29区	15		包含層	174			？	灰	C	第？	
63	337	16	須恵器	杯Ｂ蓋	第2次	29区	17		包含層	121			1	灰	A	Ⅳ2	
63	338	17	須恵器	杯Ｂ蓋	第2次	29区	8		包含層	118			2a（b2）	暗青灰～黒青灰	D	Ⅴ	断面セピア色
63	339	18	須恵器	杯Ｂ蓋	第2次	29区	東		包含層	128			2a（b2）	淡青灰	A	Ⅴ2	
63	340	19	須恵器	杯Ｂ蓋	第2次	29区	18		包含層	151			2b（C1）	青灰	D	Ⅴ2	
63	341	20	須恵器	杯Ｂ身	第2次	29区	7		包含層	152	48	316	1	淡灰	B	Ⅱ3	
63	342	21	須恵器	杯Ｂ身	第2次	29区	13		包含層	142	42	296	1	灰	A	第	
63	343	22	須恵器	杯Ｂ身	第2次	29区	8		包含層	172	43	25	1	淡青灰～灰	B、A	第	
63	344	23	須恵器	杯Ｂ身	第2次	29区	東		包含層	155	63	40.6		暗青灰	F	Ⅳ1	断面クリーム、口縁部欠
63	345	24	須恵器	杯Ｂ身	第2次	29区	10		包含層	143	44	30.8		淡青灰	B	Ⅳ2	
63	346	25	須恵器	杯Ｂ身	第2次	29区	3		包含層	112	31	27.7	1	淡青灰	B	Ⅳ1	
63	347	26	須恵器	杯Ｂ身	第2次	29区	東側		包含層	114	46	40.4		淡青灰	B	Ⅳ2	外面火ダスキ
63	348	27	須恵器	杯Ｂ身	第2次	29区	10		包含層	108	37	34.3		灰白～灰白	D	Ⅳ2	口縁部欠
63	349	28	須恵器	杯Ａ	第2次	29区	西トレ		包含層	134	36	22.4		淡青灰色	B	第	内面押圧→重ね焼き痕上段
63	350	29	須恵器	杯Ａ	第2次	29区	15		包含層	130	28	17.3		灰色	B	Ⅳ1	外面火ダスキ
63	351	30	須恵器	杯Ａ	第2次	29区	17		包含層	125	27	21.6	3	灰色	D	Ⅵ2	海綿骨針1ヶ
63	352	31	須恵器	杯Ａ	第2次	29区	9		包含層	122	29	25	3	灰くすむ（緑）	A	Ⅴ2	
63	353	32	須恵器	杯Ａ	第2次	29区	7		包含層	116	32	27.6		灰（緑）	A、B	Ⅴ2	外底黒斑「花？」
63	354	33	須恵器	杯Ａ	第2次	29区	15		包含層					灰色	C？	Ⅴ2	外底黒斑
63	355	34	須恵器	杯Ａ	第2次	29区	南東		包含層					青灰色	B	？	外底黒斑「花？」、内面はかなり摩耗してツルツル
63	356	35	須恵器	盤Ａ	第2次	29区	9		包含層	138	23	167		灰色	A	Ⅳ1	口縁部面とりタイプ、外底ロクロケズリ
63	357	36	須恵器	盤Ａ	第2次	29区	13		包含層					青灰色	A、B	Ⅵ1	海綿骨針1ヶ
63	358	37	須恵器	椀蓋	第2次	29区	西トレ		包含層					灰色	B、D	Ⅳ1	
63	359	38	須恵器	鉢Ｂ	第2次	29区	17		包含層			60		灰（クリーム）	A	Ⅵ2	底部糸切
63	360	39	土師器	甕Ａ	第2次	29区	9		包含層					橙（淡）	B？	Ⅴ	内面黒色、カクセン石
63	361	40	須恵器	長頸瓶	第2次	29区			包含層					灰（帯紫）色	A	第	
63	362	41	須恵器	長頸瓶	第2次	29区			包含層					灰色	C	第	
64	363	42	須恵器	長頸瓶	第2次	29区			包含層					淡灰色	B？	Ⅴ	
64	364	43	須恵器	瓶	第2次	29区			包含層					青灰色	D	Ⅴ	
64	365	44	須恵器	双耳瓶	第2次	29区	北中央トレ		包含層					淡青灰	B	Ⅴ	
64	366	45	須恵器	双耳瓶	第2次	29区			包含層					灰青色	D	Ⅳ	
64	367	46	須恵器	短頸壺	第2次	29区			包含層	137				淡青灰	B	Ⅳ？	
64	368	48	須恵器	短頸壺	第2次	29区			包含層					灰白	A	Ⅳ	
65	369	49	須恵器	横瓶	第2次	29区		65	包含層					淡青灰	B	Ⅱ3	
65	370	47	須恵器	短頸壺	第2次	29区			包含層					青灰	B	Ⅴ？	同心円入？
65	371	52	須恵器	甕	第2次	29区			包含層	260				クリーム灰	B	Ⅳ？	外面に細かいカキメ
65	372	51	須恵器	甕	第2次	29区			包含層	215				灰色	A	Ⅱ3期？	同心円入？
65	373	50	須恵器	甕	第2次	29区			包含層					青灰褐	D	古代	同心円入？
65	374	53	須恵器	甕	第2次	29区			包含層					灰白色	A	古代	同心円？
65	375	56	須恵器	大甕	第2次	29区			包含層	460				淡灰色	A	Ⅱ期	同心円Ⅱ
65	376	55	須恵器	大甕	第2次	29区			包含層					灰くすむ	C	Ⅱ3～Ⅲ？	
65	377	54	須恵器	大甕	第2次	29区			包含層					暗灰～暗青灰	C	Ⅱ3～Ⅲ？	
66	378	5	白磁	皿	第1次	29区	D20		包含層	107				明灰白色		ⅡC	素地灰白、全体に施釉
66	379	8	陶器	壺	第1次	30区	L・M1～7		包含層					灰白色		中世	内ヨコナデ、内面釉、外面灰釉
66	380	4	陶器	甕	第1次	30区	I 11		包含層	126				灰白色		中世	素地灰白、全体茶褐色に施釉
66	381	9	陶器	天目茶椀	第1次	29区	E・F15		包含層					灰白色		中世	外内面にぶい赤褐釉
66	382	2	陶器	天目茶椀	第1次	29区	G・H15～17		包含層			40		淡黄色		中世	素地淡黄、内底面は黒色の釉約1mm厚さ、外底面及び外面は薄い茶褐色の釉
66	383	6	陶器	皿	第1次	30区	H10・11		包含層	156				灰白色		ⅡC前	素地灰白、全体に施釉
66	384	3	陶器	皿？	第1次	29区	G・H20		包含層			39		灰白色		ⅡC以降	素地灰白、外内面施釉
66	385	10	陶器	擂鉢	第1次	29区	G・H19		包含層					灰色		ⅡC後	外内面にぶい赤褐釉
66	386	11	磁器	皿	第1次	29区	I 11		包含層					灰白色		中世？	外内面白乳色釉
66	387	7	陶器	鉢	第1次	30区			包含層					灰白色		ⅡC？	焼成不良、全体に施釉
66	388	1	陶器	鉢？	第1次	29区	I -11		包含層			93		灰白色		ⅡC？	素地灰白、焼成良、内全体に釉
66	389	18	石製品	硯石	第1次	30区	K 2	P 40						褐灰色			最大長19.2cm、最大幅10.9cm、最大厚7.9cm、使用面、石の自然の丸み、砂岩、重さ1.97kg
66	390	17	石製品	硯石	第1次	30区	D 2		包含層					淡褐灰色			砂岩、粗底石、重さ2.2kg
66	391	15	石製品	硯石	第1次	30区	G 5		包含層					黄橙色			最大長14.95cm、最大幅12.5cm、凝灰岩、重さ22g
66	392	16	石製品	硯石	第1次	29区	J・K18～20		包含層					淡黄色			最大長11.5cm、最大幅3.9cm、最大厚3cm、重さ228g
66	393	14	石製品	硯石	第1次	29区	E 17		包含層					緑灰色			最大長17.8cm、最大幅15.75cm、重さ116g、黒色物付着、凝灰岩

第4節　小　　結

今回報告した木津遺跡は、もともと末松遺跡として発掘調査が行われたものであり、29区より北側部分に関してはトレンチ調査が行われているが、遺構は確認されていないようである。遺跡が連続していないことが確認され、木津遺跡が設定された。そのとき別遺跡となった末松A遺跡とは300mほど離れている。おそらく鞍部を挟んでいるものと考えられ、手取川扇状地にみられる島状微高地（小嶋ほか1991）では、安養寺遺跡と同じ微高地上にあると考えられる。

本遺跡の消長を遺物・遺構からみると次のようにまとめることができる。弥生時代前期の遺物が少量ながら認められることから、大規模とはいえないまでも周辺に集落が営まれた可能性が指摘できる。その後、弥生時代後期～末の遺物が一定量みられることから、集落が形成されたと考えられる。建物跡になるような遺構は、下層トレンチ内で検出されたピット群しかないが判然としない。おそらく大規模な集落に発展したとは考えられず、また継続されることもないようである。古墳時代中期になって遺物の出土量は大きく増加し、再び集落が形成される。この期になって初めて本遺跡で竪穴建物がみられるようになる。それ以前と比してはっきりとした遺構がみられるようになる。しかしこの集落もおそらく継続されず、Ⅰ1期になって再度集落が形成される。この集落も単発的なもののようで、Ⅱ3期になってようやく集落が安定しⅥ2期頃まで継続する。Ⅰ1期は竪穴建物を主体として遺構が確認されているが、Ⅱ3期以降掘立柱建物もみられるようになる。掘立柱建物の個別の時期については判然としないものが多いが、SB1・6としたものを除けば南北棟であり、またその建物の主軸方位は、ほぼ北から西に約15°前後振っていることからほぼ同じ時期と考えられる。包含層や周辺の遺構等からの出土遺物を参考にその時期を考えると、Ⅴ～Ⅵ期頃の建物と考えることもできる。しかし、それらの建物はすべて総柱であり、この期ではまだ倉庫的な機能を担っている（川畑1995b）と考えられている段階でもあり、Ⅶ期に下がる可能性もある。また、それらの建物周辺にみられる小溝群は畠の畝溝群と考えられ、それぞれに付属しているものであろう。SB1・6についてはSI1・2に伴うものである可能性もあり、Ⅱ3～Ⅲ期と推測する。また、これらの建物の周辺のピット群は、掘立柱建物の柱穴と考えられるものであり、Ⅳ期以降のものである可能性がある。弥生時代後期～Ⅰ1期までは、散発的に集落が形成されるようで、なかなか安定しない状況があったと考えられる。

本遺跡で得られた成果を周辺の遺跡の動向を含めて若干考えてみると、以前、川畑誠氏がまとめられた（川畑1995a）手取川扇状地の集落遺跡の動向とよく一致していることがわかる。第1の画期は7世紀末葉頃に集落が顕在化することをあげられているが、本遺跡でも安定的に集落が形成されるのはこの頃と考えられる。第2の画期とされる8世紀中頃については、掘立柱建物は良くわからないが、包含層から出土する遺物を含めてその出土量が多くなることから、集落の隆盛期を迎えると考えられる。第3の画期とされる9世紀中葉は、扇央部下半で集落遺跡が一斉に衰退、消滅する過程とされる。本遺跡でも総柱の掘立柱建物の時期によるが、消滅する段階と考えられる。第4の画期とされる10世紀前半～中頃は、扇央部一帯で集落遺跡数が減少過程に入ると考えられている。第3の画期にあたるとした掘立柱建物がこの時期にあたるかもしれないが、この画期以降同じ微高地上にあたると考えている安養寺遺跡群に集落が移っている可能性もある。

また手取川扇状地を中心に研究されたものに横山貴広氏の論考（横山2003）があるが、その中で末松廃寺が建立される背景について、上林新庄遺跡群で検出された横穴式石室を採用した新興勢力等周辺の先行する在地領主層を取り込んで、人心を掌握する手段として末松廃寺を建立したのではないか

と考えられている。横穴石室をもつ上林古墳が造られた７世紀前半に本遺跡でも一旦集落が形成されることは、新興開発領主層の存在を示すものと考えられる。継続せず単発で終わってしまうことは、手取川の氾濫等の自然条件があったと仮定しても、その勢力も極めて不安定なものであったと考えられる。７世紀後半以降安定的な勢力による支配が行われたと思われるが、それがどのクラスによるものか、またどのような体制であったのかについては、末松廃寺の建立等の問題を含めて考える必要があるだろう。その手がかりとなるのが、Ⅱ2・Ⅱ3期といった７世紀後半から８世紀初頭に見られる近江型や丹波型の煮炊具を始めとした外来系の人々の痕跡である。在地の人々を駆逐したのか、それとも吸収、ないしは融合したのかは重要な課題である。

鶴来バイパス関連の発掘調査はそのほか末松Ａ遺跡や清金アガトウ遺跡などが行われており、また周辺では農村活性化住環境整備事業等が行われ、その成果が明らかとなっている（本田・安2000）。それらの成果を合わせることにより、手取川扇状地における集落の動向がさらに明らかとなることを期待する。

引用・参考文献

大西　顕　　2002　「服法寺須恵器窯跡」「宇ノ気町指江遺跡・指江Ｂ遺跡」財団法人石川県埋蔵文化財センター、278－281

川畑　誠　　1995a「柴木Ｄ遺跡の調査」「鶴来北部遺跡群調査報告Ⅱ－県営圃場整備事業鶴来地区埋蔵文化財発掘報告2－」石川県立埋蔵文化財センター、5－8

　　1995b「石川県内の古代建物に関する基礎的考察－掘立柱建物の平面プランを中心にして－」「社団法人　石川県埋蔵文化財保存協会年報6」社団法人石川県埋蔵文化財保存協会、62－103

北野博司　　1987　「出土土器の観察」「篠原遺跡」石川県立埋蔵文化財センター、78-82

小嶋芳孝ほか　1991　「粟田遺跡発掘調査報告書」社団法人石川県埋蔵文化財保存協会

財団法人北陸建設弘済会金沢支所　1991　「道路事業のあゆみ」建設省北陸地方建設局金沢工事事務所

田嶋明人　　1988　「古代土器編年軸の設定」「シンポジウム　北陸の古代土器研究の現状と課題　報告編」石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

出越茂和　　1989　「金沢における八～十世紀の食膳土器」「金沢市末窯跡群」158－183

北陸古代土器研究会　1988　「シンポジウム　北陸の古代土器研究の現状と課題　資料編」石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

本田秀生・安英樹ほか　2000　「野々市町末松遺跡群」財団法人石川県埋蔵文化財センター

望月精司　　1991　「戸津古窯跡群Ⅰ」石川県小松市教育委員会

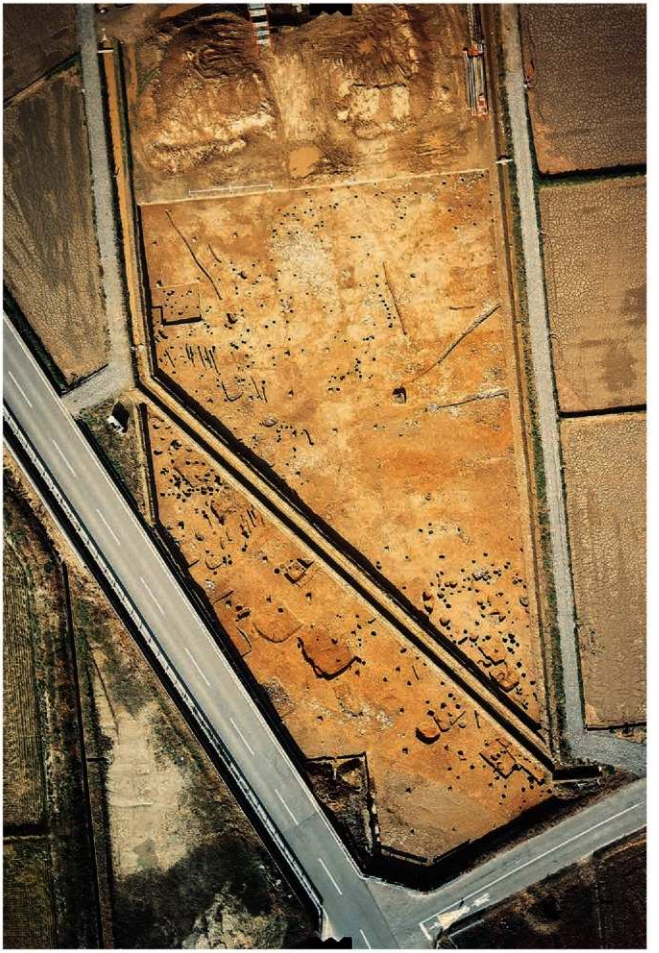
　　2002　「二ツ梨一貫山窯跡」石川県小松市教育委員会

横山貴広　　2003　「扇状地における新興開発領主層の台頭とその後の展開－古代（６世紀末～9世紀中頃）手取川扇状地を中心として－」「嬢気楼－秋山進午先生古稀記念―」富山大学考古学研究室論集　秋山新午先生古稀記念論集刊行会・六一書房、319－338

木田　清　　1996　「胎土から見た須恵器の流通と食器組成」「東大寺領横江庄Ⅱ」石川県松任市教育委員会、241－251

遺跡近景（南西から）

遺跡近景（北から）



1984年度調査区全景（上空から）

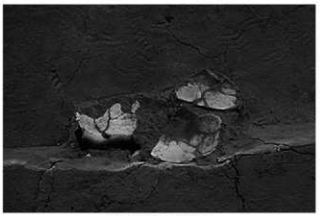
SI1,SI2完掘状況（南東から）

SI1,SI2完掘状況（北西から）

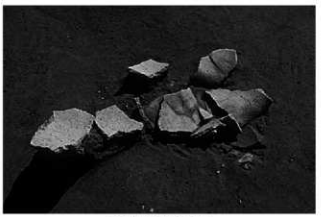
SI3遺物出土状況（南東から）

SI3完掘状況（北西から）

SI3遺物出土状況近景



SI3遺物出土状況近景



SI3遺物出土状況近景

SI3,P3遺物出土状況

SI3上面遺物出土状況近景

SI3上面遺物出土状況近景

SI3上面遺物出土状況近景

SI3遺物出土状況近景

SI4完掘状況（南東から）

SI5完掘状況（北西から）

SX1完掘状況（北東から）

SX2完掘状況（南東から）

SX3遺物出土状況（南東から）

SX3遺物出土状況近景

SX3遺物出土状況近景

SX3遺物出土状況近景

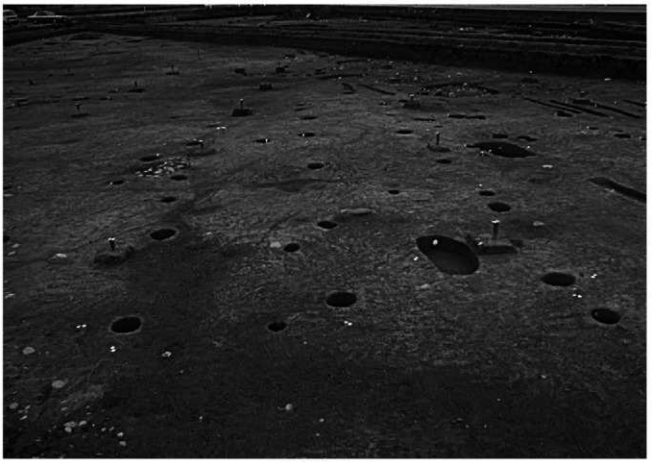
SX3遺物出土状況近景

SX3遺物出土状況近景

SX4遺物出土状況（北西から）

SB1完掘状況（北西から）

SB1完掘状況（南西から）



SB2完掘状況（北から）

SB2完掘状況（東から）

SB3完掘状況（西から）

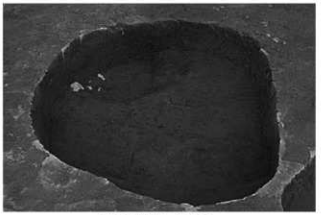
SB3完掘状況（北から）

SB4完掘状況（西から）

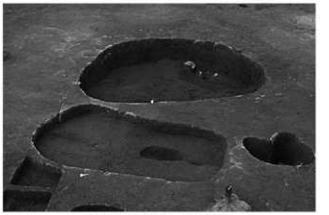
SB4完掘状況（北から）

SB5完掘状況（東から）

SB5完掘状況（北から）



SK1完掘状況（東から）



SK1,SK2完掘状況（北東から）

SK4遺物出土状況（北西から）

SK5遺物出土状況（西から）

SK5遺物出土状況近景

SK6遺物出土状況（北西から）

SK6遺物出土状況近景

SK6遺物出土状況近景

SK5,SK6完掘状況（北西から）

SK7完掘状況（南西から）

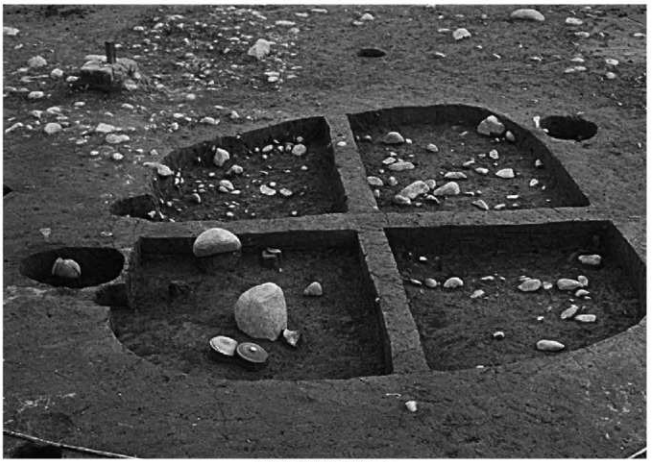
SK8完掘状況（北東から）

SK11完掘状況（北東から）

SK12完掘状況（南東から）

SK14遺物出土状況（北東から）

SK14遺物出土状況（南東から）



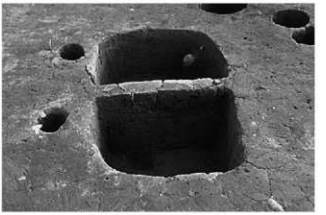
SK15遺物出土状況（北から）

SK15遺物出土状況近景

SK15遺物出土状況近景

SK16完掘状況（北東から）

SK15立石間の焼土



SK16土層断面（北西から）

SK16完掘状況（北西から）

SK16遺物出土状況近景

SK19土層断面（南から）

SK18土層断面（南から）

SK18完掘状況（北から）

SK20内焼土検出状況（東から）

SK20遺物出土状況（北西から）

SK20完掘状況（南東から）

方形土抗土層断面（北東から）

下層トレンチ完掘状況（東から）

P87遺物出土状況（北から）

P36遺物出土状況（北から）

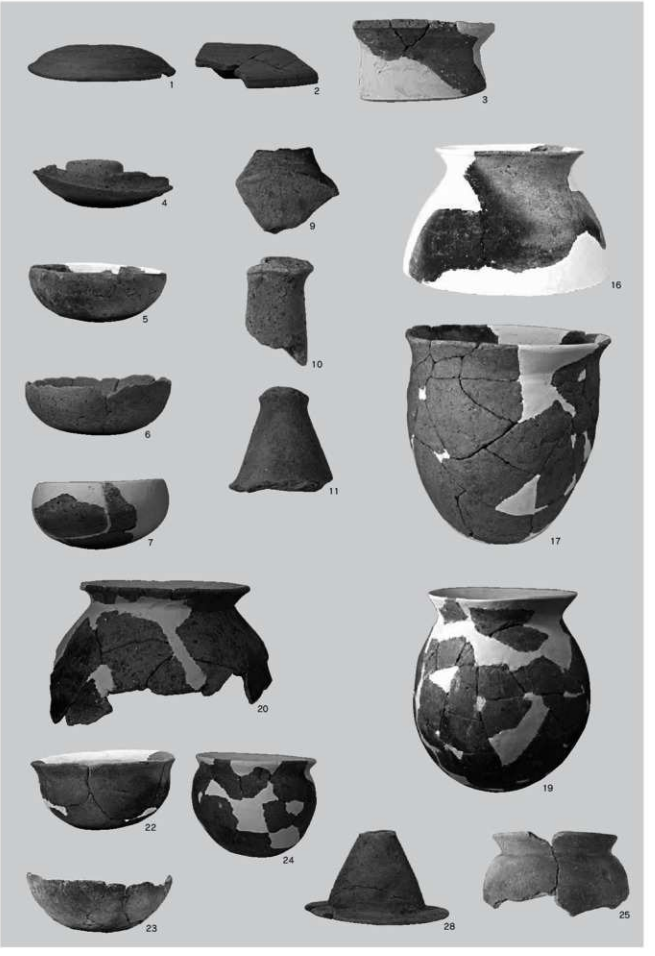
包含層出土遺物

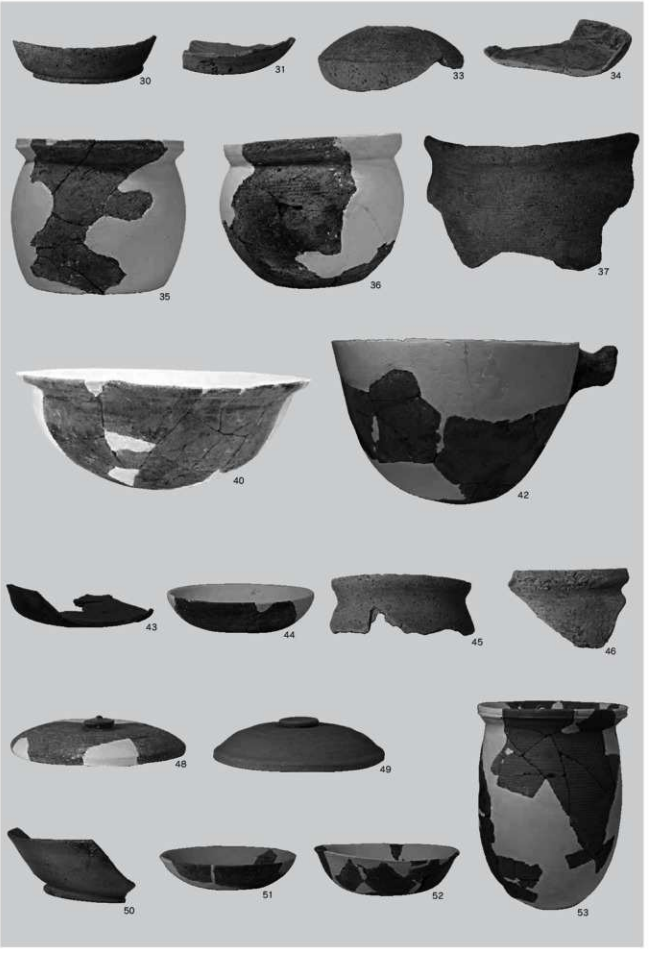
包含層出土遺物

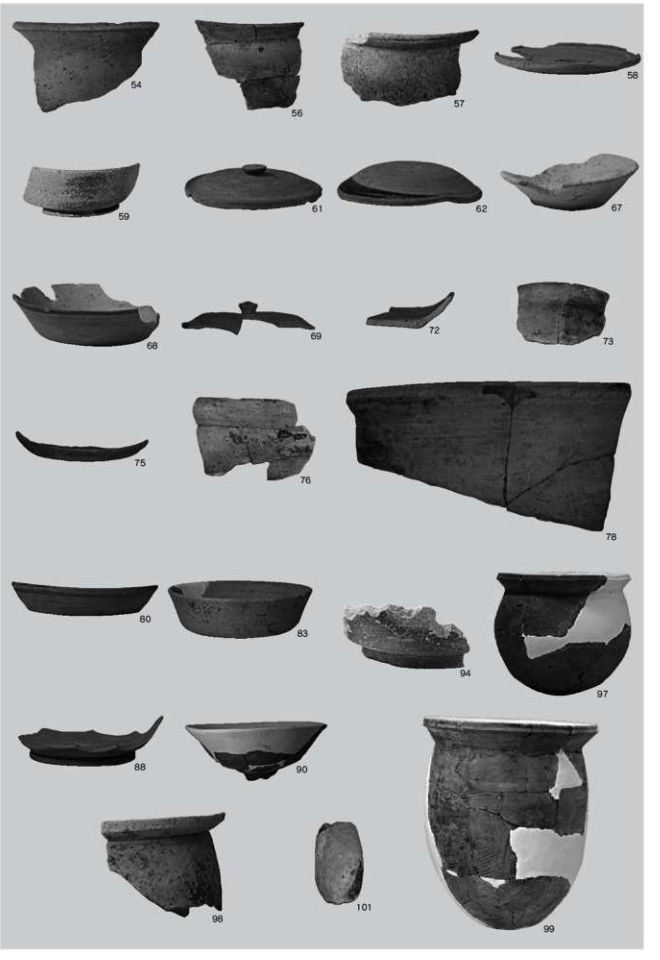
作業風景

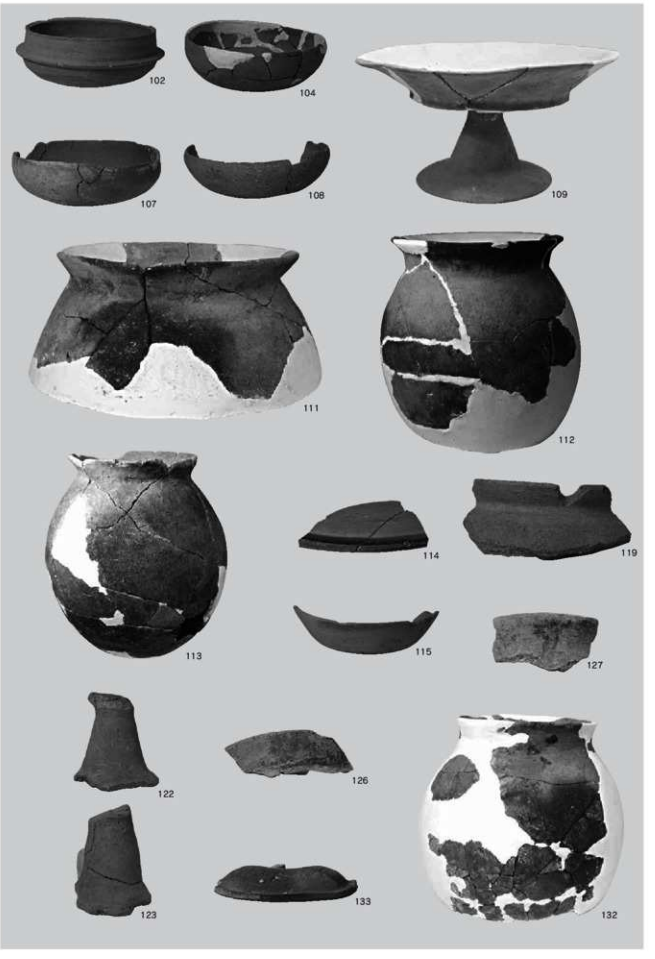
作業風景

第 1 次調査区完掘状況（北から）

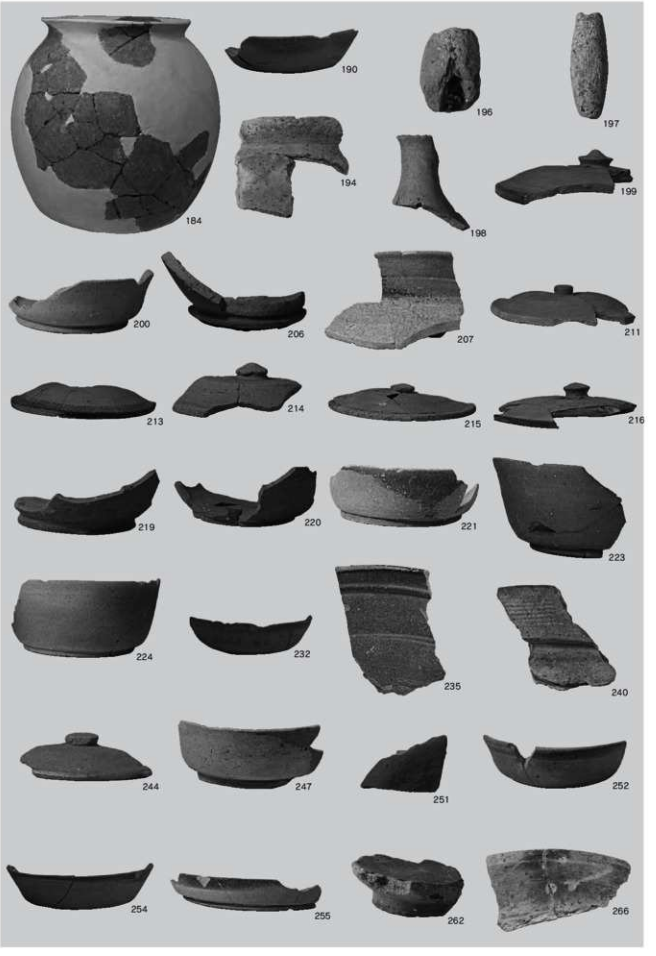

1
2
3
4
9
16
5
10
6
11
17
7
20
19
22
24
23
28
25


30
31
33
34
35
36
37
40
42
43
44
45
46
48
49
50
51
52
53


54
56
57
58
59
61
62
67
68
69
72
73
75
76
78
80
83
94
97
88
90
98
101
99


102
104
109
107
108
111
112
113
114
119
115
127
122
126
123
133
132

134
135
136
138
144
147
150
151
152
160
161
162
164
168
171
172
175
179
181
182


184
190
194
196
197
198
199
200
206
207
211
213
214
215
216
219
220
221
223
224
232
235
240
244
247
251
252
254
255
262
266

267
271
273
277
278
280
281
284
288
292
296
298
306
313
325
334
338
340
348
353
366
380
381
389
390
391
392
393

松任市　末松遺跡群Ⅰ

発行日　平成16（2004）年3月31日
発行者　石川県教育委員会
〒920－8575　石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話　076－225－1842（文化財課）

財団法人　石川県埋蔵文化財センター
〒920－1336　石川県金沢市中戸町18番地1
電話　076－229－4477
E－mail address　mail@ishikawa-maibun.or.jp
印　刷　能登印刷株式会社